



平成 25 年度版

学習指導要領を具体化する

小・中・高等学校国語科授業づくりガイドブック



子どもにとって魅力ある単元をつくる



「読むこと」編



平成 26 年 3 月

岩手県立総合教育センター

教科領域教育担当



はじめに

ガイドブック作成の意図

このガイドブックは、小・中・高等学校の先生方に日常の授業づくりに役立ててほしいという思いを込めて作成しました。

学習指導要領や学習指導要領解説国語編等から、どのような授業が求められているかを読み解き、文部科学省の教科調査官や大学の研究者等の講演や書籍、全国の研究校の公開授業等から具体的な指導法を学び、それらを再構成してこのガイドブックにまとめました。

今回は「読むこと」領域に絞り込んでガイドブックを作成しましたが、今後、「話すこと・聞くこと」領域、「書くこと」領域について研究し、ガイドブックを作成したいと考えています。

授業づくりの現状分析

これまで、岩手県内の各学校において国語科の授業づくりはどのように行われてきたのでしょうか。

国語科を研究主題に取り上げている小学校では、授業づくりは複数の先生方によって協働的に行われ、多くの成果をあげてきました。しかし、それ以外の小学校や中・高等学校では、授業づくりは先生方に任されてきたのが現状ではないでしょうか。一人で授業づくりに取り組み、悩んでいる先生方からは、「国語は何をどのように教えればいいのかがよく分からない」という声を聞くことも少なくありません。また、協働的に研究に取り組んできた小学校においても、「説明文における～」のように分野を特定して研究するケースが多く、研究した内容に限られた単元にしか汎用できないということも見受けられました。

このガイドブックは、「国語は何をどのように教えればいいのかがよく分からない」という先生方の悩みに応えられるような内容構成となっています。また、教材文のジャンルにとらわれず、「読むこと」領域であれば、すべての単元に汎用できる方法を考え提案しています。

小・中・高等学校での共通した授業づくりの必要性

このガイドブックでは、学習指導要領の趣旨等から考えて、小・中・高等学校の授業づくりに大きな差異はなく、共通した授業づくりをした方がよいという立場をとっています。

児童生徒の学ぶという行為は、校種が変わっても連続しています。しかし、指導者はこれまで、12年間の学びの連続性をあまり意識してこなかったのではないのでしょうか。

例えば、小学校で「グループや学級全体での話し合いを通して自分の考えを文章にまとめるような授業」を受けた児童が、中学校で「先生が正解を黒板にまとめたものをノートに書き写すような授業」を、高等学校で「先生の解説を聞いて大切だと判断したことのみをノートに書き留めるような授業」を受けていくことを想像してみてください。身に付けさせるべき能力や学び方が、校種ごとに無関係に指導されることによって、自分の能力や学び方を深化させたり発展させたりできない児童生徒の姿が想像できないのでしょうか。

これを「小学校ではこのようなグループ学習をさせる。中学校ではこのようにグループ学習を深化

させる。高等学校ではこのようなグループ学習に発展させる。」と小・中・高等学校の指導者が連携しあって指導したらどうでしょう。児童生徒は容易く学びの連続性を意識し、学び方を身に付け、効率的に国語の能力を身に付けることができるはずです。

そのためには、小学校から高等学校まで身に付けなければならない能力や学び方を系統的にとらえ、どのように教えるのか・学ばせるのかについて、小・中・高等学校の指導者が連携して授業づくりに取り組むことが必要です。このガイドブックがそのきっかけとなることを期待しています。

ガイドブックの構成

このガイドブックは、「Ⅰ 理論編」「Ⅱ 実践編」「Ⅲ 資料編」の三部構成となっています。

「Ⅰ 理論編」では、学校教育の中で国語科が果たすべき役割として、どのような態度や能力を育成すべきなのか、その方向性を示しています。そして、そのためにはどのような指導が必要で、どのような手順で授業づくりをするべきなのかをまとめました。その中で、単元構想の仕方、本時の構想の仕方のモデルとなる学習過程を提案しています。

「Ⅱ 実践編」には、これまでに単元開発してきた中学校第1学年から中学校第3学年までの六つの単元の実践例を載せました。今後は、共同研究員等による小学校や高等学校の実践例も追加していく予定です。

「Ⅲ 資料編」には、「Ⅰ 理論編」の根拠となる資料や具体的な説明資料を載せています。

ガイドブックの活用法

国語科では何を指導すればよいのでしょうか。それは、学習指導要領の目標や内容であることは言うまでもありません。ですから、教科書の教材文を読む前に学習指導要領や学習指導要領解説を熟読し、12年間の系統性の中で、指導内容を具体的なレベルまで絞り込んで把握し指導することが必要となります。それが「教材文を教えるのではなく教材文で教える」ことにつながり、「活動あって学びなし」という課題を克服することにもつながります。このガイドブックには、指導内容を系統的・具体的に把握するための工夫がなされています。

また、国語科ではどのように指導すればよいのでしょうか。指導法には様々な方法があることは言うまでもありません。それぞれの学校で児童生徒の実態に合わせて工夫することが求められています。しかし、「指導法には様々な方法があるのだからそれぞれが工夫しなさい」と言われても、悩んでいる先生方にとっては困り感が増すばかりです。そこで、授業づくりの一つのモデルとしてこのガイドブックを作成しました。それぞれの先生方がここからヒントを得て、創意工夫を凝らした魅力的な授業づくり・単元づくりをしてくださることを願います。

平成26年2月14日

目次

はじめに

I 理論編

- 1 「読むこと」領域で育成すべき態度や能力・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 どのような指導が必要か・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 3 「授業づくりの手順」と「指導の充実」・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
 - (1) 目標や内容の系統性を把握する・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
 - (2) 年間指導計画を工夫する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
 - (3) 単元を構想する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
 - ◆A 多読や一冊の本を丸ごと読むことにつながる学習過程・・・・・・・・8
 - ◆B 一教材文で表現する学習過程・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
 - ◆C 一教材文を表現モデルそのものにとらえる学習過程・・・・・・・・12
 - ◆第2次の指導の転換について・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
 - ◆単元展開の具体について・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
 - ◆「表現する読書過程」の各段階について・・・・・・・・・・16
 - (4) 本時を構想する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
 - ◆本時の学習過程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
 - ◆単元の学習過程と本時の学習過程（関係イメージ）・・・・・・・・24
 - ◆本時の学習過程の各段階について・・・・・・・・・・・・・・・・25
 - (5) 評価を工夫改善する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
 - ◆評価の進め方（手順）について・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
 - ◆ノートやワークシート、作品、実演や映像による評価の工夫について・・30
 - ◆ペーパーテストによる評価の工夫について・・・・・・・・・・31
 - ◆レポート、質問紙、面接による評価の工夫について・・・・・・・・32

II 実践編

- A 多読や一冊の本を丸ごと読むことにつながる学習過程例
 - ◆中学校第1学年 光村；「竹取物語(古典)」・・・・・・・・・・33
 - ◆中学校第1学年 光村；「少年の日の思い出(小説)」・・・・・・・・37
 - ◆中学校第2学年 光村；「明日(詩)」・・・・・・・・・・・・・・・・41
 - ◆中学校第3学年 光村；「握手(小説)」・・・・・・・・・・45
 - ◆中学校第3学年 光村；「月の起源を探る(説明文)」・・・・・・・・49
- C 一教材文を表現モデルそのものにとらえる学習過程例
 - ◆中学校第2学年 光村；「枕草子(古典)」・・・・・・・・・・55

III 資料編

- ◆PISA 調査における「読解力」の定義、学校教育法における「教育の目標」と「学力の三要素」、学習指導要領「国語科改訂の趣旨」、第2期教育振興基本計画・・60
- ◆指導系統表の整理例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
- ◆同一言語活動（本の紹介ポスター）の系統表例1・・・・・・・・・・67
- ◆同一言語活動（本の紹介ポスター）の系統表例2・・・・・・・・・・70
- ◆マトリックス型年間指導計画表例（中学校第2学年「読むこと」）・・・・・・・・71
- ◆マトリックス型年間指導計画表例（中学校第1学年～第3学年「読むこと」）・・72
- ◆単元の学習過程と本時の学習過程（関係イメージ）・・・・・・・・・・73
- ◆交流充実のための手立て・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75
- ◆思考力・判断力・表現力向上のための手立て・・・・・・・・・・76
- ◆単元の評価計画例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・77
- ◆単元構想表の書き方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・79
- 【引用文献・参考文献】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80

おわりに

I 理論編

このページは空白です

1 「読むこと」領域で育成すべき態度や能力

★このガイドブックでは、教育基本法に示されている教育の目的を達成するために国語科の「読むこと」領域で育成すべき態度や能力を、大きな視点で次の5つととらえました。

- 1 読書に主体的に取り組む態度
- 2 実生活に生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる言語に関わる基礎的な知識及び技能
- 3 実生活に生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる思考力、判断力、表現力など
- 4 国語を主体的に学ぼうとする意欲
- 5 他者と協働するためのコミュニケーション能力や学習力

Q1 「育成すべき態度や能力」の意味するものは何ですか？

A1 教育は「人格の完成等」を目的として行われるものです。その目的の達成に向けて、国語科「読むこと」領域で指導すべきものは何かを考えて表したものです。

Q2 なぜ、この5つととらえたのですか？

A2 学校教育法や学習指導要領解説、PISA調査の報告書、第2期教育振興基本計画(H25.6.14閣議決定)などから、この5つにまとめました。

Q3 課題を発見する力や解決する力も大切だと思うのですが？

A3 その通りです。上記のとらえでは、学び方を身に付けるという意味で「学習力」と呼び、その中に課題を発見する力や解決する力を含めて考えています。

☞根拠となる資料は、「Ⅲ 資料編(p60)」へ

2 どのような指導が必要か

★国語科で育成すべき態度や能力（p1）をはぐくむためには、次のような10項目の指導の充実を図る必要があります。

指導の充実 10項目

- 1 系統的，発展的な指導（各教科等，各学年相互間の関連）
- 2 効果的な指導（指導内容のまとめ方や重点の置き方）
- 3 言語活動の充実（知識・技能の活用を図る学習活動，言語環境）
- 4 自主的，自発的な学習（体験的な学習，問題解決的な学習）
- 5 見通しと振り返り
- 6 学習形態（個別指導やグループ別指導）や指導方法（課題学習，発展的な学習）
- 7 学校図書館の利用（主体的，意欲的な学習活動，読書活動の充実）
- 8 評価の工夫（よい点や進歩の状況などの評価，過程や成果の評価，指導改善，学習意欲の向上）
- 9 言語の教育としての立場を一層重視
 - 的確に理解する能力
 - 論理的に思考し表現する能力
 - 言葉で伝え合う能力
 - 感性や情緒
- 10 実生活で生きてはたらき，各教科等の学習の基本ともなる国語の能力の育成

1～8は，学習指導要領解説総則編「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」の解説から，9と10は，学習指導要領解説国語編「国語科改訂の趣旨」から導き出したものです。

1～10について，授業づくりのどの段階で，どのような手立てで充実を図ればよいのかについては，次ページからの「授業づくりの手順」で解説しています。



3 「授業づくりの手順」と「指導の充実」

p2「指導の充実 10 項目」

(1) 目標や内容の 系統性を把握

p 4～5

○学習指導要領解説国語編から
12年間の指導系統表を整理する

1 系統的、発展的な指導

(2) 年間指導計画 を工夫

p 6

○指導の効果を考えて、マトリックス型年間指導計画を作成する

2 効果的な指導

(1)と(2)は、年度末までにまとめておく必要があります。



指導と評価は一体だから、指導計画は評価計画でもあることを意識してください。

(3) 単元を構想

p 7～21

○系統性と年間指導計画をふまえて、単元を貫く言語活動を位置づけた構想をする

3 言語活動の充実



単元を構想する際に、優れた実践はどんどん真似して取り入れていきましょう。

4 自主的、自発的な学習

5 見通しと振り返り

6 学習形態や指導方法

(4) 本時を構想

p 22～27

○単元の指導計画のもと、学習場面における言語活動の充実を意識して本時を構想し、実践する

7 学校図書館の利用

8 評価の工夫

(5) 評価を工夫改善

p 28～32

○指導を振り返り授業改善に生かす視点を大事にする

○指導に生かすための評価と記録に残すための評価を行う

○適切な評価問題を開発する

9 言語の教育としての立場

10 実生活で生き、各教科等の学習の基本

3-(1) 目標や内容の系統性を把握する

★授業づくりの第一歩は、児童生徒の実態を把握し、指導すべき事項を確定することです。12年間の目標と内容を表に整理することで、指導すべき事項が明確になります。

【小学校「C 読むこと」の系統表】

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
目標	(3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。	(3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。	(3) 目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。
	(1) 前段＝読む能力、後段＝読書態度（全学年共通）	(2) 目的に応じ＝読むことによって何をしようとするのか、	どのように活用しようとするのか ⇒文章全体に対応する（高学年）
	(2) 本や文章の内容や構成の特徴に着目して読む ① 科学的な内容の本や文章 ・時間や事柄の順序に従って内容を押さえて読む ② 文学的な絵本や挿話 ・場面の様子を押さえながら想像を広げて読む (3) 楽しんで読書する態度＝自ら楽しんだり知識を得たりするために読書しようとする態度 (4) 本や文章を読むことが楽しく、生活の中で役立つことなどを実感させるため、日常的に読む習慣を付ける	(3) 目的に応じていろいろな本や文章を分析的に読む ① 内容の中心をとらえる ② 段落相互の関係を考え、全体の構成を把握 ③ 自分の考えをまとめたりしながら読む (4) 幅広く読書する態度 ① 読書の量的向上、読書の分野を広げる質的向上 ② 読書の大切さや価値を理解する	(3) 目的に応じて計画的に読書する ① 楽しむために、調べるために、知的欲求を満たすためになど、 ② 複数の本や文章を比べて読み、文章全体から内容や要旨を把握し、自分の考えをまとめる (4) 読書により考えを広めたり深めたりする態度 ・書き手の思考に即して読むことで、自分の思考も論理的になり、思考が深められる
音読	【音読の働き】 ① 自分が理解しているかどうか確かめたり深めたりする ② 他が理解するのを助ける ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 (1) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて ① 明確な発音 ② ひとまとまりの語や文 ③ 言葉の響きやリズム (2) 「A話すこと・聞くこと」と関連付けて指導する ① 姿勢や口形 ② 声の大きさや速さ ③ はっきりした発音 (3) 指導事項イ～カとかかわらせて指導 ① 繰り返し音読する機会を設ける ② 自分の声を自分で聞きながら音読する習慣 ③ 他の人に聞いてもらうなど、聞くことを意識する (4) 音読の方法 ① 教師が読んだ後に読む ② グループでの役割読み	ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 (1) 文章の内容をよく理解し、自分の思いや考えと合わせながらよく分かるように音読する (2) 内容の中心や場面の様子がよく分かるように ① 一文一文などの表現だけでなく、文章全体の内容や構成からその中心を把握して音読する ② 軽重や速さなどを考えて音読の仕方を変える ③ 物語では、各場面を意識して、様子が分かるように (3) 指導事項イと関連付けて⇒音読の目的や方法を工夫 (4) 「A話すこと・聞くこと」と関連付けて指導する ① 相手を見る ② 言葉の抑揚や強弱 ③ 間の取り方 (5) 黙読も活用し、文章の内容の理解を深める ① 事柄を関連付ける ② 重要な箇所を見付ける ③ 必要に応じて速さを変えて読む	ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。 (1) 文章を読んで感じたことや思ったこと、考えたことが相手に伝わるように音読や朗読をする (2) 音読では、書き手の意図を考え自分の思いや考えと合わせて音声化する。物語や詩では、語り手や登場人物がどのように語りたのかが決める必要がある (3) 朗読は ① 読者として文章のイメージを明確にし、相手に伝えようとして音声化するものである ② 自分なりに解釈したこと、感心や感動したことを、思いや考えとしてまとめ、表現性を高めて伝える ③ 一人一人の感じ方や思い、考えの違いを大事にし、どのように音声化すれば聞き手によく伝わってもらえるか考え、相互に朗読し合っ楽しんで (4) 音読や朗読の工夫＝音読や朗読の発表会、朗読劇や群読、身体的な表現なども交えた劇など

Q1 この系統表はどうやって整理したのですか？

A1 学習指導要領解説国語編の付録の表に本編の解説を加えたものです。

Q2 このように表を整理するとどんなよいことがあるのですか？

A2 例えば、上の表で目標を見ると、後段の読書態度では、低学年では「自ら楽しむ」、中学年では「読書の量的・質的向上」、高学年では「書き手の思考に即して読む」のように段階的に指導すればよいことが読み取れます。このように、指導事項についても各学年でどのように指導すればよいかについて、具体的に把握することができるようになります。小学校、中学校、高等学校を読み比べることで、その学年の指導事項を具体的につかむことができます。指導しようとする指導事項をマークし、それに関連する指導事項を学年や校種を超えてマークしていくことで、指導すべき内容がより明確になっていきます。

☞12年間の系統表は、「Ⅲ 資料編(p61～66)」へ

★下の表のように系統表を整理すると、「読書ポスターを作る」という同じ言語活動でも、系統性がとらえやすくなり、学年に応じ段階的に指導をすることが可能です。

【小学校 同一言語活動での系統表例】

段階	キャッチコピー	引用（書き抜き）	本文（感想・紹介・推薦・批評）	イラスト
小学校 低学年	○すきな理由を端的に表す（20字以内）	○すきなセリフ、行動、場面 ○感じたこと経験したこと考えたことを書き添える ○書き抜いた言葉や文を関連付けて整理する（2箇所以内）	○情景や場面の様子の変化、事件の展開と解決、登場人物の性格や行動、心情の変化などと、すきな理由を自分の知識や経験、読書体験等に結び付けて書く（150字以内）	○すきな行動、場面
小学校 中学年	○感想の言葉を反映させる（20字程度） ・感想語彙	○紹介したい登場人物の言動の変化（2～3箇所程度）	○あらすじ（要約） ○場面の移り変わりから発見したこと、想像したこと（300字程度）	○作品世界を表す象徴としてとらえたもの
小学校 高学年	○お薦めの言葉を反映させる（20字程度） ・評価語彙	○登場人物の相互関係を表す叙述 ○感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述 ○象徴性や暗示性の高い表現や内容（3箇所程度）	○どのような人にお薦めの本かを想定する ○優れた叙述について（400字程度）	○メッセージや題材を強く意識させるもの

【中1本の紹介ポスター】



Q1 上の系統表はどうやって整理したのですか？

A1 「読書ポスター」の「キャッチコピー、引用、本文、イラスト」という4つのパーツに、どんな要素を入れ込めばよいかを学習指導要領の指導事項から導き出したものです。

Q2 この表を整理すると、どんなよいことがあるのですか？

A2 同じパーツをもった「読書ポスター」でも、学年に応じた指導事項を取り上げることで、系統的・段階的な指導が可能です。児童生徒にとっては、活動する力そのものが高まる利点もあります。大事なものは、作品の出来ではなく、指導事項に合った内容となっているかどうかです。



☞同一言語活動での系統表例は、「Ⅲ 資料編(p67～70)」へ

3 - (2) 年間指導計画を工夫する

★年間指導計画は児童生徒の実態に応じて、目標と指導事項の関連を十分研究し、まとめ方を工夫したり軽重を加えたりして、効果的に位置付ける必要があります。

【中学校第2学年 マトリックス型年間指導計画表例】

月		5月	6月	10月	2月	
時数 (年間45～65時間)		読4書2	読4書3	読5書3	読5書3	
教科書教材名						
4月	明日(詩)読6 枕草子(古文)読4書3					
5月	やさしい日本語(説明)読4書2 (話・聞;プレゼン「お蔭めの木」)8	やさしい日本語	五重塔はなぜ倒れないか	君は「最後の晩餐」を知っているか	モアイは語る —地球の未来	
6月	扇の的(古文)読4書4 五重の塔はなぜ倒れないか(説明)読4書3					
7月	旅する絵描き・益土産(物語・小説)読4書2 (書写)6					
8月	旅する絵描き・益土産(物語・小説)書2 (書;図・グラフ「発表資料」)4					
9月	アイスプラネット・字のない葉書(小説・随筆)読4書4 (書写)8					
10月	君は「最後の晩餐」を知っているか(評論)読5書3 短歌(短歌)読3書3					
11月	仁和寺にある法師(古文)読4書3 (話・聞;パネル「例、原子力発電」)8					
12月	走れメロス(小説)4 (書写)6					
1月	走れメロス(小説)3 漢詩の風景(漢文)4					
2月	モアイは語る(論説)読5書3 言葉の力(随筆)2 (話・聞・書;意見文「生活改善」)話4書4					
3月	話・聞20 書く40 読む60 書写20					
(1) 指導事項						説明
語句の意味の理解	ア 抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。	抽象的な概念を表す語句 心情を表す語句	○	○	○	○
文章の解釈	イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。	全体と部分の関係	○	○	○	○
		例示や描写の効果 人物の言動の意味	○	○	○	○
自分の考えの形成	ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。	構成や展開について根拠を明確	◎		○	
		表現の特徴について根拠を明確	◎		○	
	エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。	ものの見方や考え方について考える	◎			◎
読書と情報	オ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。	適切な情報を得て考えをまとめる		◎	◎	○

Q1 このマトリックス型の年間指導計画表は、どうやって作成したのですか？

A1 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」を参考にして作成したものです。

Q2 このような表を作成すると、どんなよいことがあるのですか？

A2 このようなマトリックス型の表を作成することによって、指導事項の欠落が生じないようにすることができます。また、上の表でいうと「指導事項 オ」の「多様な方法で本や文章を選んで読む力」を、どの時期に・どの単元で・どのように指導するのかをしっかりと意識することができます。

☞マトリックス型年間指導計画表例は、「Ⅲ 資料編(p71～72)」へ

3 - (3) 単元を構想する

Q1 「単元を構想する」と言っても、教科書通り、指導書通りに教えればよいのではないですか？

A1 授業は、児童生徒の興味・関心や身に付いている能力などの実態に応じて、その児童生徒を受けもつ先生が、学習指導要領の目標や内容を達成するために行うものです。ですから、国語の場合は、教科書を中心としながら、どのような本や文章を使って授業をつくっていくかは、それぞれの先生方が考えなければならないことなのです。

Q2 そんなことを言われても、単元を構想するなんて難しいのですか？

A2 そうですね。そういう人のために、このガイドブックでは、素晴らしい実践をなさっている全国の先生方の単元のつくり方を参考にして、それをパターン化してみました。こうすれば必ず上手くいくというマニュアルではないので、単元づくりのヒントにしてください。

Q3 「単元のつくり方のパターン」って、どうやってパターン化したのですか？

A3 それぞれの先生方の単元の指導計画から共通性を見つけて、それをもとに9段階の学習過程としてまとめました。それが「表現する読書過程A」。その指導過程をもとに7段階に簡略化したものが「表現する読書過程B」、6段階にしたものが「表現する読書過程C」です。

Q4 なぜ「表現する読書過程」というネーミングなのですか？

A4 「読むこと」の指導は、目標に設定されているように「目的に応じて読むこと」が前提となっています。このガイドブックでは、読む目的を児童生徒の表現活動に置くことにしました。児童生徒一人一人に表現させ、主体的な学習が展開できるように考えたものです。

A 多読や一冊の本を丸ごと読むことにつながる学習過程

【表現する読書過程 A】

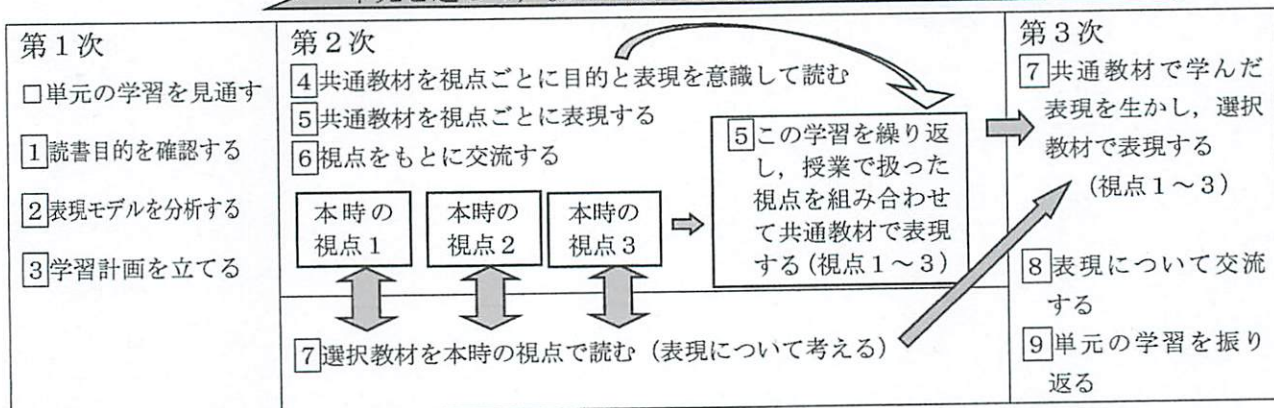
- 1 読書目的を確認する
- 2 表現モデルを分析する
- 3 学習計画を立てる
- 4 共通教材を目的と表現を意識して読む
- 5 共通教材で表現する
- 6 表現について交流する
- 7 選択教材で表現する
- 8 表現について交流する
- 9 単元の学習を振り返る



いよいよ、具体的な「読むこと」の単元構想について解説を始めます。

【単元構想 A 1 パターン】

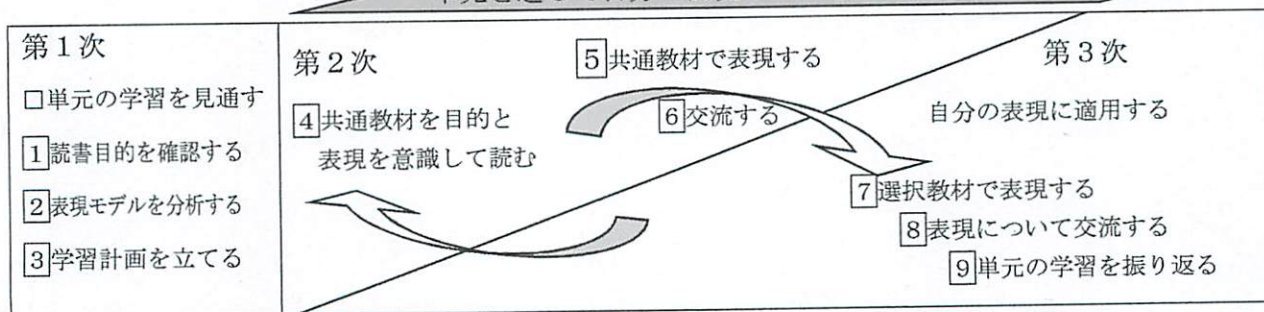
単元を通して、視点ごとに自分の表現したい内容を学んでいく



単位時間内に視点をもって、選択教材（並行読書教材）を読む

【単元構想 A 2 パターン】

単元を通して自分の表現したい思いを膨らませる



家庭学習や朝学習、休み時間、放課後等を利用して並行読書する

※図の一部引用 水戸部修治「単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくり」（初等教育資料 2013. 5月号 p. 53, p. 55）

Q1 「単元構想A1パターンとA2パターン」の違いがよく分からないのですが？



A1 「A1パターン」は、最終的な表現が明確にパーツに分けられる場合の展開例です。単位時間ごとにパーツを完成させていく展開です。そして、完成させたパーツを組み合わせて表現することになります。でも、表現を明確にパーツに分けられない場合や分けられない方がいい場合があります。それが「A2パターン」です。「A2」では、並行読書を授業中ではなく家庭や朝読書で行う方が、効果が得られます。

Q2 表現をパーツに分けるって、どういうことですか？

A2 下の例で言うと、「読書ポスター」の「キャッチコピー、引用、紹介文、イラスト」の4つの要素のことです。



A1パターンとA2パターンの具体的展開例の比較

「少年の日の思い出」を共通教材として表現する例	
A1パターン（読みの視点が表現のパーツになる）	A2パターン（読みの視点が表現全体に表れる）
<ol style="list-style-type: none"> 1 「読書ポスター」で交流するという目的をもつ 2 教師作成のモデル「読書ポスター」を分析する (読書ポスターの内容と書き方を学ぶ) 3 「読書ポスター」を作るための学習計画を立てる 4 「読書ポスター」を作る目的で、「少年の日の思い出」を、一つの視点で丸ごと読み、 5 一つの視点で表現をまとめ、 6 表現したものについて交流する <ul style="list-style-type: none"> ・一単位時間に、読書ポスターの要素である「キャッチコピー、引用、紹介文、イラスト」のうち、一つの視点で教材文を丸ごと読む（4つの視点なのでこの授業パターンを4回繰り返す） ・単位時間で、視点のまとめと交流を行う ・一単位時間に、選択教材の並行読書を行う <ol style="list-style-type: none"> 5 「少年の日の思い出」で4の視点ごとの読みを組み合わせ、「読書ポスター」を完成させる 6 「読書ポスター」を使っての交流 7 自身の選択教材で「読書ポスター」を作る 8 選択教材の「読書ポスター」で交流する 9 単元の学習を振り返る 	<ol style="list-style-type: none"> 1 「読書会」で交流するという目的をもつ 2 教師提示のビデオ「読書会」を分析する (読書会の内容とやり方を学ぶ) 3 「読書会」をするための学習計画を立てる 4 「グループ読書会」をする目的で「少年の日の思い出」を読む <ul style="list-style-type: none"> ・読書会で話題にしたい内容（人物設定、人物相互の関係、人物の心情や行動、構成や展開、表現の特徴、書き手のものの見方や考え方、自分のものの見方や考え方との比較…）を読む（一単位時間に一つの視点とは限らない） ・単位時間で、視点のまとめは行わない ・単位時間内に並行読書は行わない 5 「少年の日の思い出」で「グループ読書会」をする <ul style="list-style-type: none"> ・④の読みを再構成しながら発言する 6 「グループ読書会」で感じた内容を交流する 7 グループの選択教材で「読書会」をする 8 「グループ読書会」で感じた内容を交流する 9 単元の学習を振り返る

☞ A1パターンの実践例は「Ⅱ 実践編 (p33~54)」へ

B 一教材文で表現する学習過程

【表現する読書過程B】

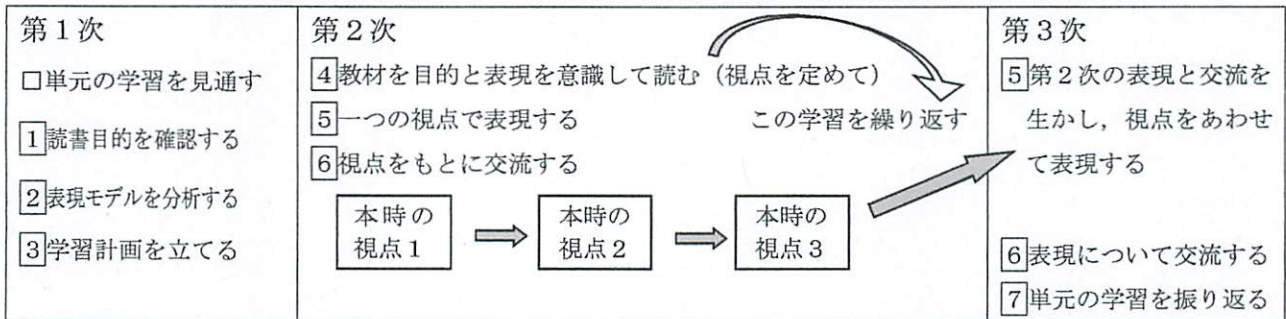
- 1 読書目的を確認する
- 2 表現モデルを分析する
- 3 学習計画を立てる
- 4 目的と表現を意識して読む
- 5 表現する
- 6 表現について交流する
- 7 単元の学習を振り返る



二つ目のパターンを説明します。
 Aパターンは、多読や一冊の本を丸ごと読む学習過程でしたが、Bパターンは、教科書の一教材をじっくり読むことが活動の中心となる学習過程です。
 Bパターンは、多読につなげないだけで、基本はAパターンと同じと考えて構いません。

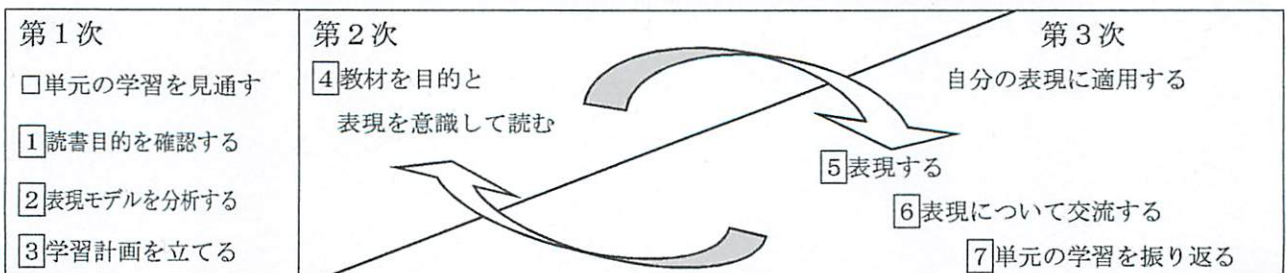
【単元構想B 1パターン】

単元を通して、視点ごとに自分の表現したい内容を学んでいく



【単元構想B 2パターン】

単元を通して自分の表現したい思いを膨らませる



※図の一部引用 水戸部修治「単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくり」(初等教育資料 2013. 5月号 p. 53, p. 55)

Q1 教科書教材のみを読解していくのであれば、これまでの指導と同じではありませんか？

A1 これまでとの違いを意識したいのは、児童生徒に「自分が表現したい」という目的をもって主体的に読ませることや、詳細に前から順番に読むのではなく、視点をもって文章を丸ごと何度も読み返す指導にチェンジすることです。(詳細はp14へ)

Q2 「表現するために読む」とは、例えばどういうことですか？

A2 「説明するため、報告するため、感想をまとめるため、紹介するため、助言するため、提案するため、討論するため、推薦するため、…など」です。これらを学習指導要領の言語活動例や解説の中から見つけ出すことが大切です。



B1パターンとB2パターンの具体的展開例の比較

「少年の日の思い出」を教材として表現する例	
B1パターン (読みの視点が表現のパーツになる)	B2パターン (読みの視点は表現全体に渡る)
<ol style="list-style-type: none"> 1 「読書ポスター」で交流するという目的をもつ 2 教師作成のモデル「読書ポスター」を分析する 3 「読書ポスター」を作るための学習計画を立てる 一単位時間 <ol style="list-style-type: none"> 4 「読書ポスター」を作る目的で「少年の日の思い出」を読み、 5 一つの視点で表現をまとめ、 6 表現したものについて交流する ・一単位時間に、読書ポスターの要素のうちの1つの視点で教材文を丸ごと読む(4つの視点なのでこの授業パターンを4回繰り返す) ・一単位時間で、視点のまとめと交流を行う 5 「少年の日の思い出」で4の視点ごとの読みを組み合わせ、「読書ポスター」を完成させる 6 「読書ポスター」を使って多様な感じ方について交流する 7 単元の学習を振り返る 	<ol style="list-style-type: none"> 1 物語の構成を確認し、「少年の日の思い出」を読んで「あと話」を書くという目的をもつ 2 既習の教材等で、「現在—過去—現在」の展開で書かれた物語の書き方を分析する 3 「あと話」を書くための学習計画を立てる 4 「あと話」を書く目的で教材を読む <ul style="list-style-type: none"> ・小説の構成を読む(額縁構造と本体の小説の設定、展開、山場、結末) ・時、場、人物の設定を読む ・あらすじを読む ・表現を読む(人物描写、情景描写、文末表現) ・視点を読む(語り手) ・主題を読む 5 「あと話」を書く 6 多様な感じ方について交流する 7 単元の学習を振り返る

C 一教材文を表現モデルそのものにとらえる学習過程

【表現する読書過程C】

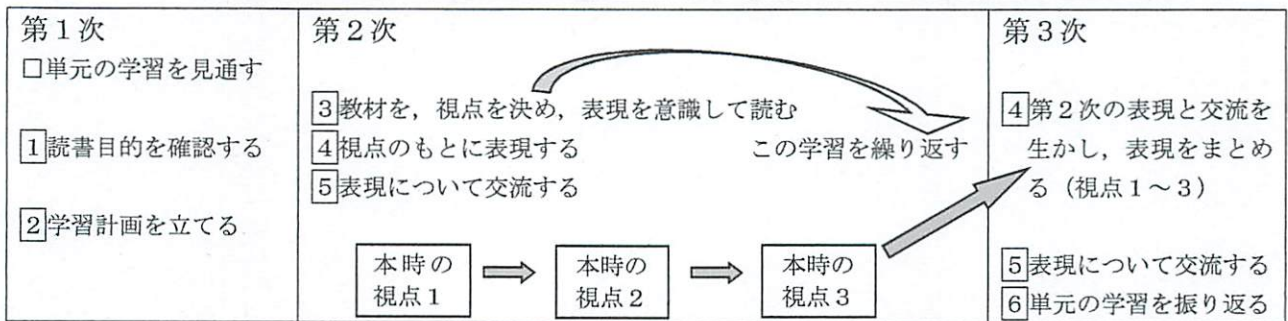
- 1 読書目的を確認する
- 2 学習計画を立てる
- 3 教材文を表現モデルとして読む
- 4 表現する
- 5 表現について交流する
- 6 単元の学習を振り返る



このパターンは、「詩を書くために好きな詩の書かれ方を読む」「随筆を書くために随筆の書かれ方を読む」…というように、自分の表現に生かすために教材文を読む学習過程です。より分析的に教材文を読むため、読解力の向上が期待できます。

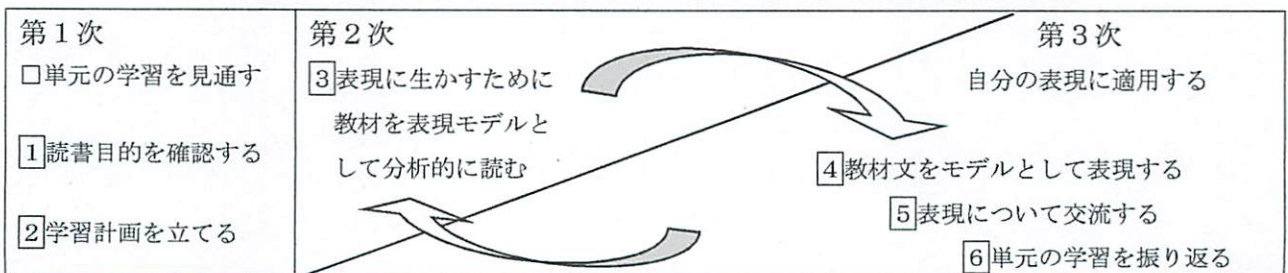
【単元構想C1パターン】

単元を通して、視点ごとに自分の表現したい内容を学んでいく



【単元構想C2パターン】

単元を通して自分の表現したい思いを膨らませる



※図の一部引用 水戸部修治「単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくり」(初等教育資料 2013. 5月号 p. 53, p. 55)

Q1 教科書教材を表現モデルにするのは難しいと思うのですが？

A1 そうですね。長い文章を表現モデルにすると、表現するときに時間がかかるという欠点があります。俳句や短歌、詩、短めの文章などがふさわしいかもしれません。でも、例えば、説明文で本論の事例の書き方を表現モデルにして、事例を付け加えるというように、部分的な表現活動を工夫すれば長い文章でも表現モデルとして活用できます。

Q2 ここまで単元構想を学んできて、表現モデルが大切だなと思ったのですが？

A2 その通りです。このガイドブックで解説している授業のつくり方の一番のポイントは、単元を貫く言語活動の表現モデルを教師が準備することです。表現モデルの重要性については、改めて18ページで解説しているので、あとでじっくり読んでください。

C1パターンとC2パターンの具体的展開例の比較

「枕草子 第一段」を教材として表現する例	「字のない葉書」を教材として表現する例
C1パターン (教材文の表現様式や内容がモデルとなる)	C2パターン (教材文の表現の特徴や内容がモデルとなる)
<ol style="list-style-type: none"> 1 随筆についての既習事項を確認し、随筆を書くために読むという目的をもつ 2 学習計画を立てる <ul style="list-style-type: none"> 3 随筆の書き方として「枕草子」を分析的に読む 4 一段落を書く (この単元では一段落を一視点ととらえる) 5 書いた段落について交流する ・一単位時間に、一段落をまとめるために、段落内の構成、一文の構成、表現、内容を読む ※表現を読むとは「古語、文末表現、対句的表現、対比的表現」などを読むこと ※内容を読むとは「季節感、自然や人間の営みへの思い」などを読むこと 4 一単位時間にまとめた段落を再構成して、文章として整合性をもたせて随筆を完成させる 5 それぞれの随筆のよさを交流する 6 単元の学習を振り返る 	<ol style="list-style-type: none"> 1 随筆についての既習事項を確認し、随筆を書くために読むという目的をもつ 2 学習計画を立てる 3 随筆の書き方として「字のない葉書」を読む <ul style="list-style-type: none"> ・題名を読む (テーマとの関係) ・構成を読む (冒頭、展開、終結) ・人物を読む (人物像、人物の相互関係) ・表現を読む (人物描写、情景描写) ・内容を読む (エピソード、筆者の気付きや考え、エピソードの意味や価値) 4 「字のない葉書」をモデルとして、随筆を完成させる 5 それぞれの随筆のよさを交流する 6 単元の学習を振り返る

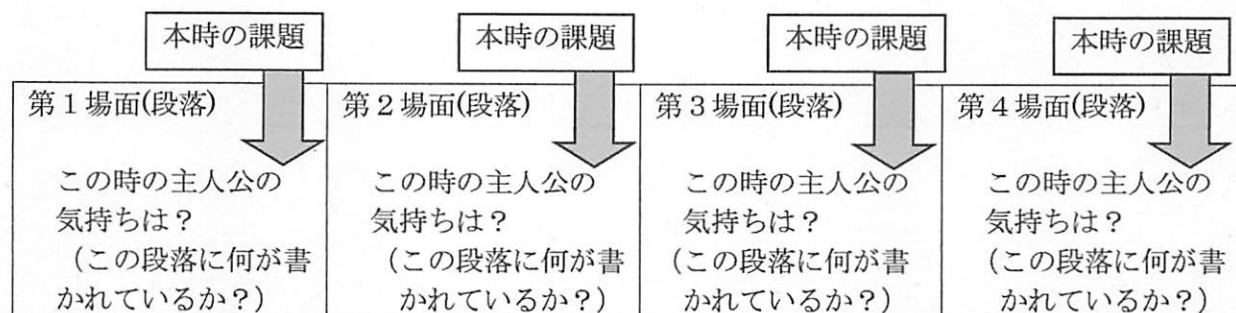
随筆を書きたい気持ちを高める

☞ Cパターンの実践例は「II 実践編 (p55~59)」へ

第2次の指導の転換について

★これまで、文章を読む学習においては、次の(1)のように毎時間同じパターンで内容を詳細に読んでいく指導が一般的に行われてきました。これからは、(2)のように視点を定めて文章を丸ごと読ませる指導が求められています。

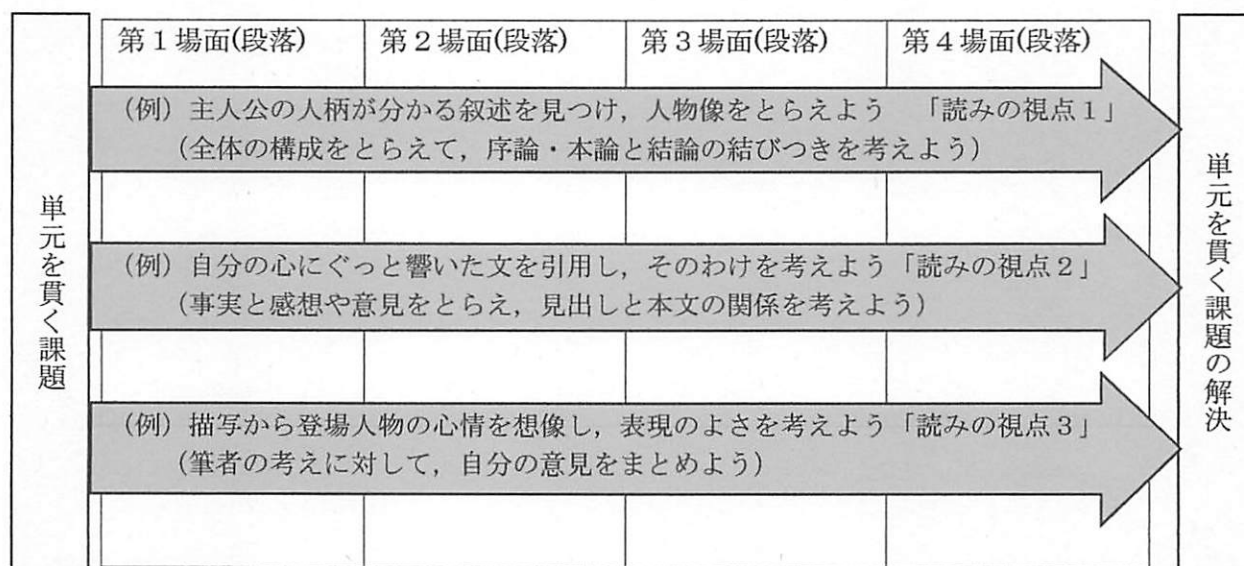
(1) これまでの典型的な指導のイメージ



○場面ごとに登場人物の心情に迫ったり、段落ごとに書かれている内容を読み取ったりする指導が多かった。

○何が書かれているかという内容の読み取りが多く、どのように書かれているか(書かれ方)について読み取ることが少なかった。

(2) これから工夫してほしい指導のイメージ



○読みの視点を定めて文章を丸ごと読む指導に転換しましょう。

○内容だけでなく書かれ方も読み取らせ、発信するための力としましょう。

○読み取って終わりではなく、読み取った内容を発信するために課題を設定するなど、目的をもって文章や本を読む指導に転換しましょう。

単元展開の具体について

★このガイドブックでは、単元の段階を3段階と考え、単元の導入を第1次、単元の展開を第2次、単元の終末を第3次と呼んでいます。また、これに加えて、単元の学習（授業）に入る前段階を第0次、単元の学習（授業）後あるいは、発展的段階を第4次と呼んでいます。

【第0次】とは

- ◆単元の学習に入る前段階にあたります。すべての単元に位置付ける必要はありませんが、児童生徒を単元の学習に誘う段階としての工夫が求められます。
- ◆単元の学習に入る前に、単元の言語活動や教材について児童生徒の興味・関心を高めたり、学習内容について考えさせたり予備知識をもたせたりする工夫が考えられます。

【第1次】とは

- ◆単元の導入にあたります。単元が、児童生徒にとってひとまとまりの意味のある学習活動となるように、単元の学習に誘う必要があります。
- ◆児童生徒の興味・関心を高める工夫や、児童生徒に単元の学習過程や学習方法、モデルを提示することによって学習のゴールを見通させる工夫が求められます。

【第2次】とは

- ◆単元の展開にあたります。「読むこと」の学習では、読むことの力を身に付けさせるための重要な段階になります。
- ◆「単元を貫く言語活動」と本時の学習活動が密接に結び付くように学習展開を工夫することが求められます。また、「自分の考えの交流」を大切にする必要があります。

【第3次】とは

- ◆単元のまとめにあたります。単元の学習を振り返り、自分にとって何が身に付いたのか、何を知ったのか、もっと知りたいことは何か、などについてまとめる段階です。
- ◆言語活動のまとめの段階でもあります。作品や作成物、表現活動を通して交流を深め、学習の達成感を味わわせるように指導することが大切です。

【第4次】とは

- ◆単元の学習後の段階や、発展学習の段階にあたります。すべての単元に位置付ける必要はありませんが、児童生徒の国語に対する興味・関心を高めたり、実社会に役立つ有用感を味わわせたりする段階として工夫が求められます。教室を飛び出した学習とも言えます。
- ◆学級の学びを同学年や他学年に広げたり、家庭や地域に広げたりすることが考えられます。大切なのは発信するだけでなく、受け手の感想など学習に対する評価を、児童生徒にフィードバックすることです。

「表現する読書過程」の各段階について

★ここからは、「表現する読書過程A」の9段階について具体的に解説します。

「表現する読書過程B・C」については、この考え方を当てはめてください。

1 読書目的を確認する

この段階は単元の第1次（導入）の序盤にあたります。

- ◆児童生徒主体の学習とすることができるかどうか教師の腕の見せ所です。
- ◆「過去にどんな本を読んでどんな学習（言語活動）をしたのか、過去の経験は今回の学習とどのようなつながりがあるのか、今回の学習内容に照らして何を知っているか等」について児童生徒自身に振り返らせ、単元の目標を意識した学習課題の設定（＝読書目的の確認）につなげる必要があります。
- ◆「何のためにテキスト（文章以外の資料や図，グラフ等を含む）を読むのか」を確認し、「何が知りたくて読むのか、今回の単元でプラスする能力等は何か」について押さえる必要があります。
- ◆単元の導入段階では、児童生徒に自分の表現力を確認させる工夫も考えられます。表現力を確認するとは、この単元で取り組む言語活動をやらせてみるということです。今の時点の力で表現することで個々の課題が明らかとなり、学ぶべき事柄が明らかとなる場合があります。その際、手本となるモデルと比べさせることは課題を見付けることにつながります。
- ◆魅力的なモデルによって、「こういうふうに表現したい」という表現意欲を高めることが単元学習成否のカギとなります。

Q 単元の導入でこれだけのことをすると
なると時間がかかると思うのですが？

A これまでの指導を振り返ると、「なぜ、その教材文を読むの？」という問いに、児童生徒はどう答えるでしょう。「教科書にあるから。先生の指示だから。」というように、受け身的で無目的な答えが返ってくるのが予想されませんか。多少時間がかかっても、主体的な学習という学習の質を高めることに大きな意義があります。



Q 「読むこと」の指導なのに、なぜ表現モデルを示して最終的に表現させるのですか？



A 本や文章を読む目的を児童生徒にもたせるためです。
表現モデルを示すことは、言語活動を充実させる意味でも、目的をもった読みを実現する意味でも、とても大切です。
モデルを示すと型にはまった表現になってしまうという心配がありますが、モデルは打ち破るためにあるものです。また、モデルを複数用意するなどの工夫で画一的な表現にならないように指導しましょう。



2 表現モデルを分析する

この段階は単元の第1次(導入)の中盤です。

- ◆表現モデルとは、文章のみを指しているわけではありません。朗読やスピーチ、プレゼンテーション、話し合い、演技等の音声言語・身体表現をはじめ、図やグラフを含むパンフレット等、あらゆる表現を指しています。
- ◆モデルを分析する際には、児童生徒がこれまでの「読みの視点」を思い出しながら、目的に照らしてどう読んでいけばよいかを議論し、「読みの視点」を考えたり見つけたりすることが大切です。
- ◆教師が既習教材や本単元の教材の一部を用いてモデルを作ることは、児童生徒が分析する際の手助けにつながります。
- ◆モデルを複数にし、児童生徒に選択させることは学習意欲を高めることにつながります。ワンパターンのモデルで型にはめることのないように留意しましょう。
- ◆モデルの分析とは、「何がどのように表現されているか」を確認することです。「何が」については、「内容的に、要素的に」分析する必要があります。段落単位での分析、一文単位での分析、文節単位での分析など、目的によって詳細さが決まります。「どのように」については、「構成、展開、表現」などをとらえる必要があります。

単元を貫く言語活動における表現モデルの重要性

☞モデルは言語活動充実の手立て

このガイドブックでは、言語活動を、単元を貫く言語活動と学習場面における言語活動の二種類と考えます。そして、それぞれに言語活動のモデルを示すことが、言語活動の充実に向けた一つの手立てとなります。特に、国語科で課題となっているのは単元を貫く言語活動であり、適切なモデルを示すことが求められています。学習場面における言語活動とは、グループでの話合いの仕方など、本時の学習活動を指します。

☞魅力的なモデルが主体的な学習を可能に

単元を貫く言語活動のモデルを単元の導入で示し、単元のゴールを児童生徒に意識させることが重要です。魅力的なモデルを示し、「自分もこういう表現をしてみたい」という意欲をもたせることが生徒を主体的な学習へと導いていきます。第2次の読みが、第3次の表現のどの部分に関係しているのかを意識させることも大切です。

☞モデルの質が言語活動充実の決め手

モデルの質が言語活動充実の決め手となります。教師が自分の知識・技能や経験のみに頼って作成するのではなく、本や新聞、プロのアナウンサーや役者など、実社会で価値あるものとして評価されているものを手本として、児童生徒の実態に合ったレベルのモデルを作成することが求められます。教師作成のモデルではなく、実社会からモデルとなる表現を児童生徒自身が探すことも考えられます。

☞大切なのは単元を貫いていること

単元を貫く言語活動が適切に設定された場合でも、単元を貫く言語活動とモデルがねじれている場合があります。例えば、「感想を読書会で交流しよう」という言語活動を設定したとします。モデルを示すとすれば「読書会のモデル」であり、「このような読書会をするためにどのように本を読めばよいか」というのが第2次の学習となるのですが、「読書会のモデル」ではなく「感想の書き方」をモデルとしている授業に出会うことが少なくありません。このような授業だと、自分の感想をまとめることはできても充実した読書会にならないことが予想されます。

☞モデルとなるような単元を貫く言語活動を教師自身が体験すること

児童生徒にやらせる前に教師自身が言語活動をしてみることで、指導のポイントが明らかとなっていきます。

3 学習計画を立てる

この段階は単元の第1次(導入)の終盤です。

- ◆単元のゴールをイメージできたら、児童生徒に過去の学習過程を参考にしながら、学習計画を立てさせる必要があります。
- ◆学習計画を児童生徒どうしで協議させることが、単元の学習を見通す力を高めることにつながります。
- ◆児童生徒に学習経験が少ないという実態がある場合、教師が学習計画を導くことも段階的指導としては必要です。例えば、学習過程をカードで示し、児童生徒自身がカードを並べ替えて学習過程をつくることも一つの工夫となります。
- ◆学習計画を立てる際には、並行読書教材(選択教材)を児童生徒に選択させる必要があります。選択方法として、課題読書(テーマ別、ジャンル別…),自由読書,指定図書(この〇〇冊の中から選べ)等が考えられます。

4 目的と表現を意識して読む

この段階は単元の第2次(展開)の序盤です。

- ◆「何のために読むのか、何をどのように表現するのか」を意識して読むことや、第1次で確認した読みの視点に従って読むこととなります。これまでの指導では、段落ごとに詳細に読んでいく指導が多く見受けられましたが、必ずしも第一段落から最終段落まで順番に詳細に読み取っていくことが読解力を高める指導とはなりません。また、必要があれば、これまで以上に部分を詳細に読むこともあります。
- ◆内容と形式の両面を読むことに留意したいものです。
- ◆他の段階もそうですが、この段階では、特に思考を促したり助けたりするようなワークシートや言語環境等の工夫を図る必要があります。
- ◆第1次において設定された読みの視点によって一人一人の児童生徒の目的読書が達成されるように配慮しなければなりません。
- ◆読みの視点は、学習指導要領の指導事項からも設定できます。

(中学2年の例=心情を表す語句,例示や描写,言動の意味,構成や展開,表現の仕方,根拠,ものの見方や考え方…)

5 共通教材で表現する

この段階は単元の第2次（展開）の中盤です。

- ◆自分が「こうしたい」という思いや意図を明確にし、モデルを参考にして表現できるように指導しなければなりません。
- ◆複数のモデルからひとつのモデルを選択したとしても、型にはまった表現になることが考えられます。個性を生かした表現となるような指導の工夫として、発達段階にふさわしい語彙指導（評価・判断を表す言葉、感情を表す言葉…）や文末表現（事実、考察、意見…）の使い分け、レトリックなどの指導の充実が考えられます。
- ◆取組としては、グループでひとつの表現を協働的にまとめるのか、個人でまとめるのかで培われる能力も違ってきます。

6 表現について交流する

この段階は単元の第2次（展開）の終盤です。

- ◆それぞれのグループや個人で表現したものを検討します。「目的が何であったか、表現者の意図と表現の結びつきはどうか、読みの視点の確かさはどうか、表現のよさがどこにあるか」等について意見を交流させましょう。
- ◆交流させる際には、その方向性を確認する必要があります。交流の方向性とは、「協議か討論か（意見をひとつにまとめるか複数に分類するか）や、交流後にどのように発表するか」であり、「司会や記録などの役割分担をどうするか」も明確にする必要があります。
- ◆学級全体で教師が中心となって児童生徒の発言をつなげるような交流ではなく、ペアやグループなど、児童生徒間で充実した交流ができるように指導を工夫する必要があります。
- ◆交流のモデルを示したり司会の進め方を示したりすることなどが、交流充実の大切な手立てとなります。
- ◆全体交流の際も、必ずしも教師が進行するのではなく、児童生徒が全体司会をできるように育てることも大切になってきます。
- ◆児童生徒の司会力や対話力が交流充実の鍵ですが、これは一朝一夕に身に付くものではなく、12年間を見通して戦略的に育成する必要があります。

7 選択教材で表現する

この段階は単元の第3次（終末）の序盤です。

- ◆4・5・6で学んだことを中心に発揮し、自分の力をさらに高め、実生活に生きてはたらく力に結び付ける段階です。
- ◆グループで取り組むよさと個人で取り組むよさを考えて、どのように取り組ませるか検討する必要があります。
- ◆選択教材を何にするかは、この段階になってから考えるのではなく、第2次の学習と並行して、各自が選書し読書しておく必要があります。

8 表現について交流する

この段階は単元の第3次（終末）の中盤です。

- ◆6の学習過程を繰り返すこととなりますが、形式的に繰り返すのではなく、6の学習を振り返り、自分たちで改善点を見付け、交流の仕方（内容面・形式面）を修正し、改善できるように指導したいものです。
- ◆6のペアやグループ編成を変えることも工夫の一つです。

9 単元の学習を振り返る

この段階は単元の第3次（終末）の終末、単元のまとめです。

- ◆単元を通して、「何を学んだか、上手く表現できたか、今後の読書生活に生かしたいことや継続して考えたいことは何か、分からなかったこと・できなかったことは何か」等の成果や課題を確認し、達成感を高めたり読書意欲を喚起したりするとともに、次単元の課題を明らかにすることで、学びの連続性を意識させる段階です。



Q まだ、よく分からないところがあるのですが、どうしたらいいのですか？

A 分からないことが出てきたら、いつでも、
岩手県立総合教育センター 教科領域教育担当
☎0198-27-2735
まで、連絡してください。



3 - (4) 本時を構想する

Q1 本時を構想すると言っても、これまでの考え方と大きな違いがあるのですか？



A1 授業づくりの考え方として、これまでと大きな違いはありません。45分～50分の授業で、児童生徒に、自分たちで考えさせたり交流させたりすることや、全員に同じ質の学習活動を保障することや、今日学ぶ内容や学び方が分かって自ら動いて学習できるようにさせること、先生がしゃべりすぎたり説明しすぎたりしないことが大切です。

Q2 当たり前なことだけど、難しい。どうしたらいいのでしょうか？

A2 そうですね。ですから、このガイドブックでは、「見通し」「学習モデル」「学習形態」「振り返り」の4つをキーワードにして、本時の学習過程を10段階にして示してみました。

Q3 ええっ～。10段階もあるのですか。時間内に終わらないのでは？

A3 10段階といっても、均等に時間をかけるわけではありません。それに、前時からの流れで省略できる段階もありますので、毎時間が10段階というわけではないのです。

Q4 すべての時間に共通する学習過程にはできないということでしょうか？

A4 そうです。でも、「学習課題」「学習の見通し」「課題解決に向けた言語活動」「課題解決」「学習の振り返り」という過程を踏むことと、「ひとりで」「ペア・グループで」「みんなで」という学習形態を工夫することは、すべての時間に共通して取り組むべきことです。



本時の学習過程

【本時の学習過程】

- 1 単元の学習過程の確認
- 2 本時の学習課題の確認
- 3 既習内容や本時の学習内容の確認
- 4 本時の学習過程の確認
- 5 表現モデル・活動モデルの確認
- 6 課題に沿った読み
- 7 考えの交流
- 8 読みのまとめ
- 9 読みの適用
- 10 本時の振り返り

一番大事なのは、児童生徒が考えたり、表現したり、交流したりする時間をしっかり確保することです。先生ばかりがしゃべっている授業はやめてください。

学習過程通りにやるのが大切ではないので注意してください。



【本時の学習過程イメージ】

学習内容（何を）と、
学習活動（どのように
学ぶのか）の確認

学習形態の工夫による
児童生徒主体の学習活動

- ひとりで学ぶ
- ペア・グループで学ぶ
- みんなで学ぶ

言語活動充実の工夫

- 学習掲示の整備
- 学習シートの工夫
- 読書環境の整備

学習内容と学習活動の
自分にとっての意義を
振り返る

【導入】 5～10分

活動	ポイント
○児童生徒が確認する ○教師が説明・指導する	○本時の学習過程を学習形態と学習内容、配当時間で示す

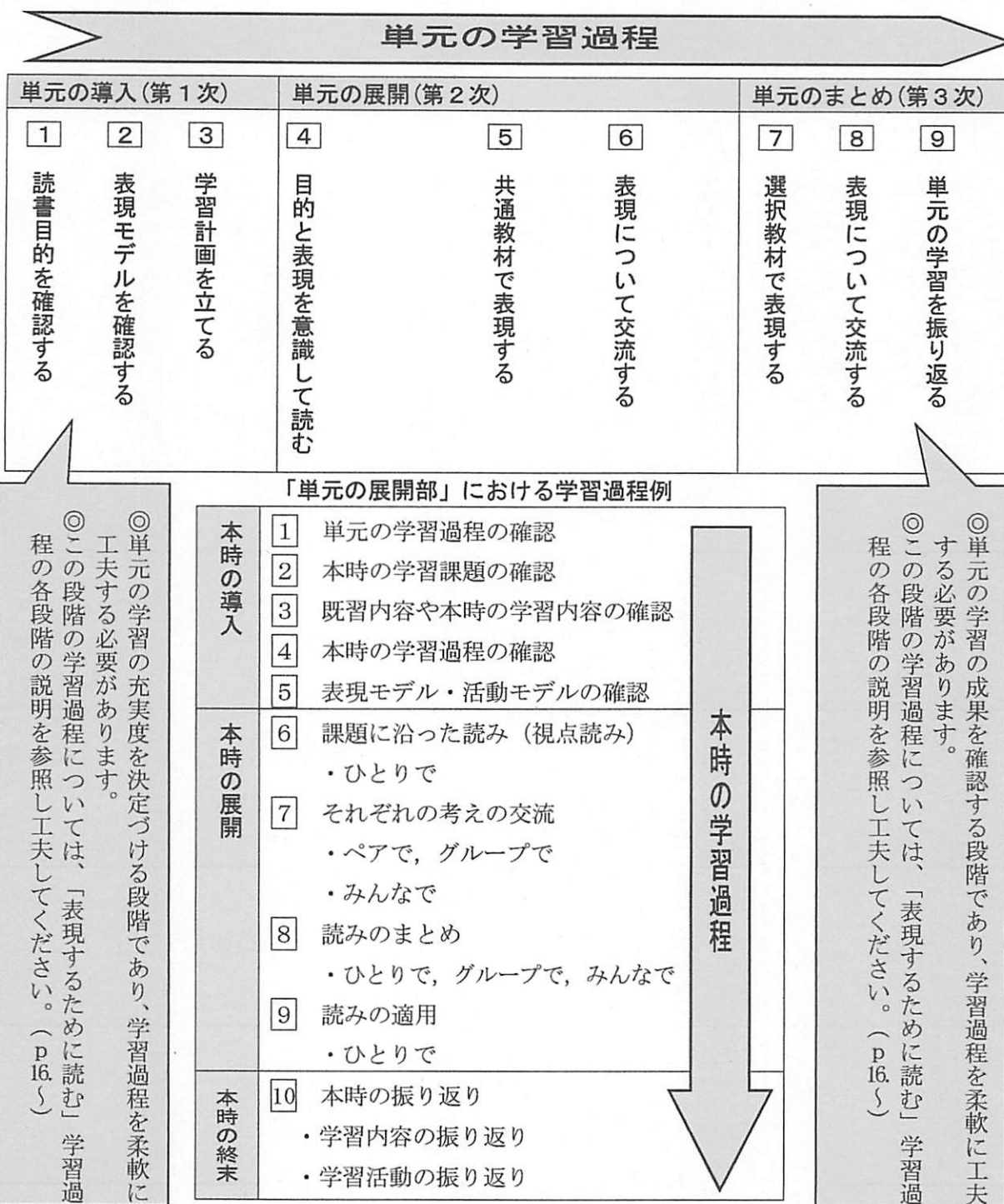
【展開】 25～35分

活動	ポイント
○児童生徒が言語活動を行う ・ひとりで学ぶ ・ペアやグループで学ぶ ・みんなで学ぶ ○教師は言語活動を支援する	○言語活動を高めるために、学習掲示や学習シートを工夫する ○読書環境を整備する ○ひとり、ペアやグループ、みんなでの学習活動を効果的に位置づける ○個人の能力を高めることを目的に行う

【まとめ】 5～10分

活動	ポイント
○ひとり、ペア・グループ、みんなでの振り返りを効果的に取り入れる	○学んだことやさらに学びたいことなどをまとめる

単元の学習過程と本時の学習過程（関係イメージ）



☞具体例とイメージ図は、「Ⅲ 資料編 (p73~74)」へ

◎単元を通して、すべての単位時間に共通して設定できると思われる学習過程と学習形態

- 【学習過程】**
- 本時の学習課題
 - 本時の学習の見通し
 - 課題解決に向けた言語活動
 - 本時の課題解決
 - 本時の学習の振り返り

- 【学習形態】**
- ひとりで
 - ペアで・グループで
 - みんなで
 - という学習形態による学習活動

本時の学習過程の各段階について

1 単元の学習過程の確認

- ◆単元の学習計画表等を使い、本時が単元の学習のどの段階に当たるのかを確認しながら学習を進めることが、単元全体の見通しをもって学習を進めることにつながります。
- ◆児童生徒に今日の学習内容について説明させるなどの工夫をすると、いっそう主体的な学習を推進できるでしょう。
- ◆1～2分程度と、あまり時間をかけないようにしましょう。

2 本時の学習課題の確認

- ◆単元の学習課題解決に向けた本時の学習課題の設定や確認をします。
- ◆単元の学習課題と本時の学習課題の結びつきを児童生徒に理解させることが必要です。
- ◆場合によって違いますが、普段は1～2分程度と、あまり時間をかけないようにしましょう。

3 既習内容や本時の学習内容の確認

- ◆学習課題の確認が終わったら、課題解決に向けて、すでに知っていること、知りたいことなどを確認する必要があります。
- ◆既習内容と結び付けて学習することが、学習内容の定着を図ったり発展させたりすることにつながります。
- ◆場合によって違いますが、普段は1～2分程度と、あまり時間をかけないようにしましょう。

4 本時の学習過程の確認

- ◆「ひとりで」「ペアで・グループで」「みんなで」の学習形態の別、活動内容、活動時間等を確認しましょう。
- ◆黒板に書く、あるいは掲示するなどして一単位時間の学習の流れを児童生徒が視覚的につかむことができるようにしましょう。
- ◆1～2分程度と、あまり時間をかけないようにしましょう。

5 表現モデル・活動モデルの確認

- ◆表現モデルとは、本時の課題解決時の具体的な姿のことです。時間をかけないためには、詳しい解説をワークシートにして配付するなどの工夫が必要です。
- ◆活動モデルとは、本時の課題解決に向けた具体的な学習活動の姿のことです。時間をかけないためには、詳しい解説をワークシートにして配付するなどの工夫が必要です。児童生徒に模範演技をさせることも理解を助けます。
- ◆3～5分程度と、あまり時間をかけないようにしましょう。
- ◆児童生徒がすでに学んだ内容であれば、モデルを示さなかったり時間を短縮したりすることも考えられます。

6 課題に沿った読み

- ◆一人で課題に沿って読み、自分の考えをまとめる段階です。
- ◆一人で作業や思考、表現ができるように、知識を与えたり、理解を深めたり、技能を高めたり、思考操作や言語操作の仕方が分かたりすることのできる解説型シートや、自分で判断力し表現するための作業用シートを準備しましょう。
- ◆「一人で考えてください」と指示した時に、一人で思考や作業ができるように十分に指導しましょう。指導があつての活動です。
- ◆5～10分程度と、たっぷり時間をかけましょう。
- ◆課題や児童生徒の実態、指導構想によっては、最初からペアやグループで活動することも考えられます。

7 それぞれの考えの交流

- ◆ペアやグループ、全体でそれぞれの読みを交流する段階です。
- ◆まず、教師が「どのような交流をどのようにさせようとしているのか」を明確にし、それを児童生徒に的確に指導する必要があります。
留意点には、以下のようなものが考えられます。
 - (1) 目的の確認…何のために何について交流するのか。
 - (2) 方向性の確認
 - ①協議（相互の知識や考え、意見などを出し合いひとつにまとめていく）か、討論（互いの考えの違いを大事にしながらか多くの考えを関連づけていく）か。
 - ②交流後の発表について
 - ・結論と理由を述べる、出された主な意見を紹介する、話し合いの経過を説明する…等、交流後、どのように発表するのか。
 - ・全グループ発表なのか、代表グループが発表なのか。
 - ・口頭発表なのか、ボード等にか書いたものの一斉掲示による発表なのか。
- ◆グループで交流させる場合には、次のように役割分担すると交流を充実させることができます。
 - (1) 司会者…交流の充実には、司会力の向上が不可欠です。学年に応じた司会力や「司会の進め方」の系統表を作成するなど、指導の充実が必要です。
 - (2) 記録者…交流が終了してから発表内容を検討する時になって、グループで相談してまとめて記録するものではありません。交流を進めながら発言の要点をまとめる力を育成しなければなりません。その際には、どのような形式の記録用紙にまとめさせるのかも重要です。
 - (3) 計時係…交流の時間や進度を管理する力（自ら時間をコントロールする力）。これまでの指導では十分とはいき切れない「時間内に話し合う力」を育成することも重要です。
 - (4) 発表者…交流後に報告する力。発表力（声の大きさ、視線、反応を見て話す、資料を示しながら話す、身振り手振りを入れて話す…等）を系統的に育成することも重要です。
- ◆「読むこと」における交流のためのグループは4名以内が適切です。ただし、「話すこと・聞くこと」の指導において意図的に4名以上での話し合いを組織することがありますので、その指導と区別しましょう。

☞さらに詳しい交流充実の手立ては、「Ⅲ 資料編 (p75～76)」へ

8 読みのまとめ

- ◆交流を終えて、本時の課題解決として読みを個人でまとめる段階です。
- ◆授業において交流をする最終的な目的は、個人の能力や技能を高めたり、個人の思考力・判断力・表現力を深めたり高めたりすることにあります。全員で同じまとめをして、それをノートに書き写すような授業をしていたのでは、個人の能力や技能、思考力・判断力・表現力は向上しません。
- ◆必ず、各個人が自分の表現でまとめを行う段階を作りましょう。
- ◆この段階になって、改めて追指導しなくてもよいように各段階の指導を充実させ工夫することが最も重要です。

9 読みの適用

- ◆獲得した読みの能力を並行読書教材等に適用させる段階です。この段階は単元の構想によっては省略されることもある段階です。
- ◆国語科の場合は、獲得した力に汎用性があるのかどうかの見極めが重要になります。そういった意味で、本時の学習内容が他のテキストを読む際にも適用できるような指導に改善していかなければなりません。

10 本時の振り返り

- ◆「何が分かり、何が分からなかったのか」「学んだことやさらに学びたいこと」についてまとめる段階です。
- ◆評価シートを活用して、学びの履歴が残るような工夫が必要です。このことが、自覚的・主体的な学習態度を養うことにつながります。学習計画と評価シートを一体化すると、見通しと振り返りが一枚のシートで可能となります。
- ◆評価シートを活用し、教師がコメントを記入したり、一人一人の学びを把握したりすることは評価の確かさにもつながります。

言語活動の充実に向けて、単位時間の中にグループ交流を効果的に位置付ける工夫が求められています。でも、「さあ交流しなさい」というように、具体的な指導をしないで交流させている場合も見受けられるので気を付けましょう。交流の仕方は、一度指導したからできるようになるというのではなく、小学校低学年から発達段階に応じて、指導を積み重ねていく必要があります。

しかも、中学校や高校では、国語科で指導する交流の仕方を他教科でも活用できるように指導していくことが、これからの大きな課題です。他教科の先生とも連携する必要があります。

さらに、学習形態から学習過程を考えると、「少人数から多人数の学習へ」という一方通行的な学習形態の工夫になりがちですが、全体から個に向かうような学習形態や「個⇒全体⇒グループ」のような柔軟な展開を工夫することも、指導過程の硬直化を防ぎ、多種多様な言語活動の充実につながることを意識してください。



3 - (5) 評価を工夫改善する

Q1 学習評価の目的について教えてください？



A1 学習評価の目的には、大きく二つの側面があります。一つは、教師の立場から、指導改善に生かすための側面であり、もう一つは、児童生徒の立場から、児童生徒や保護者に実現状況を伝えて学習改善を促すための側面です。

Q2 学習評価の改善に関する基本的な考え方について教えてください？

A2 学習評価の改善に関する基本的な考え方は三つあります。一つ目は、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を見る評価（目標に準拠した評価）を引き続き着実に実施すること。二つ目は、新学習指導要領の趣旨（学力観等）や改善事項（言語活動を通して指導する等）を適切に反映すること。三つ目は、学校や設置者の創意工夫を一層生かすことです。

Q3 目標に準拠した評価について、もう少し詳しく教えてください？



A3 目標に準拠した評価を実施するためには、教科の目標だけでなく、領域や内容項目レベルのねらいも明確にする必要があります。そのねらいに照らして、児童生徒の学習状況として実現された状態を具体的に評価規準として示さなければなりません。評価規準は、各学校において設定するものです。適切な評価規準の設定による着実な評価の実施が求められています。

Q4 各学校で学習評価を改善するための留意点にはどのようなものがありますか？

A4 まず、観点ごとの評価をバランスよく実施すること、学習評価をその後の学習指導や学校の教育活動全体の改善に結びつけることです。また、学習評価の妥当性や信頼性を高めるための組織的・計画的な取組も求められます。教師間の共通理解を図るため、校内研究・研修を工夫しましょう。さらに、保護者や児童生徒に、学習評価について事前に説明したり、評価結果の説明をしたりすることも重要です。実践事例を着実に継承していくことも重要です。



評価の進め方(手順)について

このガイドブックにおける
「授業づくりの手順」

□評価の進め方

□評価の留意点

(3) 単元を構想

単元で取り上げる指導事項と言語活動を確認する

単元の目標を設定する

単元の評価規準を設定する

単元の指導計画と評価計画を作成する

本時の指導計画と評価計画を作成する

指導に生かすための評価と記録に残すための評価を明確にする

(4) 本時を構想 ・ 授業実践

(5) 評価を工夫改善

記録に残すための評価を工夫する

- ・ ノート, ワークシート
- ・ 作品
- ・ 実演や映像
- ・ ペーパーテスト
- ・ レポート
- ・ 質問紙, 面接 等

○年間指導計画を基に, 重点的に取り上げる指導事項を確認する。☞「Ⅲ 資料編(p71)」へ

○学習指導要領の目標と内容を踏まえる。

○児童生徒の実態, 前単元までの学習状況等を踏まえる。

○「評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料」の「評価規準に盛り込むべき事項」を参考にする。

○上記で設定した単元の目標を踏まえる。

☞具体的作成例は,
「Ⅲ 資料編(p77~78)」へ

○どんな評価資料を基に, どのような状況等の目安で評価するのかを考える。

☞具体的作成例は,
「Ⅲ 資料編(p77~78)」へ

○指導に生かすための評価を行い, 学習指導の改善に生かす。

○記録に残すための評価を行い, 児童生徒や保護者に実現状況を伝え, 児童生徒の学習改善に生かす。

○記録に残すために, ノートやワークシート, 作品や映像, ペーパーテスト等を用いて評価を行う。

○自己評価や児童生徒同士の相互評価を工夫する。

○観点ごとに評価を整理する。場合によって, 観点ごとの総括的評価を記録する。

○学期末や学年末の観点ごとの総括に生かす。

ノートやワークシートによる評価の工夫について

＜工夫1＞ 児童生徒の思考・判断・表現を見て取れるノートやワークシートを工夫する。

- (1) 思考・判断の視覚化を図る。
 - ・ 列挙, 順序づけ, 予想, 整理, 分類, 比較, 類推, 推論, 多面的思考, 統合, 関連付け, 選択, 論理的思考, 批判的思考, 評価など, 思考操作の別を記述させる。
 - ・ 思考過程をナンバリング, マッピング, 表, フローチャート, KJ法などによって視覚化する。
- (2) 自分の考えを表現させる。
 - ・ 条件(構成, 文数, 字数, 主語・述語・接続語等の指定, 使用語彙の指定など)を提示し, コンパクトに自分の考えを記述させる。
 - ・ 本時の課題解決(ゴール)として, 自分の考えをまとめさせる。
- (3) 自分の考えの変容も記録に残させる。
 - ・ 交流後に考えを再構成させる場合, 棒線や書き加え等で訂正や修正を行わせるか, 新たな考えを隣に記述させる。
- (4) 板書事項を書き写すだけ, 情報を抜き書きするだけのノートやワークシートにならないよう工夫する。

＜工夫2＞ 児童生徒が自身の学習をメタ認知できるようなノートやワークシートを工夫する。

- (1) 学習の見通しや振り返りを記述させる。
 - ・ 学習に対する期待や学習計画・学習内容の見通し, 学習内容や学習過程の振り返りを記述させる。
 - ・ 振り返りにおいては, 自身の考えの変容やその経緯なども記載させる。
- (2) 学習についての自己評価や相互評価を記述させる。

具体例は, 「Ⅱ 実践編(p39, 40, 57, 59)」へ

作品による評価の工夫について

＜工夫1＞ 作品における評価規準を設定する。

- (1) 手立てとして次のようなことが考えられる。
 - ・ 教師自身が作品をつくることで評価のポイントを明らかにする。
 - ・ 単元の評価規準を, 明確化・焦点化・細分化・具体化し, 作品のどの部分で評価するのかを明らかにする。
- (2) 留意点として次のようなことが考えられる。
 - ・ 作品における評価規準を設定する際に, 評価の観点をバランスよく設定する。
 - ・ 作品を比べて考えることで, 評価規準をより確かなものに修正していく。
 - ・ 複数の評価者を工夫したり, 児童生徒の自己評価や相互評価を参考にしたりする。

＜工夫2＞ 場合によって, 「国語への関心・意欲・態度」や「言語に関する知識・理解・技能」(※高等学校では「知識・理解」)も評価する。

実演や映像による評価の工夫について

＜工夫1＞ 音声表現による評価をする場合には, 映像を利用することも考えられる。

＜工夫2＞ 音声表現は, すぐに消えてしまうものであるため, 文字表現による評価以上に事前に評価規準を具体化したり観点を絞り込んだりして, その場で即座に評価できるよう準備しておく必要がある。評価規準がぶれることのないように留意しなければならない。

ペーパーテストによる評価の工夫について

<工夫1> 評価規準（学習指導要領の目標や内容）を具体化した出題とする。

- (1) ペーパーテストは、指導によってどんな力が身に付いたのかを図るためのものであることを自覚する。指導した（学習した）内容を評価しなければならない。
- (2) 思考・判断・表現を伴う基本的出題例として、次のようなものが考えられる。出題例は、これまでに出題されることが少なかったのではないかと考えるものを象徴的に取り上げた。選択問題にしたり、記述問題でも条件を付したりすることで、採点基準を明確にする工夫が必要となる。

<出題例・小学校>

- ・説明の順番がこのようになっているのはなぜですか。（低学年イ）
- ・登場人物がこのように行動したのはなぜだと思いますか。（低学年ウ）
- ・好きな登場人物の行動を書き抜き、理由を体験と結び付けて説明しなさい。（低学年エ、オ）
- ・○段落と○段落はどのような関係にありますか。（中学年イ）
- ・この意見はどのような事実から導き出されたものですか。（中学年イ）
- ・登場人物の心情がこのように変化したのはなぜですか。（中学年ウ）
- ・登場人物○○と△△は、どのような関係にありますか。（中学年ウ）
- ・この場面は作品の中でどのような役割を果たしていますか。（中学年ウ）
- ・○○という目的で、文章を○字に要約しなさい。（中学年エ）
- ・○○という思いを表現するには、どのように朗読しますか。理由も説明しなさい。（高学年ア）
- ・筆者はどのように論を展開して読者を説得しようとしていますか。（高学年ウ）
- ・この表現は、○○という表現に比べてどのように優れていますか。（高学年エ）
- ・文章Aと文章Bを比べ、考え方の共通点と相違点を説明しなさい。（高学年カ）

<出題例・中学校>

- ・この文章において「○○」とはどういう意味ですか。（1学年ア）
- ・○段落を○○という目的で、○字で要約しなさい。（1学年イ）
- ・この文章の要旨を条件に従ってまとめなさい。（1学年イ）
- ・「○○」という情景描写が意味しているものは何ですか。（1学年ウ）
- ・文章の表現の特徴を説明したものを次の選択肢から選びなさい。（1学年エ）
- ・根拠を文章Bから見つけ、文章Aでの筆者の考え方に対する批判的な立場での考えを述べなさい。（1学年オ、カ）
- ・「○○」の意味は辞書に「A」・「B」・「C」と三つ記載されていますが、ここでの意味はこのうちのどれですか。また、ここでの文脈上の意味を具体的に説明しなさい。（2学年ア）
- ・この段落は、文章全体の中でどのような役割を果たしていますか。（2学年イ）
- ・この段落は、文章中のどこに位置づける必要がありますか。（2学年イ）
- ・この文（段落）があるのとないのでは、文章における効果として何が違いますか。（2学年イ）
- ・筆者はなぜこのような文末表現や比喻を用いたのですか。（2学年ウ）
- ・文章Aと文章Bの表現の仕方の違いは何で、なぜ違うのですか。（2学年ウ）
- ・筆者の考えに対する自分の考えを、自分の経験と結び付けてまとめなさい。（2学年エ）
- ・「○○」という立場で、本文中から情報を引用して考えをまとめなさい。（2学年オ）
- ・「○○」という語句を用いた筆者の意図は何だと思いますか。（3学年ア）
⇒例；『少年の日の思い出』では、なぜ「情熱」ではなく「熱情」と翻訳していますか。
- ・筆者がこの事例を取り上げて論を展開している意図は何ですか。（3学年イ）
- ・登場人物はどのような性格で、この作品でどのような役割を果たしていますか。（3学年イ）
- ・文章Aと文章Bで、どちらが目的にふさわしい構成や展開、表現の仕方をしているか評価しなさい。（3学年ウ）
- ・筆者の考えに対する自分の意見を、根拠を明らかにしてまとめなさい。（3学年エ）

<出題例・高等学校>

- ・小説のこの部分を戯曲の様式に直して書きなさい。（国語総合ア）

- ・「〇〇」について、文章中から関連する内容を取り上げて詳述しなさい。(国語総合イ)
- ・なぜこのように書いているのか、文章中の表現に即して説明しなさい。(国語総合ウ)
- ・表現の仕方について、規準を明確にし、あなたの判断を説明しなさい。(国語総合エ)
- ・筆者はなぜこのように書いたのか、その意図を説明しなさい。(国語総合エ)
- ・文章の構成や展開の仕方を説明しなさい。(現代文Bア)
- ・文章における登場人物の心情の推移を説明しなさい。(現代文Bイ)
- ・文章中の表現を他の表現と置き換えて、比較しながら効果を説明しなさい。(現代文Bイ)
- ・相反する立場で書かれた文章Aと文章Bについて、自分の立場を論じなさい。(現代文Bウ)
- ・古典作品の構成や展開の仕方がどのようになっているか説明しなさい。(古典Bイ)
- ・古典作品に表れている考え方について、現代と通じる共感できるものか違和感を覚えるものを取り上げ、その理由を説明しなさい。(古典Bウ)
- ・古典作品やその評論文から、この作品の普遍的価値について考察しなさい。(古典Bエ)

＜工夫2＞ ペーパーテストと授業を連動させて考える。

- (1) どんなペーパーテストにするかを考えながら授業をする。または、ペーパーテストを考えてから授業をする。

例えば

- ・高等学校(現代文Bウ)「相反する立場で書かれた文章Aと文章Bについて、自分の立場を論じなさい。」の場合
 - 相反する立場で書かれた文章を比べて読むこと。(何をどう比べて読むか)
 - 自分の立場を決めること。(文章Aの立場、文章Bの立場、それ以外の立場のどれか)
 - 自分の立場を論じるとはどういうことか。(何について、どのように論じるのか)
- などを授業で指導しなければ評価することはできない。

- (2) 全国学力・学習状況調査問題から授業を改善する。

＜工夫3＞ 具体的言語活動の設定を意識した出題とする。

- (1) 「いわてスタンダード」「Gアップシート」の考え方を参考にする。
 - ・平成25年3月に総合教育センターが、中学校国語・数学・英語の3教科で作成した評価規準表とその評価問題。
- (2) 全国学力・学習状況調査問題から授業を改善する。

レポートによる評価の工夫について

＜工夫1＞ レポートを書かせる目的を明確にもつ。

- (1) 何を評価するためのレポートなのかを明確にする。
- (2) ペーパーテストや作品等でははかりきれない内容か確認する。

＜工夫2＞ レポートの様式や内容を指導する。

- (1) 評価規準に照らして、何をどのように書かせるのかを明確にする。

質問紙、面接による評価の工夫について

＜工夫1＞ 学習意欲や児童生徒の学習内容に関する変容を把握する。

- (1) 国語への関心・意欲・態度に反映させる。
- (2) 質問紙と、作品やペーパーテストなどを組み合わせて判断するようにする。

＜工夫2＞ 質問紙やペーパーテストなどでは把握しきれない内容について、面接によって把握する。

Ⅱ 実践編

A 多読や一冊の本を丸ごと読むことにつながる学習過程例

中学校第1学年単元構想 光村；「竹取物語(古典)」

H23. 10. 5 総合教育センター開発

【生徒の実態】

【身に付けさせたい力】

- 『かぐや姫』を絵本として読んだことのある生徒は半数ぐらいいるが、「竹取物語」の内容を詳しく知っている生徒はほとんどいない。
- 小学6年生で、「狂言 柿山伏」を音読中心に学んでおり、古文特有の言い回しやリズム、狂言の内容的な面白さについて理解している。古文に書かれてある内容を想像して読む学習経験はなく、中学校での初めての古典学習である。

- 報道記事にまとめるという目的をもちながら、
- ◎場面の展開や登場人物などの描写や会話に注意して読み、叙述を基に想像して読む力。(C-U)
- 古文から必要な情報を読み取る力。(C-カ)
- 文語のきまりを知り、古典特有のリズムを味わいながら、古文を音読する力。(伝ア(ア))

【単元を貫く言語活動】

「竹取物語」の事件を、必要な言葉を引用して報道記事の形式にまとめる。

【言語活動の特徴】

「なよ竹新聞」：新聞を作成することが学習活動のメインになると指導のねらいから外れてしまう。そこで、トップ記事を除いて教師が作成した「新聞の枠」を準備し、生徒にはトップ記事のみを書かせることとした。また、生徒の作成意欲を高める工夫として、トップ記事を空欄にした2種類の「新聞の枠」を準備した。

生徒が考えるトップ記事は600字程度とした。『竹取物語』の一つ一つの事件には、5W1Hが必ず書かれているわけではなく、出来事を報道記事にまとめるためには想像力で補う必要がある。そのことが叙述を基に想像して読む力や必要な情報を読み取る力を育成するという指導のねらいを達成するのにふさわしいと考えた。

生徒が考えるトップ記事のモデルは、実際の新聞のスポーツ記事を参考にして教師が作成した。

1. 単元名 報道記事で紹介する「竹取物語」 ～家の人に「なよ竹新聞」の感想を聞こう！～

2. 単元の目標 「竹取物語」から自分が紹介したいと考えた事件や場面を選び、叙述を基に想像力をはたらかせ、必要な情報や内容を補いながら、報道記事としてまとめることができる。

3. 単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

☆報道記事で紹介するという目的をもって、古典の世界に触れ、自分が紹介したい事件や場面を選び、想像力をはたらかせて報道記事にまとめている。

【読む能力】

☆報道記事にまとめるために、場面の展開や登場人物などの描写や会話に注意して読み、叙述を基に想像して読み、内容の理解に役立っている。(C-U)

☆報道記事にまとめるために、古文から必要な情報を読み取っている。(C-カ)

【言語についての知識・理解・技能】

☆文語のきまりを知り、古典特有のリズムを味わいながら、古文を音読する力。(伝ア(ア))

4. 教材 蓬萊の玉の枝、『ビギナーズ・クラシックス日本の古典 竹取物語(全)』、新聞記事(朝日新聞・岩手日報)

5. 単元の展開 (全 8 時間)

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント (○) 学習活動に即した評価規準 (関・読・言) 等
第0次		<ul style="list-style-type: none"> ○「竹取物語」の絵本を廊下に掲示し、興味・関心を高める。 ○『ピギナズ・クラシックス日本の古典 竹取物語(全)』を宿題として読ませる。 	
第1次	第1時	<ul style="list-style-type: none"> 1. 単元の見直しをもつ。 ○活動目的:「なよ竹新聞」で、竹取物語を家の人に紹介する。 ○ゴール:「なよ竹新聞」のモデルを知る。 ○学習目的:「なよ竹新聞」を作ることで、どんな力が付くのかを確認する。 ○学習過程:単元の学習計画を確認する。 2. 出来事とコメントを表す語彙を集める。 3. 『竹取物語』の展開と登場人物をとらえる。 ○十の場面構成をとらえる。 ○人物の相関関係をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「なよ竹新聞」(モデル1号, 2号)を提示する。 関 報道記事にまとめるという目的をもって『竹取物語』を読もうとしている。(学習振り返りカード) ○語彙集めシート、場面構成図、人物相関図(モデル=ハリー・ポッター)を提示する。
第2次	第2時	<ul style="list-style-type: none"> 1. 古典の基礎を学ぶ。 ○歴史的仮名遣い ○古語 ○助詞の省略 ○文末表現 ○係り結び 2. 「竹取物語」冒頭を音読する。 ○古文の言い回しや歴史的仮名遣いの読みに慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○古典の基礎のまとめシートを提示する。 言 文語のきまりを知り、古典特有のリズムを味わいながら、古文を音読している。(自己評価, 相互評価, 教師の観察)
	第3時	<ul style="list-style-type: none"> 1. 教師の提示した報道記事を読み、記事のまとめ方を理解する。 2. 冒頭部分をモデルにならって記事にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○モデル記事の分析をする。 ○下書きシートにまとめる。
	第4時	<ul style="list-style-type: none"> 1. 前時にまとめた冒頭の記事をグループで読み合い、最も良かった記事を選ぶ。 2. グループごとに一番良かった記事と選んだ理由を全体で紹介する。 3. 自分が好きな場面をまとめるときに、どのようなことに気をつけたいかをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 読 場面の展開や登場人物などの描写や会話に注意して読み、叙述を基に想像して読み、内容の理解に役立てている。(下書きシート①, 話し合いシート, 聞き取りシート)
	第5時	<ul style="list-style-type: none"> 1. 自分が記事にまとめたい場面を選ぶ。 2. 原文をくり返し練習し、読み慣れる。 ○同じ場面を選んだ者でグループを作り、読み合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 言 文語のきまりを知り、古典特有のリズムを味わいながら、古文を音読している。(自己評価, 相互評価, 教師の観察)
	第6時	<ul style="list-style-type: none"> 1. 自分で紹介したい場面を選び、原稿用紙にまとめる。 2. 見出しとリード文を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 関 自分が紹介したい事件や場面を選び、想像力を働かせて報道記事にまとめている。(下書きシート②) 読 古文から必要な情報を読み取っている。(下書きシート②)
第3次	第7時	<ul style="list-style-type: none"> 1. 新聞用紙に消書する。 ○消書用として、モデル1号, 2号のどちらかを選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 読 場面の展開や登場人物などの描写や会話に注意して読み、叙述を基に想像して読み、内容の理解に役立てている。(新聞用紙) 読 古文から必要な情報を読み取っている。(新聞用紙)
	第8時	<ul style="list-style-type: none"> 1. 各自が作った「なよ竹新聞」を読み合って感想を交流する。 2. 単元の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 関 感想交流を通して古典への関心を高め、古典の世界に触れようとしている。(学習振り返りカード)
第4次		<ul style="list-style-type: none"> ○家の人に「なよ竹新聞」を見せて感想を書いてもらう。(感想用紙) ○感想用紙を回収し、国語通信として家の人にフィードバックする。 	

1年 組 番・氏名

【モデル記事】

かぐや姫を見送った
おと姫は血の涙を流し
悲しみ、次のように詠
った。「何せむにか命も
惜しからむ。誰が為に
か。何ことも益なし
(何のために命など惜
しむのだ。誰のために
命を惜しむのだ。ああ
もう私たちは、この世
に何の用もない。)

【叙述通りの出来事の報道】
「どうした(修飾)だれが・どの
ように・どうした(て)・どうした」
*叙述をもとに正確に書く。
*5W1H1Dを意識する。

【会話文の引用】
古文から翁の会話文を原文の
まま書き出し、その後現代語
訳を()内に記している。
*自分が書くときには、字数の
関係で現代語訳は書かなく
てもよい。

- 【5W1H1D】(*Dは長根オリジナル)
① when いつ
② where どこで
③ who だれが
④ what なにを
⑤ why なぜ
⑥ how どのように
⑦ do どうした

前段落の「出来事と会話の内容」から、翁と姫の気持ちを推測し、「記者のコメント(考え)」として書いている。

【叙述をもとに想像した出来事の報道】
古文中で実際に兵士達が語っているわけではないが、地の文にある叙述をもとに、筆者が想像を働かせ、インタビューしたように工夫して書いている。

【叙述をもとに想像した出来事の報道】
古文中で実際に誰かが語っているわけではないが、これも、地の文にある叙述をもとに、記者が想像を働かせ、聞いたことのように工夫して書いている。

前の二つの文「出来事」を受けて、「記者のコメント(感想)」を書いている。

【叙述通りの出来事の報道】
叙述をもとにして、「だれが・なぜ・何を・どこで・どの
ように・どうした」と「なぜ・どうした」の成分(5W1
H1D)で出来事を報道している。

前段落の「古典の出来事」を「現在の事実」と関連付けて、「記者のコメント」推測(「)を書いているところが、工夫
している点である。

【モデル記事について】

- このモデル記事は、世界団体選手権大会での内村選手の活躍を報じた記事
を参考にして書いている。本物の新聞がとも参考になる。
○「出来事の報道」「記者としてのコメント」が三回繰り返されている。こ
ろに工夫がある。二度目の「出来事」は想像によって語らされている。
○記者が飽きないように、出来事の報道の仕方にも、「コメント」の書き
方も、それぞれが工夫されている。

1年 組 番・氏名

【冒頭部を報道記事にする】

今は昔、竹取の翁というふ者ありけり。
野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのこ
とに使ひけり。名をば、さぬきのみやつこ
となむいひける。
その竹の中に、もと光る竹なむ一筋あり
ける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の
中光りたり。それを見れば、三寸ばかりな
る人、いとうつくしうてあたり。
翁いふやう、「われ朝ごと夕ごとに見る
竹の中におはするにて知りぬ。子になり給
ふべき人なめり」とて、手にうち入れて家
へ持ちて来ぬ。妻の姫に預けて養はず。
美しきことかぎりなし。いと幼ければ糶
に入れて養ふ。
竹取の翁、竹を取るに、この子を見つけ
て後に、竹を取るに、節をへだてて、よこ
とに、黄金ある竹を見つかること重なり
ぬ。かくて翁やうやうゆたかになりゆく。
この児養ふほどに、すくすくと大きにな
りまさる。三月ばかりになるほどに、よき
ほどなる人になりぬれば、髪上げなどさう
して、髪上げさせ、養着す。娘の内よりも
出ださず、いつき養ふ。
この児のかたちのけうらなること世に
なく、屋の内は暗き所なく光満ちたり。翁、
心地あしく苦しき時も、この子を見れば、
若しきこともやみぬ。腹立たしきことも癒
みけり。
翁、竹を取ること久しくなりぬ。勢ひ猛
の者になりけり。
この子いと大きになりぬれば、名を三三
戸斎部の秋田を呼びてつけさす。秋田、な
よ竹のかぐや姫と付けつ。このほど三日う
ちあげ遊ぶ。よろづの遊びをぞしける。男
はうけきはらず呼び集へて、いとかしこく
遊ぶ。

【出来事の報道】
○5W1H1Dに注意して、出来事(事実)
を三つ程度に分けてみよう。

【会話の引用】
○実際に誰が何と言ったか書き出そう。

○誰かが面白いようなことを、叙述をもとに想
像して書いてみよう。

【記者のコメント】
○「瞬間に思ったこと・想像したこと・感動
したこと・不思議に思ったこと・こうだ
といいなと思ったこと」などを自由に書い
ておこう。

中学校第1学年単元構想 光村：「少年の日の思い出（小説）」

H23. 11. 25 総合教育センター開発

【生徒の実態】

【身に付けさせたい力】

- 「虹の見える橋」では、情景描写や擬人法の表現から、登場人物の心情を読み取った。「麦わら帽子」では、場面がどう展開しているかについて自分の考えを発表しあった。「大人になれなかった弟たちに」で、「僕」の行動・考え方に共感しながら読み取り、主題について考えた。
- 「麦わら帽子」で、「主人公、あらすじ、主題、自分の好きな表現(名セリフ、名文)、読んでほしい人、文章表現の良さ」を要素として、自分のお薦めの本を紹介する学習活動を行った。紹介文を書く活動は個人で行なっており、グループで協同的に文章等をまとめるという学習経験はない。

- 「読書ボード」で紹介するという目的をもちながら、
- ◎文章の構成や展開、表現の特徴などを分析的にとらえ、自分の考えをもつ力。(C-エ)
- 文章に表れているものの見方や考え方に共感したり疑問をもったりして、自分の考えを広げる力。(C-オ)
- 意味の分からない語句を辞書で調べ、文脈上の意味をとらえる力。(伝イ(イ))

【単元を貫く言語活動】

読書会を通して読む力を高め、自分で選んだお薦めの本を「読書ボード」にまとめる。

【言語活動の特徴】

- 「読書会」＝「思い出し係、質問係、選び出し係、イラスト係」を分担し、話合いのシートにそって話合いを進める。
- 「読書ボード」＝A4判の色画用紙に「本を薦めるキャッチコピー、印象的な本文の引用、本の魅力(300～400字程度)、イラスト」を配置してまとめたボード。グループで「構成・展開・表現の特徴(書きぶり)」が話題となるような読書会を工夫し、「読書ボード」の本の魅力の説明の中に、要素として「構成・展開・表現の特徴」が記載されるように配慮する。
- 「キャッチコピー、本文の引用、イラスト」には、文章に表れているものの見方や考え方に共感したり疑問をもったりした内容が表現される。

1. 単元名 ○○中1学年「どくしょ甲子園」開催！～その本を読みたくなるような「読書ボード」を作ろう～

2. 単元の目標 自分で選んだお薦めの本を「読書ボード」にまとめることを通して、文章の構成や展開、表現の特徴、文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、それについて自分の考えをもつことができる。

3. 単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

☆友達に紹介するために、読書会によって読みを深め、本の内容をまとめようとしている。

【読む能力】

- ☆友達に紹介するために、文章の構成や展開、表現の特徴などを分析的にとらえ、自分の考えをまとめている。(C-エ)
- ☆友達に紹介するために、選んだ本の文章に表れているものの見方や考え方について、共感したり疑問をもったりして自分の考えを広げている。(C-オ)

【言語についての知識・理解・技能】

☆文章を読んで意味の分からない語句を辞書で調べ、文脈上の意味を考えている。(言イ(イ))

4. 教材 「少年の日の思い出」、生徒各自が選んだ本、「いわての中高生のためのおすすめ図書100選」、第2回どくしょ甲子園 受賞作(<http://www.asahi.com/shimbun/dokusyjo/koushien/>)、朝日新聞の記事(平成23年11月21日)

5. 単元の展開 (全 9 時間)

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント (○) 学習活動に即した評価規準 (関・読・言) 等
第0次		「どくし甲子園」の入賞作品や新聞の紹介記事を廊下に掲示し、読書に対する興味・関心を高める。	
第1次	第1時	<ol style="list-style-type: none"> 単元の見直しをもつ <ol style="list-style-type: none"> 「どくし甲子園」の目的を知る。 活動のゴールを知る。(モデル) ○高校生の作品と教師の作品を比べる。 学習過程を知る。(読書会⇒読書ボード) 3つの「読書ボード」それぞれの工夫について気付いた内容を、個人で付箋に書いて「読書ボード」に貼る。 今日の学習を振り返る。 	○教師作成の3つの「読書ボード」(カラー印刷)のモデルを各グループに配付する。 関 友達に紹介するという目的をもって、本を読もうとしている。(学習振り返りカード)
	第2時	<ol style="list-style-type: none"> 3つの「読書ボード」それぞれの工夫をグループでまとめる。 3つの「読書ボード」それぞれの工夫をファシリテーターの生徒中心にまとめる。 3つの「読書ボード」それぞれの工夫をファシリテーターの生徒が説明する。 自分はどのパターンでまとめたいと思ったか発表する。 	○各自に付箋、グループにまとめの短冊を用意する。 ○役割の名札を用意する。
第2次	第3時	<ol style="list-style-type: none"> 「少年の日の思い出」を読み、意味の分からない語句を辞書で調べ、文脈上の意味をとらえる。 グループ読書会のやり方を確認する。 グループ読書会の分担をする。 ①思い出し係 ②質問係 ③選び出し係 ④イラスト係 を分担する。 	言 文章を読んで意味の分からない語句を辞書で調べ、文脈上の意味を考えている。(学習シート)
	第4時	<ol style="list-style-type: none"> グループ読書会をする。 グループ読書会の内容を全体で発表する。 グループ読書会を振り返る。 	読 文章の構成や展開、表現の特徴などを分析的にとらえ、自分の考えをまとめている。(観察)
	第5時	<ol style="list-style-type: none"> グループ読書会を受けて、「少年の日の思い出」を推薦する「読書ボード」の内容を考える。 ①個人で考える。 ○本を薦めるキャッチコピー、印象的な本文の引用、本の魅力(300～400字程度)、イラスト グループで話し合う。 	読 文章の構成や展開、表現の特徴などを分析的にとらえ、自分の考えをまとめている。(学習シート、読書ボード)
	第6時	<ol style="list-style-type: none"> 「少年の日の思い出」を推薦する「読書ボード」をグループで完成させる。 ○本を薦めるキャッチコピー、印象的な本文の引用、本の魅力(300～400字程度)、イラスト 	○A4判色画用紙を準備する。 読 文章の構成や展開、表現の特徴などを分析的にとらえ、自分の考えをまとめている。(読書ボード)
	第7時	<ol style="list-style-type: none"> 「読書ボード」を交流する。(代表が2分以内で発表) 学級で最優秀賞と優秀賞を選ぶ。 ①個人でよいと思ったもの(理由)2点を選ぶ。 ②グループでよいと思ったもの2点を選ぶ。 ③全体で最優秀賞と優秀賞を協議によって選ぶ。 	読 文章に表れているものの見方や考え方について、共感したり疑問をもったりして考えを広げている。(観察)
冬休みの宿題(自分のおすすめの本を「読書ボード」にまとめる) 「いわての中高生のためのおすすめ図書100選」などを利用して本を選び、「読書ボード」を完成させる。			
第3次	第8時	<ol style="list-style-type: none"> 各自の「読書ボード」をグループで交流する。 ○1人3分で紹介する。 グループで入賞作品を決める。 ○よいと思ったもの2点を選ぶ。 	○各自が「読書ボード」を冬休みの宿題として完成させる。 読 文章に表れているものの見方や考え方について、共感したり疑問をもったりして考えを広げている。(観察)
	第9時	<ol style="list-style-type: none"> 学級で入賞作品を決める。 ①グループでよいと思ったもの2点を紹介する。 ②全体で最優秀賞1点と優秀賞数点を協議によって選ぶ。 理由や良さ(工夫)について意見交換する。 単元の学習を振り返る。 	読 文章に表れているものの見方や考え方について、共感したり疑問をもったりして考えを広げている。(観察)
第4次		学年で入賞作品を決める。 図書館や廊下に掲示する。	

1年 組 番・氏名

【単元の目標】

グループ読書会を通して

- ①文章の構成や展開、表現の特徴をとらえる力を身に付けよう。
 - ②文章に表れているものの見方考え方をとらえる力を身に付けよう。
- そして、お薦めの本を「読書ボード」にまとめる力を身に付けよう。

(評価 よく理解できた4 理解できた3 あまり理解できない2 理解できない1)

学習活動計画	評価
1 ○単元の見直しをもつ ○モデルの「読書ボード」の工夫を見つめる	感想(わかったこと、よくわからなかったこと、頑張ったこと、これから頑張りたいことなど)
2 ○モデルの「読書ボード」の工夫を見つめる ○自分達だけのパターンでまとめるか決める	
3 ○「少年の日の思い出」を読む(意味調べ) ○読書会の分組をする	
4 ○「少年の日の思い出」について、グループ読書会をする	
5 ○「少年の日の思い出」を推薦する「読書ボード」をグループで作る	
6 ○「少年の日の思い出」を推薦する「読書ボード」をグループで完成させる	
7 ○完成した「読書ボード」を交流する ○最優秀と優秀を決める	
冬休み ①「わいての中高生のためのおすすめ図書100選」などを利用しておすすめ図書を選ぶ。 ②「読書ボード」作成のための学習シートを使って「読書ボード」の原案を作る。 ③「読書ボード」を完成させる。	
8 ○「読書ボード」を交流しあう ○個人で良いものを選ぶ	
9 ○学校で入賞作品を選ぶ ○単元の学習を振り返る	

◎学年でも優秀作品を決めます。作品は、廊下や図書室等に掲示します。

1年 組 番・氏名

学習課題

◎三つの「読書ボード」それぞれの良さや工夫を見つけよう。

本時の流れ

- 1 役割を確認する。(司会者＝ファシリテーター・オブザーバー、代表者)
- 2 グループで協議のやり方を知る。
- 3 グループで協議する。
- 4 ABCに分かれて協議する。
- 5 学級全体で交流する。
①ファシリテーターの協議内容の発表。
②オブザーバーのコメント。
- 6 個人で学習を振り返る。

グループ協議の流れ

1 司会者と記録者の役割を確認する。

2 司会者の進め方。

司会者(一人)……全員に平等に発言させる。考えを広げたり、深めたり、質問を取ったりする。
代表者(三人)……自分の分組の読書ボードについてグループでまとめた考えを短冊に書く。
三人グループのところは、司会者が代表者を兼ねる。

- (1) グループで、どの「読書ボード」の協議に誰が参加するかを確認する。
自分が代表者となった「読書ボード」について、それぞれがまとめを短冊に書く。
↓三つにわかれての全体協議時に、司会者は、自分が見たい「読書ボード」の協議のオブザーバーとなる。代表者は、自分が書いた短冊をもって協議に参加する。(注…司会者全体の中からファシリテーター三人⇒進行役)
- (2) 一人の人に、自分が気付いた工夫を発表してもらう。
↓「読書ボード」の工夫箇所に付箋を貼る。
- (3) 同じような意見、あるいは質問がないか確認し、あった場合は出してもらう。
↓まったく同じ場合は付箋を重ね、似ているが少し違う場合は隣に貼る。
- (4) 出された意見は工夫と考えて良いか、また、どんな効果があるかをまとめる。
グループの考えがまとまったら、記録者が、キーワードとして短くまとめて短冊に書く。
- (5) 一人の人が気付いた工夫がなくなるまで、(2)～(5)を繰り返す。
- (6) 一人の人が気付いた工夫がなくなったら次の人に進む。
- (7) 最後に、話し合っている中で気付いたことがあった人がいた場合には、その意見を出してもらう。
- (8) 閉会宣言をして終わる。

1年 組 番・氏名

読書会をうけて「読書ボード」を作成する

「読書ボード」作成の準備

読書会が終わったところで、いよいよ「読書ボード」作りです。ここまではできるだけ自由に話し合ってきましたが、それはいったん打ち切り。今度は話し合いを、以下のような形にまとめる方向で振り返ります。

★ この本の面白さはどこか。その理由は？ どこが一番盛り上がったかなど、全体について話し合います。

★ 読書会で発見したこと、気づいたことを出し合ってみましょう。本の内容に限らないで話し合います。

★ 一番印象に残った文章はどれか、話し合ってみましょう。

「読書ボード」の項目

◆ 読んだ本を調べるキヤッチコピーを考えよう。

① 読書会を通して一番盛り上がった事柄や印象的だった友だちの言葉、本の魅力を短い言葉で伝えると何になるかなど、キーワードを見つけてよう。

② 一つのキーワードから、連想できることや新たなキーワードを書きだしてみよう。

③ いくつかのキーワードをつなげたり、分けたら、順番を入れ替えたりして箇条書きにしてみよう。

④ いろいろ工夫してみよう。
 ・ 思い切って短く。(学園祭に行こう！ → 学園祭、行こ！)
 ・ 他の言い方を考える。(安い！ → 激安！ → お得！)
 ・ ひらがな、カタカナ、漢字に置き換えてみよう。
 ・ (危ない！ → アブナイ！ → あぶない、行こう → レッツゴー！)
 ・ 洒落、語呂合わせ、体言止め、比喩、限定など表現を工夫してみよう。
 ・ そのものになつたつもりで考えてみよう。(作者、登場人物、読者、本、…)
 ・ キヤッチコピーを読んだ人に考えさせる工夫もあるかもしれません。

◆ 印象的な本文の引用(掲載ページを明記)

① キヤッチコピーにつながる登場人物のセリフ、情景描写、人物描写、など。

② 感動した場面、怒りを覚えた場面など、心が揺さぶられた叙述。

③ 本の魅力を説明するのに必要なセリフ、描写。

④ 自分の考えが導き出されたセリフ、描写。

◆ 「私たちが見つけたこの本の魅力」(400～600字で)

① 一学期の「本の紹介文」や二学期の「報道記事」の書き方を参考にしましょう。

② モデルとして示した「読書ボード」の書き方を参考にしましょう。段落構成、その段落に配述する要素、引用…など、魅力的な文章となるよう工夫してみよう。

◆ イラスト
 ○ イラストによる表現は、本全体の印象を象徴的に表すもの、特定のシーンや登場人物に絞るもの、手書き、PCの利用、なんでもOKです。(コピーは避けてください。)

レイアウト会議

◆ 絵や写真、文章とキヤッチコピーを合わせてみる。

◆ 色合いを考える。(ボードの台紙、本文の台紙、文字の色、絵の色、…)

◆ 大きさのバランスを考える。(キヤッチコピー、文章、絵、…)
 ◆ 配置(レイアウト)を考える。
 (キヤッチコピーの位置、絵の位置、文章を縦書きと横書きどちらにするか、…)

1年 組 番・氏名

① 「グループ読書会」「読書ボード作り」の活動や「自分の読書力」について、考えたことを書きなさい。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

② 「少年の日の思い出」や「自分が読んだ本」の内容について、友だちとの交流や「読書ボード作り」を通して新たに気づいたことや深まったことなど、普段とは違う読みの深化などについて書きなさい。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

③ グループでの交流内容を全体で発表しよう。

④ 単元の学習を振り返ろう。

4 あてはまる 3 だいたいあてはまる 2 あまりあてはまらない 1 全くあてはまらない

① これから何をやるのか、見通しをもって勉強することができた。	4	3	2	1
② 文章の構成や展開について考えながら読むことができた。	4	3	2	1
③ 文章の表現の特徴について考えながら読むことができた。	4	3	2	1
④ 語句の意味を辞書で調べ、文脈上の意味をとらえることができた。	4	3	2	1
⑤ 「少年の日の思い出」を、じっくり読むことができた。	4	3	2	1
⑥ 自分の選んだ本を、じっくり読むことができた。	4	3	2	1
⑦ 友だちの「読書ボード」を見て、その本を読みたいと思った。	4	3	2	1
⑧ 単元の学習を通して、もっと読書したいという意欲が向上した。	4	3	2	1
⑨ 自分で納得できる「読書ボード」を仕上げることができた。	4	3	2	1
⑩ 友だちどうしで、読書(本)が話題になることが多かった。	4	3	2	1

中学校第2学年単元構想 光村；「明日（詩）」

H24. 4. 18 総合教育センター開発

【生徒の実態】

- 第1学年の「麦わら帽子」の学習では、場面の展開、登場人物の心情や行動、情景描写に着目して紹介文を書く学習経験をしている。「少年の日の思い出」では、「読書ボード」にまとめるために、文章の構成や展開、表現の特徴などを分析的にとらえ、自分の考えをもつ学習経験をしている。
- 生徒はこれまで、教科書に掲載されている一編の詩の読解中心に学習を進めており、推薦するために詩の多読をした経験はない。また、紹介は経験しているが、読者を想定した推薦という言語活動も初めてである。

【身に付けさせたい力】

- ◎「推薦カード」をまとめるという目的をもって、
 - 心情を表す語句をとらえる力。(C-ア)
 - 詩の構成や展開、表現の仕方について、根拠をもとに自分の考えをまとめる力。(C-ウ)
 - 詩に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ力。(C-エ)
 - 自分の読書体験や図書館などからお薦めの詩を選び、自分の考えをまとめる力。(C-オ)

【単元を貫く言語活動】

詩の「構成や表現の仕方・表現されているものの見方や考え方」について、自分の考えを「推薦カード」にまとめる。

【言語活動の特徴】

「推薦カード」:A4判用紙。上半分にお薦めの詩、下半分に「どんな人にどんな時に読んでほしいのか」「自分の考え」を推薦の文章(600字程度)にまとめる。

お薦めの詩を選び推薦するという言語活動は、幅広く読書活動を行うことの意味を実感し、必要に応じて自ら読書を進めていくことのできる自立した読み手を育成することにつながる。

また、詩の推薦カードをまとめるという言語活動は、詩の表現や内容を自分がどのようにとらえたのかが、「どんな人に」「どんな時に」読んでほしいのかという考え方に表わされる。

1. 単元名 中学生にお薦めの「詩の推薦カード」を作ろう！

2. 単元の目標 詩の構成や表現の仕方、作者のものの見方や考え方を読み取り、自分の考えをまとめて友だちに推薦することができる。

3. 単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

☆友だちに推薦するために、相手にぴったりの詩を見つけ、詩の内容についての理解を深めようとしている。

【読む能力】

☆友だちに推薦するために、心情を表す語句をとらえている。(C-ア)

☆友だちに推薦するために、詩の構成や展開、表現の仕方について、根拠をもとに自分の考えをまとめている。(C-ウ)

☆友だちに推薦するために、詩に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもっている。(C-エ)

☆友だちに推薦するために、自分の読書体験や図書館などからお薦めの詩を選び、自分の考えをまとめている。(C-オ)

【言語についての知識・理解・技能】

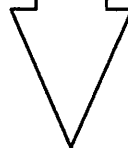
☆比喩や反復などの表現の技法について理解している。(既:1年伝イ(オ))

4. 教材 「明日」、詩集(自分のお薦めの詩を選択できるもの)

5. 単元の展開 (全 6 時間)

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント (○) 学習活動に即した評価規準 (関・読・言) 等
第0次		○教師の推薦する詩を掲示し、詩に対する関心を高めておく。	
第1次	第1時	○自分の詩の読書体験を思い起こす。 ○「推薦カード」を利用した教師の推薦を聞く。 ○学習の見通しをもつ。(単元の学習の意義) ○教師が提示した「推薦カード」の書かれ方を理解する。	<p>関 見通しをもって取り組もうとしている。 (学習計画表・評価シート)</p> <p>○「心情を表す語句、詩の構成や展開、表現の仕方、ものの見方や考え方」の要素を押さえたモデルを提示する。</p>
	第2時	○「推薦カード」を書くために「明日」の詩を読む。 ・個人で考える。(学習シート②) ・4人グループでお互いの学習シート②を読み、推敲しあう。 ・「明日」の「推薦カード」を書く。	<p>読 心情を表す語句をとらえている。</p> <p>読 詩の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめている。</p> <p>読 詩に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをまとめている。</p> <p>言 比喩や反復などの表現の技法について、考えをまとめている。</p>
	第3時	○4人グループで「明日」の「推薦カード」を観点に従って読み、より多くの人が共感できると思うものを選ぶ。 ・4人グループで選ぶ。 ・全体で発表する。 (発表者、理由説明者) ・お互いの良さを意見交流する。	<p>○根拠を明確にしてお互いの考えを交流させる。</p> <p>○グループ交流の仕方のモデルを示す。</p>
	第4時	○自分の好きな詩の「推薦カード」を完成させる。 ・推薦メモを書く。 ・4人グループで、お互いに推敲し合う。 ・「推薦カード」を書く。	<p>読 自分の読書体験や図書館などからお薦めの詩を選び、自分の考えをまとめている。</p>
第3次	第5時	○自分の好きな詩の「推薦カード」を紹介し合う。 ・4人グループで全体で紹介したい詩を選ぶ。 ・代表が全体で発表する。 (グループで選んだ理由を説明する)	<p>読 心情を表す語句をとらえている。</p> <p>読 詩の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめている。</p> <p>読 詩に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをまとめている。</p> <p>言 比喩や反復などの表現の技法について、考えをまとめている。</p>
	第6時	○単元の学習のまとめを行う。 ・「推薦カード」を滑書して提出する。 ○単元の学習を振り返る。	<p>○推薦カードを集めて、全員分印刷する。</p> <p>関 詩の良さを実感し、進んで読もうとしている。</p>
第4次		☆全員の「推薦カード」を冊子にまとめ、保護者に届け、感想をもらう。	

並行読書 (自分が推薦する詩を選ぶ)



梨の芯

金子みすゞ

梨の芯はすてるもの、だから
芯まで食べる子、けちんぼよ。

梨の芯はすてるもの、だけど
そこらへほうる子、ずるい子よ。

梨の芯はすてるもの、だから
芥箱へ入れる子、お懶巧よ。

そこらへすてた梨の芯、
蟻がやんやら、ひいてゆく。
「ずるい子ちゃん、ありがとよ。」

芥箱へ入れた梨の芯、
芥取爺さん、取りに来て、
だまっごころごころひいてゆく。

この詩は、「柔軟な考え方を身に付けたい人」に
おすすめの数詩です。

この詩では、「梨の芯はすてるもの」と三回繰り
返し、題名でもある「梨の芯」が、不要なものであ
ることを印象付けています。

また、第一連から第三連まで繰り返しと対句を用
いることで、動きのあるリズムを出しています。声
に出して読むときに意識してほしいところです。

第四連では、前半の常識を覆すものの見方・考え
方が描かれています。人間にとっては無用の長物で
ある「梨の芯」も、蟻にとっては大切な食べ物にな
るのです。人間にとって常識的でお懶巧な行動も、
地球上の他の生物からすれば、資源の無駄遣いにな
ってしまうのかもしれない。

私たちは、もしかしたら他で役立つかもしれない
たくさんものを気付かずに捨ててしまっている
のかもしれない。この詩では、使い捨て社会を見
直してみませんかと訴えているようです。

ゴミだと思っていたものが資源だったりするよ
うに、物事を決めつけずに、いろいろな立場に立っ
て、様々な見方や考え方ができるようになりたいも
のです。

二年〇組〇番 〇〇 〇〇

みんなを好きに

金子みすゞ

私は好きになりたいな、
何でもかんでもみいんな。

葱も、トマトも、おさかなも、
残らず好きになりたいな。

うちのおかずは、みいんな、
母さまがおつくりになったもの。

私は好きになりたいな、
誰でもかれでもみいんな。

お医者さんでも、鳥でも、
残らず好きになりたいな。

世界のものはみいんな、
神さまがおつくりになったもの。

この詩は、「苦手な友だちがいる人」や「友だち
関係で悩んでいる人」に読んでほしい詩です。

この詩では、みんなという言葉をも、一般的な「み
いんな」から、嫌いな食べ物を含める「みいんな」、
この世のすべてのものという強い気持ちを含めた
「みいんな」と三通りに使い分けています。

詩の構成は、第一連から第三連までの前半と、第
四連から第六連までの後半に分けられます。全体に
反復と対句が用いられ、前半は読者の共感が得られ
やすい食事のことを具体例とし、後半では読者に訴
えたいことを書いています。しかし、後半は抽象的
な表現なので、読者それぞれの体験によって伝わっ
てくることは違うでしょう。

私は、小学生の頃、特定の友だちが好きになれず、
意地悪を繰り返していた時期があります。私にとっ
て、後半部分は、意地悪されていた友だちの声のよ
うに聞こえてきます。そういう悲しい思いを友だち
にさせていた自分に気付かされました。

友だちの良さに気付かず嫌いになってしまっ
ている人、自分は嫌われているのではないかと不安に
感じている人、すべての人が、相手を思いやる温か
い心を思い出してほしい。

二年〇組〇番 〇〇 〇〇

二年 組 番・氏名

◎二つの推薦文の書かれ方を読み取ろう！
それぞれ段落でどのようなことを書いているのか確認しよう。

<p>「梨の芯」 この詩は、「柔軟な考え方を身に付けたい人」におすすめの詩です。</p>	<p>「みんなを好きに」 この詩は、「苦手な友だちがいる人」や「友だち関係で悩んでいる人」に読んでほしい詩です。</p>	<p>書かれている事柄(要素) ☆どんな人に読んでほしいか。 【表現の例】 ・こんな人に読んでほしい ・こんな人におすすめです ☆心情を表すなど、キーワードとなりそうな語句についての自分の考え。 【表現の例】 ・印象付ける ・強い気持ちを込めた ・使い分けている</p>
<p>また、第一連から第三連まで繰り返して対句を用いることで、動きのあるリズムを出しています。声に出して読むときに意識してほしいところです。</p>	<p>この詩では、「みんなという言葉を、一般的な「みんな」から、嫌いな食べ物を含める「みいんな」「この世のすべてのもの」という強い気持ちを込めた「みいんな」と三通りに使い分けています。</p>	<p>☆表現の特徴についての自分の考え。 【ポイント】 ・表現技法(反復、対句、体言止め、倒置など) ・リズム、音読 ・文末表現 ☆構成や内容についての自分の考え。 【ポイント】 ・連と連との関係 ・反復と対句 ・最も伝わってくることを 【表現の例】 ・描かれている、くになる、かもしれない、分けられる、書いている、くでしよう</p>
<p>第四連では、前半の常識を覆すものの見方、考え方が描かれています。人間にとっては無用の長物である「梨の芯」も、嫌にとつては大切な食べ物になるのです。人間にとつて常識的でお利巧な行動も、地球上の他の生物からすれば、資源の無駄遣いになってしまふのかもしれない。</p>	<p>詩の構成は、第一連から第三連までの前半と、第四連から第六連までの後半に分けられます。全体に反復と対句が用いられ、前半は読者の共感が得られやすい食事のことを具体例とし、後半では読者に訴えたいことを書いています。しかし、後半は抽象的な表現なので、読者それぞれの体験によって伝わってくることは違うでしょう。</p>	<p>☆詩の内容と自分の知識や体験との関連。 【ポイント】 ・こういう体験がある ・こういうことと同じだ 【表現の例】 ・かもしれない、くのような、くがある、くのように思える、気がされた ☆どんな人に読んでほしいのかを、詩から受け取られる内容と関連付けて、具体的にもう一度書く。 【表現の例】 ・こうなりたい、してほしい</p>
<p>私たちは、もしかしたら他で役立つかもしれないくさんのものを気付かず捨ててしまっているのかもしれない。この詩では、使い捨て社会を見直してみませんかと呼んでいるようです。</p>	<p>私は、小学生の頃、特定の友だちが好きになれず、意地悪を繰り返していた時期があります。私に比べて、後半部分は、意地悪されていた友だちの声のように聞こえてきます。そういう悲しい思いを友だちにさせていた自分に気付かされました。</p>	<p>☆詩の内容と自分の知識や体験との関連。 【ポイント】 ・こういう体験がある ・こういうことと同じだ 【表現の例】 ・かもしれない、くのような、くがある、くのように思える、気がされた ☆どんな人に読んでほしいのかを、詩から受け取られる内容と関連付けて、具体的にもう一度書く。 【表現の例】 ・こうなりたい、してほしい</p>

二年 組 番・氏名

◎「明日」で推薦できる内容をメモしよう！

<p>事柄(要素) ☆どんな人に読んでほしいか。 【表現の例】 ・こんな人に読んでほしい ・こんな人におすすめです ☆心情を表すなど、キーワードとなりそうな語句についての自分の考え。 【表現の例】 ・印象付ける ・強い気持ちを込めた ・使い分けている</p>	<p>メモ(箇条書きでよい)</p>
<p>☆表現の特徴についての自分の考え。 【ポイント】 ・表現技法(反復、対句、体言止め、倒置など) ・リズム、音読 ・文末表現 ☆構成や内容についての自分の考え。 【ポイント】 ・連と連との関係 ・反復と対句 ・最も伝わってくることを 【表現の例】 ・描かれている、くになる、かもしれない、分けられる、書いている、くでしよう</p>	
<p>☆詩の内容と自分の知識や体験との関連。 【ポイント】 ・こういう体験がある ・こういうことと同じだ 【表現の例】 ・かもしれない、くのような、くがある、くのように思える、気がされた ☆どんな人に読んでほしいのかを、詩から受け取られる内容と関連付けて、具体的にもう一度書く。 【表現の例】 ・こうなりたい、してほしい</p>	

中学校第3学年単元構想 光村；「握手（小説）」

H25. 5. 20 総合教育センター開発

【生徒の実態】

- 第1学年では、場面の展開、登場人物の心情や行動、情景描写に着目して紹介文を書く学習経験をしている。
- 第2学年では、詩の構成や表現の仕方、詩に表れているものの見方や考え方について知識や体験と関連付けて自分の考えもち、詩の推薦文を書く学習経験をしている。
- 感想交流をするためや、紹介したり推薦したりするために文学作品を読むという経験をしているが、評価するために本を読むという経験はない。また、文学作品を評価することが自分たちにとってどのような価値があるのかについては実感できていない。

【身に付けさせたい力】

- ◎批評するという意図をもちながら
 - 登場人物の設定の仕方をとらえ、内容を理解し、評価する力。(C-1)
 - 構成や展開、表現の仕方について評価する力。(C-ウ)
 - 書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方について評価して自分の表現に役立てるとともに、ものの見方や考えを深めること。(B-エ)

【単元を貫く言語活動】

登場人物の設定の仕方、構成や展開、表現の仕方について、「文芸批評文」にまとめる。

【言語活動の特徴】

「文芸批評文」:600字詰め原稿用紙1枚。これまでの学習経験を生かし、序論・本論・結論の3段落構成とし、第1段落に評価語彙を用いた作品評価、第2段落に評価の根拠(場面設定・人物設定・構成や展開・表現の仕方について)、第3段落にまとめを書くものとする。

「文芸批評文」は、文学作品の価値を論じ、その価値を広めることに目的がある。自分がその書き手となるためには、評価の根拠を整理しつつ、相手が納得するように論じなければならない。文芸評論を書くことは、文学作品の深い内容理解に役立ち、評論を交流することは、自分の表現に役立つとともに、ものの見方や考え方を深めることにつながる。

1. 単元名 「文芸批評文」に挑戦しよう！ ～小説を批評し、人間について考えを深める～

2. 単元の目標 課題の芥川作品の中から批評したい小説を選び、登場人物の設定の仕方、構成や展開、表現の仕方をとらえ、「文芸批評文」にまとめることができる。

3. 単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

☆自分が批評したい小説を選び、評価の理由を明らかにしながら対象となる作品を読み返し、相手が納得できるように考えて批評文を書いている。

【書く能力】

☆取材として文章を繰り返し読み、評価とその根拠を明確にして、構成を工夫している。(B-ア)

☆書いた批評文を読み合い、結論に導くための根拠の取り上げ方や論理の展開の仕方について評価し、自分のものの見方や考え方を深めている。(B-エ)

【読む能力】

☆小説を読んで批評するために、登場人物の設定の仕方を捉えて、文章全体の理解を深めている。(C-1)

☆複数の小説を読み比べ、構成や展開、表現の仕方の違いに気づき、文章の形式の特徴や効果について評価している。(C-ウ)

【言語についての知識・理解・技能】

☆小説が書かれた時代の言葉の意味や使われ方に着目して読んでいる。(イ(ア))

☆学年別漢字配当表に示されている漢字を適切に使って文章を書いている。(ウ(イ))

4. 教材 「握手」、「走れメロス」(教師モデル)、「『批評』の言葉をためる」、「藪の中」(文庫本)

5. 単元の展開 (全 10 時間)

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント (○) 学習活動に即した評価規準 (関・読・言) 等	
第0次		<ul style="list-style-type: none"> ○朝読書等で教師自作の紹介文、推薦文、感想文、批評文を読ませる。 ○可能な範囲で、芥川龍之介の『藪の中』(「藪の中」「蜘蛛の糸」「羅生門」「地獄変」「鼻」「杜子春」が収められた文庫本)を読ませる。 		
第1次	第1時	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習経験を思い起こす。 ○紹介文、推薦文、感想文、批評文を区別し、違いを整理する。 ○単元名を確認する。 ○モデル文の書かれ方の良さを見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介文、推薦文、感想文を書いたことを想起させる。 ・分析表を利用させる。 ○「登場人物の設定、構成や展開、表現の仕方」の要素を押さえたモデルを提示する。 関 批評するという目的をもって読もうとしている。(学習計画表・評価シート) 	
	第2時	<ul style="list-style-type: none"> ○『「批評」の言葉をためる』を読んで、「批評」の良さについて確認する。 ○学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 関 批評の意味や意義を知り、批評の言葉を集めようとする。 ○学習過程カードをヒントにする。 	
第2次	第3時	<ul style="list-style-type: none"> ○「握手」の人物設定を読む。 ・個人で考える。 ・4人グループで交流する。 ・全体で交流する。(交流内容の発表) ○人物設定から「握手」を批評する。 ○自分が批評したい芥川作品を読む。 	並行読書(芥川ら作品の中から自分が批評したい小説を選んで読む)	<ul style="list-style-type: none"> 関 評価の理由を明らかにしながら、対象となる作品を読み返している。 読 批評するために、場面や登場人物の設定の仕方を捉えて、文章全体の理解を深めている。 言 小説が書かれた時代の言葉の意味や使われ方に着目して読んでいる。
	第4時	<ul style="list-style-type: none"> ○「握手」の構成や展開を読む。 ・個人で考える。 ・4人グループで交流する。 ・全体で交流する。(交流内容を発表) ○構成や展開から「握手」を批評する。 ○自分が批評したい芥川作品を読む。 		<ul style="list-style-type: none"> 関 評価の理由を明らかにしながら、対象となる作品を読み返している。 読 構成や展開の違いに気付き、文章の形式の特徴について評価している。 言 小説が書かれた時代の言葉の意味や使われ方に着目して読んでいる。
	第5時	<ul style="list-style-type: none"> ○「握手」の表現の仕方を読む。 ・個人で考える。 ・4人グループで交流する。 ・全体で交流する。(交流内容の発表) ○表現の仕方から「握手」を批評する。 ○自分が批評したい芥川作品を読む。 		<ul style="list-style-type: none"> 関 評価の理由を明らかにしながら、対象となる作品を読み返している。 読 表現の仕方の違いに気付き、文章の形式の特徴や効果について評価している。 言 小説が書かれた時代の言葉の意味や使われ方に着目して読んでいる。
	第6時	<ul style="list-style-type: none"> ○モデル文の書かれ方を再確認する。 ○「握手」の批評文を書く。 ・個人で書く。 ・人物設定、構成や展開、表現の仕方を根拠とする。 		<ul style="list-style-type: none"> 書 文章を繰り返し読み、評価とその根拠を明確にして、構成を工夫している。 言 学年別漢字配当表に示されている漢字を適切に使って文章を書いている。
	第7時	<ul style="list-style-type: none"> ○「握手」の批評文を交流する。 ・批評文の書き方として、良いと思ったものを理由を明らかにして選ぶ。 ・4人グループで交流する。 ・全体で交流する。 		<ul style="list-style-type: none"> 書 書いた文芸批評を読み合い、結論に導くための根拠の取り上げ方や論理の展開の仕方について評価し、自分のものの見方や考え方を深めている。
	第8時	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が選んだ芥川作品の批評文を書く。 ・個人で書く。 ・人物設定、構成や展開、表現の仕方を根拠とする。 		<ul style="list-style-type: none"> 関 自分が批評したい小説を選び、相手が納得できるように考えて批評文を書いている。 書 文章を繰り返し読み、評価とその根拠を明確にして、構成を工夫している。 言 学年別漢字配当表に示されている漢字を適切に使って文章を書いている。
	第9時	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が選んだ芥川作品の批評文を交流する。 ・4人グループで交流する。 ・全体で交流する。 		<ul style="list-style-type: none"> 書 書いた文芸批評を読み合い、結論に導くための根拠の取り上げ方や論理の展開の仕方について評価し、自分のものの見方や考え方を深めている。
第10時	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習のまとめを行う。 ・芥川作品の批評文を消書して提出する。 ○単元の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 関 相手が納得できるように考えて批評文を書いている。 		
第4次		<ul style="list-style-type: none"> ○各生徒の批評文を、それぞれの保護者に届け、感想をもらう。 		

三年 組 番・氏名

『走れメロス』は、登場人物の心情が巧みに描かれた太宰文学の最高傑作である。

この小説には「正義と信実の牧人メロス」と「人の心を疑ってやまない暴君ディオニス」が登場する。この二人は対立する人物ともとらえられるが、人間や希望を信じたという同じ気持をもった人物とみることもできる。

クライマックスでは、たび重なる困難のために投げやりになっていたメロスが、わき出る清水を飲むことで、以前よりも強く、王との約束を果たそうと決意する。悩みや迷い、誘惑を乗り越え、人間として気高く生きようというメロスの心情が話の展開とともに最高潮に達する。

話は第三者の視点から語られ、語り手は、複数の人物の内面に立ち入って心情を説明している。「走れメロス」のように、読者に成り代わって語り手の気持ちを吐露している箇所もある。このことで、読者は、それぞれの人物に感情移入し、多面的に物語を理解できる。「初夏、満天の星である」のように、鮮やかな情景描写により心情を表現するなど、多彩な表現も用いられている。

このように、対立する登場人物の心の共通点、困難を乗り越えていく心の高まり、人物になり切った語り方や巧みな情景描写によって、心情の機微を見事に描いているのである。

*注意：モデル文に書き込みながら考える。分析の視点を順番に全部考える必要はない。

【良さを見つけるヒント】…ヒントそのものが良さになることもある。

- 1 形式段落に番号をつける。
- 2 文章の構成を考える。
- 3 序論と結論の役割を考える。
 - ① 序論の役割
 - ② 結論の役割
- 4 「頭括型・尾括型・双括型」本論を検討する。
 - ① 本論の意味段落に何が書かれているか。
 - ② 意味段落の要素(事例・事実・根拠)
 - ③ 意味段落の順序
 - ④ 本論と序論、あるいは本論と結論の結びつき。表現を検討する。
- 5 文末表現、つなぎ言葉、対比表現、引用、など。

三年 組 番・氏名

自分たちで気付いた、モデル文の良さをグループピングでまとめよう。

【グループワークの進め方】

- 1 全員が起立して、司会者、記録者、計時、発表者の役割を決めます。
- 2 役割が決まったら、着席をして、先生の指示で、話し合いを始めます。
- 3 話し合いの進め方

<p>① それではこれから、モデル文の良さについてグループの考えをまとめます。時間は八分です。計時係は四分前、一分前を知らせてください。初めに◎◎さんが気付いた良さを発表してください。</p> <p>② それでは、初めに◎◎さんが気付いた良さを発表してください。</p> <p>③ 次に、△△さんが気付いたことを発表してください。</p> <p>④ 次に、□□さん、お願いします。最後に、私の考えです。</p> <p>⑤ 四人の気付いたことをまとめると、△△という良さ、□□という良さ、○○の○つになりそうですが、どうですか。(意見がまとまるまで、みんなから意見をとり。○○さんどう思いますか)</p> <p>⑥ 意見がまとまったので、記録者は短冊用紙に、良さを短い言葉にまとめたものを書き写してください。発表者の人は、短冊をもとに発表の練習をしてみてください。</p> <p>⑦ これで、グループの話し合いを終わります。</p> <p>⑧ 残りの時間は、もう一度モデル文を読み返し、話し合いには出なかつてもいいか各自で考えてみてください。</p>	<p>みなさんの活動</p> <p>* 各自の付せんは、鉛筆で縦書き。 * 記録者が書く短冊は、ペンで縦書き。 * 計時係は、タイマーを見ながら話し合いに参加する。 * ◎◎さんは、A3用紙に付せんを貼りながら自分が気付いたことをすべて簡潔に説明する。付せんは、内容的に近いと思ったものを近くに、遠いと思ったものを遠くに貼っていく。 * △△さんは、○○さんと同じか近いと思ったものは、○○さんの付せんの近くに貼りながら説明する。(グループピングする) * △△さんのグループピングの仕方に意見がある場合は、意見を述べる。 * 以下は、△△さんと同じ方法で進める。 * 司会者がグループピングしたものをまとめて、良さを短い言葉にまとめて、A3用紙に書く。</p> <p>* 記録者は、短冊にペンで書く。(縦書き)</p> <p>* 短冊をもとに、グループで気付いたモデル文の良さを説明してみる。 説明の例：「グループで出した良さは、です。これはこういう本で良さと書きます。」 * 他のグループの人が聞いて分かるように説明しているか聞いて、分かりにくい場合には、どうすれば分かりやすくなるか意見を出す。 * 時間がある場合は、各自もう一度考える。</p>
--	--

4 発表の仕方

- ① 1グループ目は、すべてを説明する。
- ② 先生の指示で、他のグループは、1グループと同じものを黒板に貼る。
- ③ 2グループ目は、残った短冊のみ説明する。
- ④ 先生の指示で、他のグループは、2グループと同じものを黒板に貼る。
* 以下同じことを繰り返し、学級でグループピングを完成させる。

時間の目安：「4分前」全員の発表が終わっている。「1分前」短冊に書き終わっている。

三年 組 番・氏名

この単元では、「批評の言葉」を用いて批評文を書く学習を行います。読み手を共感させたり納得させたりできるような「批評の言葉」をためてみましょう。先生が集めた「批評の言葉」を参考に、新聞記事や本のあとがきなどから見つけた言葉や表の言葉からヒントを得て思い浮かんだことを一つでも多く書き足してください。自分が批評文を書くときに参考にできます。

分類	「批評の言葉」の内容 受賞やランキングなどの評価や反響や知名度などで権威付ける。	「批評の言葉」の具体 ▼大人気 ▼超人気 ▼話題沸騰 ▼大好評 ▼も絶賛
1	内容の特色を説明することで強調する。	▼どれよりも味わいがある ▼最も意義がある ▼世界で一番心に染みる ▼心に欠かせない本 ▼心の不思議を解き明かす
2	あらすじや表現などで物語の特色つけて強調する。	▼ととの交流を描く ▼私たちの愉快なお話 ▼心をゆさぶる愛と感動の物語 ▼とびきり上等の恋愛小説 ▼楽しくもおそろしい物語 ▼幻想的な雰囲気をもした作品 ▼心の情を鮮やかに描きたす心に残る物語
3	読者の立場に立ったり、問いかけたりなど読者を限定して強調する。	▼に贈る本 ▼誰が読んでも… ▼はじめて(読者が)する物語 ▼を知らない世代におすすめる本 ▼子どもから大人まで楽しめる本
4	作者の著名さや評価等を強調する。	▼が描く神秘と不思議 ▼を代表する作家
5	作品世界へのお誘い	▼ページをめくれば、そこは美しい世界 ▼愛と優しさのあるとよよこそ
6		

*参考 井上一郎著 『誰もがつけたい説明力』 明治図書 二〇〇五年より

三年 組 番・氏名

◎モデル批評文の書かれ方を確認しよう。

モデル批評文

書かれ方の解説

① 『走れメロス』は、登場人物の心情が巧みに描かれた太宰文学の最高傑作である。	○批評の言葉「最高傑作」を、詳しく説明する言葉(修飾語)を使っている。
② この小説には「正義と信実の牧人メロス」と「人の心を疑ってやまない暴君ディオニス」が登場する。この二人は対立する人物ともとらえられるが、人間や希望を信じたという同じ気持をもった人物とみることもできる。	○一文目で、叙述をもとにとらえた人物像と共に、主な登場人物二人を紹介している。
③ クライマックスでは、たひ重なる困難のために投げやりになっていたメロスが、わき出る清水を飲むことで、以前よりも強く、王との約束を果たそうと決意する。悩みや迷い、誘惑を乗り越え、人間として気高く生きようというメロスの心情が話の展開とともに最高潮に達する。	○一文目で、クライマックスを中心として話の展開を説明している。
④ 話は第三者の視点から語られ、語り手は、複数の人物の内面に立ち入って心情を説明している。「走れメロス」のように、読者に成り代わって語り手の気持ちを吐露している箇所もある。このことで、読者は、それぞれの人物に感情移入し、多面的に物語を理解できる。「初夏、満天の星である」のように、鮮やかな情景描写により心情を表現するなど、多彩な表現も用いられている。	○一文目で、話の視点でどのように書かれているかを説明している。
⑤ このように、対立する登場人物の心の共通点、困難を乗り越えていく心の高まり、人物になり切った語り方や巧みな情景描写によって、心情の機微を見事に描いているのである。	○二文目で、引用を用い、視点にかかわって、特に特徴のある書き方を取り上げている。
	○三文目で、このような書き方による効果を説明している。
	○四文目で、よく使われている表現方法の中から一つを引用し、その効果を説明している。
	○「このように」という言葉を用い、第二段落から第四段落の内容をまとめています。
	○第二段落で対立する登場人物の心の共通点
	○第三段落で困難を乗り越えていく心の高まり
	○第四段落で人物になり切った語り方や巧みな情景描写
	○最後の部分は、第一段落の「心情が巧みに描かれた」を言いかえている。
	○「のである」は最高傑作の理由を示す文末表現として使っている。

中学校第3学年単元構想 光村；「月の起源を探る(説明文)」

H25. 9. 18 総合教育センター開発

【生徒の実態】

- 第1学年では、事実と意見の述べ方に着目し、結論につながる本論を自分で考えて、筆者の文章に一段落を書き加える学習経験をしている。
- 第2学年では、筆者のものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをまとめる学習経験をしている。
- 感動したこと、憤りを感じたことなど、気になった内容の新聞記事をスクラップにして、コメントをまとめる活動を1年生から行なっているが、記事の書かれ方の工夫について、自分の考えをまとめる学習経験はない。

【身に付けさせたい力】

説明のワザをまとめるという目的をもちながら、

- 文章の論理の展開の仕方を理解する力。(C-イ)
- ◎構成や展開、表現の仕方について評価する力。(C-ウ)
- 新聞を読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりする力。(C-オ)

【単元を貫く言語活動】

文章の構成や展開、表現の仕方の工夫を、「説明のワザ」にまとめる。

【言語活動の特徴】

「説明のワザ」:A3判用紙に、新聞記事の中から見つけた説明の良さや工夫をまとめる。自分が取り上げたい説明の記事をコピーで貼り付け、サイドラインや囲み等を付け、工夫していると思った点を解説する。

「説明のワザ」としては、文章の構成や展開、見出しの付け方、引用や事例、図や写真、表やグラフ、質疑応答形式、語句の使い方…などが考えられるが、その一般的な効果については学習シートによって知識を得させ、自分が取り上げた具体的な説明の仕方について解説できるようにさせたい。その際に、伝えなかった事柄と関連付けて解説することが大切である。このことが、構成や展開、表現の仕方について評価する力を高めることにつながるものと考え。また、このように、「説明のワザ」を見つけてまとめることは、自分自身が表現する際に活用できる技能的知識を身に付けることにもつながる。

1. 単元名 新聞から「説明のワザ」を見つけよう！

2. 単元の目標 新聞から自分が評価したいと考えた記事を選び、文章の構成や展開、表現の仕方をとらえ、「説明のワザ」にまとめることができる。

3. 単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

☆自分が評価したい新聞記事を選び、評価の理由を明らかにしながら対象となる記事を読み返し、解説をまとめている。

【読む能力】

☆新聞記事を読んで評価するために、文章の論理の展開の仕方について理解を深めている。(C-イ)

☆複数の新聞記事を読み比べ、構成や展開、表現の仕方の違いに気付き、文章の形式の特徴や効果について評価している。(C-ウ)

☆複数の新聞記事を読み、これまでに気付かなかった伝え方の工夫を見つけ、その良さを解説している。(C-オ)

【言語についての知識・理解・技能】

☆慣用句・四字熟語や、和語・漢語・外来語の使い分けに着目して読んでいる。(イ(イ))

4. 教材 「月の起源を探る」、各自が選んだ新聞記事

5. 単元の展開 (全 8 時間)

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント (○) 学習活動に即した評価規準 (関・読・言) 等
第0次		○昨年度までに取り組んだ新聞記事スクラップを掲示する。	
第1次	第1時	○これまでの新聞スクラップの活動を思い起こす。 ○これまでのスクラップと「説明のワザ」を解説したスクラップを比べる。 ○モデルを分析する。 ○単元名と学習後に身に付く力を確認する。	○内容面と形式面という、記事の取り上げ方の違いに気付かせる。 関 評価するという目的をもって読もうとしている。 (学習計画表・評価シート)
	第2時	○「月の起源を探る」を読み、説明の工夫を見つける。 ○この単元では「構成や展開、見出しの付け方、引用や事例、図や写真、表やグラフ、質疑応答形式、語句の使い方等」について、伝えたいことと関連付けて評価することを学ぶ。 ○学習計画を立てる。	○項目的に取り上げ、具体的にどのような効果があるのかについては、本文を読みながら考えていくことを確認する。 ○学習過程カードをヒントにする。 関 評価するという目的をもって読もうとしている。 (学習計画表・評価シート)
第2次	第3時	○「月の起源を探る」の構成や展開を考える。 ・個人で考える。 ・4人グループで交流する。 ・全体で交流する。(交流内容の発表) ○自分が評価したい新聞記事を読む。	並行読書(新聞から自分が評価したい記事を選んで読む) 読 評価するために、構成や展開をとらえて、文章全体の理解を深めている。 言 慣用句・四字熟語や、和語・漢語・外来語の使い分けに着目して読んでいる。 読 評価するために、見出しと本文の関係をとらえて、文章全体の理解を深めている。 言 慣用句・四字熟語や、和語・漢語・外来語の使い分けに着目して読んでいる。 読 表現の仕方の違いに気付き、文章の形式の特徴や効果について評価している。 言 慣用句・四字熟語や、和語・漢語・外来語の使い分けに着目して読んでいる。 読 筆者が伝えたかったことと関連付けて、表現の仕方を評価している。
	第4時	○「月の起源を探る」の小見出しについて考える。 ・個人で考える。 ・4人グループで交流する。 ・全体で交流する。(交流内容を発表) ○自分が評価したい新聞記事を読む。	
	第5時	○「月の起源を探る」の写真や図の役割と効果を考える。 ・個人で考える。 ・4人グループで交流する。 ・全体で交流する。(交流内容の発表) ○自分が評価したい新聞記事を読む。	
	第6時	○「月の起源を探る」で筆者が伝えたかったこと、説明の仕方について感想をまとめる。 ・個人で考える。 ・4人グループで交流する。 ・全体で交流する。(交流内容の発表) ○自分が評価したい新聞記事を読む。	
	第7時	○自分が選んだ新聞記事の「説明のワザ」をまとめる。 ・一つにかぎらず、まとめられる範囲で多くのワザをまとめさせる。	
第3次	第8時	○単元の学習のまとめとして、各自の「説明のワザ」を交流し、ワザとして素晴らしいと思ったものに「いいねシール」を貼り、コメントを書く。 ○単元の学習を振り返る。	関 説明の仕方の良さについて理解を深め、自分の表現に生かそうとしている。
	第4次	○各自の「説明のワザ」を教室や廊下に掲示し、ワザとして素晴らしいと思ったものに「いいねシール」を貼り、コメントを書く。 ○岩手県新聞コンクール・スクラップブックの部に応募する。	

新聞から「説明のワザ」を見つけよう！
 三年 組 番・氏名

学習評価シート(一時間目) 8時間目

【単元の目標】

新聞から自分が評価したいと考えた記事を選び、文章の構成や展開、表現の仕方をとらえ、「説明のワザ」にまとめることができる。

一	学習活動計画 ○学習経験を思い出す。 ○モデルを分析する。 ○単元名と学習後に身に付く力を確認する。	評価 得意() 満足() 楽しかった() がんばった() がんばりた() など
二	○「月の起源を探る」を読み、説明の工夫を見つける。 ○学習の進めを確認する。 ○学習計画を立てる。	
三		
四		
五		
六		
七		
八	○モデルのようなスタンプを作って交流する ○単元の学習を振り返る	

(評価) とても楽しい4 楽しい3 あまり楽しくない2 楽しくない1

新聞から「説明のワザ」を見つけよう！
 三年 組 番・氏名

学習シート(二時間目)

【説明のワザ】の書き方

モデル文を分析しよう。 ↓ 文末表現に注目しどんな時に使う表現？

見出し	「説明のワザ」前半 二つの見出しを「問い-答え」の形で付けることで、この記事で読者に伝えたいことを分かりやすく明確に示している。	要案(何を書いているか)
書き方	読者の読みやすいように「のちやん」が「藤原先生」に質問する形で説明が進んでいく。	
構成	構成は「話題-問い-事例①(宇宙飛行士が浮いていられる理由)-答え(隕石が落ちてくる理由)-事例②(彗星について)」となっている。	
写真	地球の軌道と隕石の軌道がぶつかるというイメージを図によって示している。	
図	また、話題である博物館の隕石の写真や隕石が落ちてきたときに湖の上にあった穴など、実物を写真で示している。	

見出し	「説明のワザ」後半 読者は、見出しを踏むだけで、隕石が落ちてくるのは、地球と隕石の軌道がぶつかるからだと知ることが出来る。さらに、「地球と隕石の軌道がぶつかる」とはどういうことだろう」と興味をもって記事を読むための工夫にもなっている。	要案(何を書いているか)
書き方	読者は、自分が「のちやん」になりきって「藤原先生」の説明を聞くことができる。「のちやん」の質問は、読者が知っていることである。この工夫によって、読者は、読者が知っている理由を、宇宙飛行士や彗星と比較しながら説明を進めることで、その仕組みが分かり易くなるよう工夫している。	
構成	図や写真で示すことで、文章だけでは分かり難い様子や、読者が想像し易いように工夫している。図を見ると、隕石が小惑星帯にある天体で、地球と同じように太陽の周りを回っていることやその軌道がぶつかることという意味が理解し易い。	
写真	図や写真で示すことで、文章だけでは分かり難い様子や、読者が想像し易いように工夫している。図を見ると、隕石が小惑星帯にある天体で、地球と同じように太陽の周りを回っていることやその軌道がぶつかることという意味が理解し易い。	
図	図や写真で示すことで、文章だけでは分かり難い様子や、読者が想像し易いように工夫している。図を見ると、隕石が小惑星帯にある天体で、地球と同じように太陽の周りを回っていることやその軌道がぶつかることという意味が理解し易い。	

【記事の感想】の書き方

感想	図を見ることで、隕石がなぜ落ちてくるのかが理解し易かった。隕石が落ちてくるとは、太陽の周りを公転している天体どうしがぶつかることなのだとということが想像できた。	要案(何を書いているか)
ワザ	隕石が地球と同じような天体であるとは驚きであった。隕石が落ちてきたというよりは、隕石がぶつかったという表現のほうがあなをわし()とも初めて知った。	
内容	隕石の軌道や彗星の尾の軌道についてもっと知りたかった。	

三年 組 番・氏名

「月の起源を探る」を読み、説明のワザを見つけよう。

★説明のワザとは、() (が) () (に) 伝えたいことがよく伝わるように考えた工夫のこと。

- 【説明のワザの例】
- 文章構成……文章の組み立て方(例 序論・本論・結論など)
 - 文章展開……話の広げ方(例 事例の挙げ方・事例の順番など)
 - 見出し……文章につける標題(例 文章の要約や要旨など)
 - 引用……考えの根拠として他の文章や個人の語を用いること
 - 事例……前例となる事実
 - 語句の使い方……例 文末表現(断定、不確かな断定など)
 - 質疑応答形式 □ グラフや表 □ 図や写真

★「月の起源を探る」で使われている説明のワザのうち、あなたが気付いたものを三つ挙げよう。

(その工夫があることで、伝えたいことが分かりやすくなっていると考えたもの)

①
②
③

みんなで読み解いていく説明のワザを三つに絞ろう。

①
②
③

★この単元の学習計画を立てよう。↓左の表に自分の考えを書いてみよう。

・「月の起源を探る」を、みんなで作るのようにならなう。

・各個人がモデルのようなスクラップを作るためにはどうすればよいか。

・これまでの単元の学習過程を思い出そう。

①	・これまでの学習を振り返る	・モデルを分析する	・単元の学習を見通す
②	・「月の起源を探る」から説明の工夫を見つける	・学習計画を立てる	
③			
④			
⑤			
⑥			
⑦			
⑧	・モデルのようなスクラップを作って交流する	・単元の学習を振り返る	

※みんなを確認してから、学習評価シートに書こう。

三年 組 番・氏名

「月の起源を探る」の構成や展開を考えよう。

- ① 学習シート②の2を使って考えよう
- (1) 形式段落に番号を振ろう
 - (2) 序論・本論・結論に分けよう
 - (3) 序論はどのような役割を果たしているか考えよう(一つだけではないかも)
 - (4) 結論はどのような役割を果たしているか考えよう(一つだけではないかも)
 - (5) 本論はいくつの意味段落に分けられるか考えよう
 - (6) 意味段落がどのように展開されているか考えよう(仮説・検証・実験・考察……)
 - (7) 意味段落どうしがどのような関係にあるか考えよう

<p>② 次の表を使って、「説明のワザ」についてまとめよう</p> <table border="1" style="width: 100%; height: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <p>モデル</p> <p>構成は</p> <p>「話題ー問いー事例①(宇宙飛行士が浮いていられる理由)ー答え(隕石が落ちてくる理由)ー事例②(彗星について)」</p> <p>となっている。</p> <p>隕石が落ちてくる理由を、宇宙飛行士や彗星と比較しながら説明を進めることで、その仕組みが分かり易くなるよう工夫している。</p> </td> <td style="width: 50%;"> <p>「月の起源を探る」の構成や展開</p> <p>何を書けばいいのー)</p> </td> </tr> </table>	<p>モデル</p> <p>構成は</p> <p>「話題ー問いー事例①(宇宙飛行士が浮いていられる理由)ー答え(隕石が落ちてくる理由)ー事例②(彗星について)」</p> <p>となっている。</p> <p>隕石が落ちてくる理由を、宇宙飛行士や彗星と比較しながら説明を進めることで、その仕組みが分かり易くなるよう工夫している。</p>	<p>「月の起源を探る」の構成や展開</p> <p>何を書けばいいのー)</p>	<p>何を書けばいいのー)</p>
<p>モデル</p> <p>構成は</p> <p>「話題ー問いー事例①(宇宙飛行士が浮いていられる理由)ー答え(隕石が落ちてくる理由)ー事例②(彗星について)」</p> <p>となっている。</p> <p>隕石が落ちてくる理由を、宇宙飛行士や彗星と比較しながら説明を進めることで、その仕組みが分かり易くなるよう工夫している。</p>	<p>「月の起源を探る」の構成や展開</p> <p>何を書けばいいのー)</p>		

- ③ グループで交流し、自分がまとめた「説明のワザ」を推し進めよう
- (1) お互いに書いたものを回し読みし、気になるところにサイドラインを引く。
 - (2) サイドラインを中心に、それぞれが書いたものに対する意見を述べる。
 - (3) 書いたものは、絶対に消しゴムでは消さない。
 - (4) それぞれが、空いてところに書き直すか、棒線を書いて書き直す。

三年 組 番・氏名

「月の起源を探る」の小見出しについて考えよう。

① 次の表を使って考えよう	小見出し	なぜ、このような小見出しをつけたのだろう
はじめに		
不思議な衛星・月		
親子が兄弟か、それとも他人か		
衝突から月へ		
月を作る実験		
新たな研究へ		

★他の小見出しが考えられないだろうか

- ★例えば、「はじめに」を「月の起源の謎」としなかったのはなぜか
 「新たな研究へ」を「おわりに」としなかったのはなぜか
 ② 次の表を使って、「説明のワザ」についてまとめよう
 ↓途中まででも構いませんので、考え付いたことを少しでも書きこよう

モデル	二つの見出しを「問いー答え」の形で付けることで、この記事で読者に伝えたいことを分かりやすく明確に示している。	「月の起源を探る」の小見出し 何を書けばいいの↓
	読者は、見出しを読むだけで、隕石が落ちてくるのは、地球と隕石の軌道がぶつかるからだを知ることができる。さらに、「地球と隕石の軌道がぶつかる」とはどういうことだろう」と興味をもって記事を読むための工夫にもなっている。	何を書けばいいの↓

- ③ グループで交流し、自分がまとめた「説明のワザ」を推蔵しよう
 ※進め方は、前の時間と同じ

三年 組 番・氏名

「月の起源を探る」の写真と図の役割や効果について考えよう。

① 次の表にまとめよう	図や写真	役割や効果
	探査機から撮影した写真	
	図1	
	図2	
	図3	
	図4	
	シミュレーション映像	

- ② 右の表から一つを選び、「説明のワザ」についてまとめよう
 モデル
 地球の軌道と隕石の軌道がぶつかるというイメージを図によって示している。
 また、話題である博物館の隕石の写真や隕石が落ちたときに湖の上にあいた穴など、実物を写真で示している。

モデル	右の表から一つを選び、「説明のワザ」についてまとめよう 地球の軌道と隕石の軌道がぶつかるというイメージを図によって示している。また、話題である博物館の隕石の写真や隕石が落ちたときに湖の上にあいた穴など、実物を写真で示している。	「月の起源を探る」の写真や図 何を書けばいいの↓
	図や写真で示すことで、文章だけでは分かり難い様子を、読者が想像し易いように工夫している。図を見ると、隕石が小惑星帯にある天体で、地球と同じように太陽の周りを回っていることやその軌道がぶつかるという意味が理解し易い。	何を書けばいいの↓

- ③ グループで交流し、自分がまとめた「説明のワザ」を推蔵しよう
 ※進め方は、前の時間と同じ

C 一教材文を表現モデルそのものにとらえる学習過程例

中学校第2学年単元構想 光村；「枕草子（古典）」

H24. 6. 6 総合教育センター開発

【生徒の実態】

- 第1学年教材「竹取物語」では、登場人物などの描写や会話に注意し、叙述を基に想像して読み、想像した内容を報道記事にまとめる学習を行った。
- これまでに古典作品でも現代文でも、随筆という形式を意識して読み取った経験はない。また、教材文そのものを自分が表現するためのモデルと考えて内容と形式を分析的に読み取った経験はない。

【身に付けさせたい力】

- 随筆を書くという目的をもって、
- 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをまとめる力。(C-エ)
 - ◎文章に表れたものの見方や考え方に触れ、筆者の思いを想像する力。(伝-ア(イ))

【単元を貫く言語活動】

清少納言の書きぶりをまね、現代の清少納言として「現代版枕草子」を書く。

【言語活動の特徴】

「現代版枕草子」:A4判用紙の上段に「枕草子第一段」を視写し、その書きぶりを分析的に読み取る。下段には、清少納言がタイム・スリップして現代に現れたと仮定し、それぞれの生徒が現代の清少納言になりきり、自分の体験と関連付けて「現代版枕草子」として、300字以上400字以内にまとめる。

枕草子を、形式だけでなくその内容や表現をとらえ、書きぶりをまね、自分の体験と関連付けて考え(四季折々に趣を感じるもの)をまとめることは、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、筆者の思いなどを想像する力を育成することにつながるものと考ええる。

1. 単元名 清少納言になりきって「現代版枕草子」を書こう！

2. 単元の目標 『枕草子(第一段)』の内容や表現をとらえ、筆者のものの見方考え方を読み取り、自分の体験と関連付けて四季折々に趣のあるものを随筆にまとめることができる。

3. 単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

☆随筆を書くために、随筆作品を表現モデルとして読み、参考にしながら、自分なりの考えを表現しようとしている。

【読む能力】

☆随筆を書くために、文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをまとめている。(C-エ)

【言語についての知識・理解・技能】

☆随筆を書くために、文章に表れたものの見方や考え方に触れ、筆者の思いを想像している。(伝ア(イ))

☆随筆を書くために、「さらなり」「をかし」「あはれなり」「いとをかし」「言ふべきにあらず」「言ふべきにもあらず」「いとつきづきし」「わろし」などの古典における評価語彙について理解している。(1年言イ(ウ))

4. 教材 「枕草子 第一段」

5. 単元の展開 (全 5 時間)

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント (○) 学習活動に即した評価規準 (関・読・言) 等
第0次		<p>☆枕草子第一段を模造紙に書き、廊下や教室に掲示するなどして関心を高めておく。</p> <p>☆消書用の「現代版枕草子」の上段に枕草子第一段の原文を視写する。(消書用紙)</p>	
第1次	第1時	<p>○生活の中で、四季折々に「趣」を感じているものを出し合い、整理する。 (個人⇒グループ⇒個人⇒全体)</p> <p>○「枕草子 第一段」と比べる。</p> <p>○「清少納言になりきって『現代版枕草子』を書こう」という学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。</p>	<p>関 見通しをもって単元の学習に取り組もうとしている。</p> <p>・学習評価シート</p>
第2次	第2時	<p>○「枕草子 第一段」を読む。</p> <p>・音読をして読み慣れる。 (個人⇒ペア⇒全体)</p> <p>・文種(随筆)を確認する。</p> <p>・書きぶりを読む。(構成、内容、表現)</p> <p>・分析を参考にシートにまとめる。 (全体確認⇒個人⇒グループ⇒全体)</p>	<p>関 第一段を進んで音読しようとしている。</p> <p>読 枕草子を音読して、リズムを味わいながら、古典の世界に触れている。</p>
	第3時	<p>○「枕草子 第一段」を読む。</p> <p>・評価語彙をとらえる。 (個人⇒グループ⇒全体)</p> <p>○補助資料で枕草子を読む。</p>	<p>読 枕草子に表れたものの見方や考え方に触れ、筆者の思いを想像している。</p> <p>・補助資料</p>
	第4時	<p>○自分なりの「現代版枕草子」を書く。 (個人⇒グループ)</p> <p>・個人でまとめる。</p> <p>・下書き練習する。</p> <p>・消書用紙に消書する。</p>	<p>関 四季折々に趣のあるものについて、自分なりの考えを表現しようとしている。</p> <p>読 枕草子に表れたものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをまとめている。</p> <p>言 古典における評価語彙を文章で適切に使用している。</p>
第3次	第5時	<p>○グループで「現代版枕草子」を読み合い、感想を交流する。</p> <p>・良さを見付ける。グループで最優秀を決める。</p> <p>○学級で最優秀(1作品)と優秀(2作品)を選ぶ。</p> <p>○単元の学習を振り返る。</p>	<p>読 枕草子に表れたものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えを広げている。</p> <p>・振り返りシート</p>
第4次		☆学級の「現代版枕草子」を冊子にまとめ、保護者に届け、感想をもらう。	

【単元の目標】





「現代版枕草子」を書く活動を通して、清少納言のものの見方や考え方をとらえ、自分の体験と関連付けて四季折々に趣のあるものを随筆にまとめよう。

（評価 とも楽しい 4 楽しい 3 あまり楽しくない 2 楽しくない 1）

学習活動計画	評価
<p>1</p> <p>○四季折々に趣を感じているものを出し合い、整理する。</p> <p>○「枕草子」と比べる。</p> <p>○単元の見通しをもつ。</p>	<p>感想（楽しかったこと、わかったこと、よくわからなかったこと、頑張ったこと、頑張りたいこと、など）</p>
<p>2</p> <p>○第一段を読む。</p> <p>・音読する。</p> <p>・書きぶりを読む。</p>	
<p>3</p> <p>○第一段を読む。</p> <p>・評価語彙を読む。</p> <p>○補助資料で枕草子を読む。</p>	
<p>4</p> <p>○自分なりの「現代版枕草子」を書く。</p>	
<p>5</p> <p>○お互いの「現代版枕草子」を読み合い、感想を交流する。</p> <p>○学級でメスト3を選ぶ。</p>	

趣Ⅱ（ ）

◎四季折々に「趣」を感じるものについて、マッピングを使って発想を広げてみよう！

<p>共通点</p>		<p>相違点</p>
		
<p>◎グループで交流し、さらに発想を広げ、自分のマッピングに書き足そう。 ☆清少納言と自分が感じる「四季折々の趣」を比べ、共通点と相違点を考えてみよう。</p>		<p>相違点</p>
		

二年 組 番・氏名

【枕草子 第一段】

枕草子のジャンルは↓ () () () () ()

文	春	夏	秋	冬	内容
1	春はあけぼの。	夏は夜。	秋は夕暮れ。	冬はつとめて。	
2	やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。	月のころはさらなり、闇もなほ、蛍の多く飛びちがひたる。	夕日のさして山の端いと近うなりたるに、鳥の寝どころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど、飛びいそぐさへあはれなり。	雪の降りたるは音ふべきにもあらず、霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火などいそぎおこして、炭もて渡るもいとつきづきし。	
3	また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。	まいて雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。	日入り果てて、風の音、虫の音など、はた音ふべきにあらず。		
4	雨など降るもをかし。				
5				昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶の火も白き灰がちになりてわろし。	

二年 組 番・氏名

◎四季それぞれの段落の1の文には、何がどのように書かれているか。

書かれているもの

書かれ方(表現の特徴や文末表現など)

「あけぼの・夜・夕暮れ・つとめて」のカテゴリは何か↓	
----------------------------	--

◎四季それぞれの段落の2の文には、何がどのように書かれているか。

書かれているもの

書かれ方(表現の特徴や文末表現など)

--	--

◎四季それぞれの段落の3の文には、何がどのように書かれているか。

書かれているもの

書かれ方(表現の特徴や文末表現など)

<ul style="list-style-type: none"> ・2の文と内容的につながりがある事柄について補足している。(「また」「まいて」という言葉で、鳥の飛ぶ姿) ・趣があると思っただ情景について補足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「また」「まいて」という言葉で、2の文に付け加えている。 ・趣があると感じたものを「をかし」「いとをかし」という文末表現で表している。
---	---

◎四季それぞれの段落の4の文には、何がどのように書かれているか。

書かれているもの

書かれ方(表現の特徴や文末表現など)

--	--

◎四季それぞれの段落の5の文には、何がどのように書かれているか。

書かれているもの

書かれ方(表現の特徴や文末表現など)

--	--

III 資料編

このページは空白です

PISA 調査における「読解力」の定義

「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考し、これに取り組む能力」

読解力はただ単に読む知識や技能があるというだけでなく、様々な目的のために読みを価値付けたり、用いたりする能力によっても構成されるという考え方から、「読みへの取り組み」(engaging with written texts) という要素が加えられた。つまり、読むことに対してモチベーション（動機付け）があり、読書に対する興味・関心があり、読書を楽しみと感じており、読む内容を精査したり、読書の社会的な側面に関わったり、読書を多面的にまた頻繁に行っているなどの情緒的、行動的特性を指す。

文部科学省 国立教育政策研究所

『OECD生徒の学習到達度調査 2009年デジタル読解力調査 ～国際結果の概要～』より
(http://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/pisa2009_Result_Outline.pdf)

学校教育法における「教育の目標」と「学力の三要素」

第二十一条 義務教育として行われる普通教育は、教育基本法（平成十八年法律第二十号）第五条第二項に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

五 読書に親しませ、生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基礎的な能力を養うこと。

第三十条 小学校における教育は、前条に規定する目的を実現するために必要な程度において第二十一条各号に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

② 前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

学習指導要領「国語科改訂の趣旨」

小学校、中学校及び高等学校を通じて、言語の教育としての立場を一層重視し、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、実生活で生きてはたらき、各教科等の基本ともなる国語の能力を身に付けさせること、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることに重点を置いて内容の改善を図る。

第2期教育振興基本計画（平成25年6月14日閣議決定）

基本施策1 確かな学力を身に付けるための教育内容・方法の充実

【基本的考え方】

- 子どもたちに基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度などの確かな学力を身に付けさせるため、教育内容・方法の一層の充実を図る。その際、特に、自ら課題を発見し解決する力、他者と協働するためのコミュニケーション能力、物事を多様な観点から論理的に考察する力などの育成を重視する。
- このため、グループ学習やICTの活用等による協働型・双方向型の授業への革新、学校と家庭・地域との連携の推進を図りつつ、新学習指導要領を着実に実施する。また、高等学校段階においては、高校生としての基礎的・基本的な学力を確実に身に付けさせるため、生徒の学習の到達度を適切に把握する仕組みを導入するなど、高等学校教育の質保証に向けた取組を進めるとともに、各学校における地域の実情や生徒の実態を踏まえた育成すべき資質・能力に応じたきめ細かい施策を講じる。

指導系統表の整理例 小学校 [C 読むこと]

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
目 標	(3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。	(3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。	(3) 目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。
	(1)前段=読む能力、後段=読書態度 (全学年共通)	(2)目的に応じ=読むことによって何をしようとするのか	どのように活用しようとするのか ⇒文章全体に対応する (高学年)
	(2)本や文章の内容や構成の特徴に着目して読む ①科学的な内容の本や文章 ・時間や事柄の順序に従って内容を押さえて読む ②文学的な絵本や物語 ・場面の様子を押さえながら想像を広げて読む (3)楽しんで読書する態度=自ら楽しんで知識を得たりするために読書しようとする態度 (4)本や文章を読むことが楽しく、生活の中で役立つことなどを実感させるため、日常的に読む習慣を付ける	(3)目的に応じていろいろな本や文章を分析的に読む ①内容の中心をとらえる ②段落相互の関係を考え全体構成を把握 ③自分の考えをまとめたりしながら読む (4)幅広く読書する態度 ①読書の量的向上、読書の分野を広げる質的向上 ②読書の大切さや価値を理解する	(3)目的に応じて計画的に読書する ①楽しむために、調べるために、知的欲求を満たすためになど、 ②複数の本や文章を比べて読み、文章全体から内容や要旨を把握し、自分の考えをまとめる (4)読書により考えを広めたり深めたりする態度 ・書き手の思考に即して読むことで、自分の思考も論理的になり、思考が深められる
音 読	【音読の働き】 ①自分が理解しているかどうかを確かめたり深めたりする ②他が理解するのを助ける ア 語のままとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 (1)語のままとまりや言葉の響きなどに気を付けて ①明確な発音 ②ひとまとまりの語や文 ③言葉の響きやリズム (2)「A話すこと・聞くこと」と関連付けて指導する ①姿勢や口形 ②声の大きさや速さ ③はっきりした発音 (3)指導事項イ〜カとかかわらせて指導 ①繰り返し音読する機会を設ける ②自分の声を自分で聞きながら音読する習慣 ③他の人に聞いてもらうなど、聞くことを意識する (4)音読の方法 ①教師が読んだ後に読む ②グループでの役割読み	ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 (1)文章の内容をよく理解し、自分の思いや考えと合わせながらよく分かるように音読する (2)内容の中心や場面の様子がよく分かるように ①一文一文などの表現だけでなく、文章全体の内容や構成からその中心を把握して音読する ②軽重や速さなどを考えて音読の仕方を変える ③物語では、各場面を意識して、様子分かるように (3)指導事項カと関連付けて⇒音読の目的や方法を工夫 (4)「A話すこと・聞くこと」と関連付けて指導する ①相手を見る ②言葉の抑揚や強調 ③間の取り方 (5)黙読も活用し、文章の内容の理解を深める ①事柄を関連付ける ②重要な箇所を見付ける ③必要に応じて速さを変えて読む	ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。 (1)文章を読んで感じたことや思ったこと、考えたことが相手に伝わるように音読や朗読の思いや考えと合わせて音読化する。物語や詩では、語り手や登場人物がどのように語りたのか決める必要がある (3)朗読は ①読書として文章のイメージを明確にし、相手に伝えようとして音読化するものである ②自分なりに解釈したこと、感心や感動したことを、思いや考えとしてまとめ、表現性を高めて伝える ③一人一人の感じ方や思い、考えの違いを大事にし、どのように音読すれば聞き手によく味わってもらえるか考え、相互に朗読し合っって楽しむ (4)音読や朗読の工夫=音読や朗読の発表会、朗読劇や群読、身体的な表現なども交えた劇など
効果的な読み方			イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。 (1)目的に応じ、効果的な読み方を選択し、活用する ○比べ読み、選読 換読 多読 (重ね、並行)
説明的な文章の解釈	イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。 (1)時間的な順序や事柄の順序などとは ①時間の順序 ②事柄の作り方の手順など、文章に取り上げられた話題自体に内在する事柄の順序 ③どのように文章を構成しているかという文章表現上の順序 (2)順序に沿って内容の大体を読んで理解することが重要	イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。 (1)読む目的によって本や文章の活用の仕方が変わり、そのため取り上げる中心となる語や文も変化してくる (2)中心となる語や文に注目して要点をまとめたり、小見出しを付けたりするなどして内容を整理する (3)「イ言葉の特徴やきまりに関する事項」(ウ)と関連付けて、指示語や接続語、文末表現に注意して読ませる (4)事実と意見の区別、記述の仕方の違いに気付かせる ①事実=現実の事象や出来事、科学的事実、社会的・歴史的・歴史的・直接的な事実、間接的な事実 ②意見=断定的な意見や推論による不確かな意見、助言や勧告、提案、私的な見解と公的な見解 (5)事実と意見との関係を考えることは、段落相互の関係をとりえるとともに、段落の内部においても必要 (6)事実に対して、意見を表す語句、文、段落を取り出し、これを関係付け、筆者がどのような事実を原因や理由として挙げ、どのような考えや意見を述べようとしているのかをとらえることが重要	ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたたりすること。 (1)要旨=書き手が取り上げている内容の中心となる事柄、書き手の考えの中心となる事柄 (2)前段=目的に応じて、求められている分量や表現の仕方にあわせてまとめる (3)内容を的確に押さえるためには、語句、理由や根拠、構成の仕方や巧みな叙述に注意する (4)後段 ①筆者の意図や思考 (どのような事実を事例として挙げ理由や根拠としているか、どのような感想・意見・判断・主張を行い、自分の考えを論証したり説いたりしようとしているのか)を想定しながら文章全体の構成を把握し、自分の考えを明確にしていこう ②自分の知識や経験、考えなどと関係付ける ③自分の立場から書かれている意見についてどのように考えるか意識して読む (5)「B書くことウ」と関連付けて指導すると効果的
文学的な文章の解釈	ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 (1)物語の基本的な構成要素 ①時間や場所 ②問題状況などの設定 ③情景や場面の様子の変化 ④主人公などの登場人物 ⑤登場人物の性格や行動 ⑥会話及び心情の変化 ⑦事件の展開と解決 (2)全文 ①物語の展開に即して各場面の様子の変化したり、 ②中心となる登場人物の行動が変化したりしていくことを把握した上で、 ③その様子を豊かに想像しながら読むことを意味している	ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。 (1)場面の移り変わりに注意しながら読む=各場面の様子に気を付けながら場面と場面とを関係付けて読む (2)登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて読む=登場人物の行動や会話に即しながら、登場人物の性格を押さえ、登場人物同士の関係、登場人物の役割などを考えながら、それらの人物像を中核に読む (3)「イ言葉の特徴やきまりに関する事項」(ウ)と関連付けて、登場人物の気持ちをとらえることが大切 (4)叙述を基に想像して読む ①フィクション (虚構)の世界が描かれている物語や詩の描写を、想像力を働かせながら読むこと ②それぞれの登場人物の性格や境遇、状況を把握し、場面や情景の移り変わりとともに変化する気持ちについて、地の文や行動、会話から関連的にとらえる ③自分を取り巻く現実や経験と照らし豊かに具体的に感じ取ったり、感想や感動を大切にしたりする	エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。 (1)前段 ①登場人物の相互関係から人物像やその役割をとらえ、そのことで、内面にある深い心情をとらえる ②登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通した暗示的な表現の仕方から、想像豊かに読む (2)後段 ①場面の展開に沿って読みながら、感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述に着目して自分の考えをまとめる ②象徴性や暗示性の高い表現や内容、メッセージや題材を強く意識させる表現や内容に気付き、評価したり、自分の表現に生かしたり、感想文や解説文にまとめる (3)優れた叙述⇒同じ作者や同じ題材の作品を比べて読むことで、優れた叙述に気付くよう工夫 (4)「イ言葉の特徴やきまりに関する事項」(ウ)と(ウ)などと関連させて指導すると効果的

<p>自分の考えの形成及び交流</p>	<p>本や文章を読んで感じたことや思ったこと考えた事などを一人一人の児童がまとめて発表し合う指導事項</p> <p>エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。</p> <p>オ 文章の内容と自分の経験とを結びつけて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。</p> <p>(1) 大事な言葉や文を書き抜く 時間や事柄の順序、場面の様子や登場人物の行動、文章の要点やあらすじなどにかかわって、 ①文章の中で大事になる言葉や文 ②自分の思いや考えをもつことに強く影響した言葉や文 ③思いや考えを表現するために必要となる言葉や文などを、適切に書き抜くということ</p> <p>(2) 書き抜いた言葉や文について、感じたこと経験したこと、思ったことや考えたことを書き添えたり、それらの言葉や文に関連付けて整理したりすることが大切</p> <p>(3) 書き抜いたものに書き足したり、書き換えたりして、整理することへ発展させることも考えられる</p> <p>(4) 文章の内容と自分の経験を結びつける＝本や文章の内容や構成を自分の知識や経験、読書体験と結びつけて解釈し、想像を広げたり理解を深めたりすること</p> <p>(5) 自分の思いや考えをまとめ＝本や文章の内容や構成に対する児童一人一人の思いや考えを明確に書きまとめること</p> <p>(6) 発表し合う ①互いの思いを分かち合う ②感じ方や考え方を認め合う ③読みの世界を広げる ④話し言葉による発表 ⑤書き言葉で表したものを読み合う ⑥訂で済む</p> <p>(7) 児童一人一人が自分の思いや考えをもて工夫 ○本や文章との関連を考えながら、現実的な解釈や読書体験を十分感じできるようにする</p> <p>(8) 発表は、共感的な態度で受容する雰囲気をつくる配慮が必要</p> <p>(9) 読む目的に照らして読書生活を振り返りにより、どのような読む力を身に付けたいか、読書生活に生かす態度を養う必要</p>	<p>エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。</p> <p>オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。</p> <p>(1) 目的や必要 ①自分の考えや感想を高める ②調べたことを報告する ③紹介する</p> <p>(2) 文章の要点や細かい点に注意する ○自分の考えや感想を組み立てる場合に、 ①文章の中心となる大事な事柄 ②読み手がそのような考えや感想をもつようになった理由 ③事例として挙げられている事実 ④人物や情景の描写などの表現の細かい点に注意しながら読むことを大切にする</p> <p>(3) 引用 ①本や文章の一節や文、語句などを引くこと ②引用の仕方(「」でくくる) ③出典を明示する ④適切な量 ⑤著作権を尊重し保護する ⑥引用したこと自分の思いや考えを書く ⑦文章の表現や情報、図表やグラフ、絵や写真も含む</p> <p>(4) 要約 ①目的や必要に応じて、語や本、文章を短くまとめる ②元の文章の構成や表現をそのまま生かして短くまとめる ③自分の言葉で短くまとめる ④要約するときの目的や必要に応じて元の文章のどの部分を取り上げるか決まってくる ⑤目的を明確にし、分量や時間、元の文章の構成や表現の生かし方などを考え、要約する経験を重ねることが重要</p> <p>(5) 一人一人の感じ方が違うことを大事にしながら、学校全体で読書を楽しんだり進んで読書しようとしたりする態度を養う</p> <p>(6) 「A話・聞のイヤエ、オ」「日書のウヤカ」と関連させる</p>	<p>オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。</p> <p>(1) 本や文章を読んで考えたことを発表し合い ①多様な本や文章を読み、目的に応じて報告や意見、解説や新聞の記事、推薦などの文章として考えをまとめ発表し合う ②話し言葉による発表と交流だけでなく、書きまとめたものを読み合う交流も含まれる ③感想文集などにまとめて、読書発表会などを行ったりする言語活動に結び付けて考えることが大切</p> <p>(2) 自分の考えを広げたり深めたりする ①共通の課題、一人一人に応じた課題について学習し、それぞれが考えたことの共通点や相違点を明らかにしながら、考えを広げたり深めたりすること ②選択した課題、解決のための読み方、まとめた考えについて、互いの違いを認め合う雰囲気をつくり、積極的に自分の考えをまとめ、発表し合うことの意味を感じ取るように工夫することが大切</p>
<p>目的に応じた読書</p>	<p>カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。</p> <p>(1) 低学年においても、読む目的を意識して本や文章を選び、読書活動に関する見通しをもって取り組ませる必要がある</p> <p>(2) 入門期においては、易しい読み物の読み聞かせやストーリーテリングなどを聞くことを通して、読書に興味をもつようにすることが考えられる</p>	<p>カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。</p> <p>(1) 目的 ①楽しむ ②調べ ③読みたい内容を絞って読む ④書き手を絞って読む</p> <p>(2) 読書の範囲を広げる ①学校図書館などの施設の利用方法を学ぶ ②図書を紹介するブックトークなどの活動や読書案内、新聞紹介などを積極的に利用する態度を養うことが必要 ③友達同士で面白かった本の紹介をし合ったり、同じ題材の本を交換して読んだりするなど、学校の読書生活を豊かにすることが大切</p> <p>(3) 読書習慣に合うことが多くなるので、「言葉の特徴やきまりに関する事項」(カ)との関連を図る</p>	<p>カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。</p> <p>(1) 複数の本や文章＝同じ課題について違う筆者が執筆した本や文章、同じ書き手の本や文章のこと</p> <p>(2) 適切な本や文章を選ぶ ①学校図書館やインターネットなどの利用に関する知識、情報モラルを見につけさせることが求められる ②十進分級法の総括や本の配置についての知識、索引の使い方、事典などの特色などを知っておくことが必要 ③図書館、資料館、博物館等の内容について知り、どこに行けばどのような資料が入手できるのか、どのような観点から必要な情報を探るかといった知識を身に付ける必要がある</p> <p>(3) 比べて読む＝様々な違いを発見する喜びを知り、知識や情報を豊かにしたり、読書の範囲を広げたり、多読の意義や楽しさを実感させる</p> <p>(4) 日常的な読書生活の構築 ①新聞や雑誌、パンフレット、インターネットなど、様々な資料を活用できるよう工夫する ②図書館や中心から各種の事典へ、本や情報を検索するメディアの活用を身に付けさせる ③読書環境を整備して児童の読書生活を高める</p>
<p>言語活動例</p>	<p>ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。</p> <p>イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。</p> <p>ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。</p> <p>エ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。</p> <p>オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。</p> <p>(1) 本や文章を読書の対象として取り上げる言語活動 ①一つの文章を読むだけでなく、科学的な読み物や物語集、絵本などを問わずに読むことを求めている ②想像豊かに読むことが必要 ③読書発表会や感想の交流会などを通して交流し合う読書活動も有効</p> <p>(2) 知識を語り聞かせてもらったり、話し合ったりする言語活動 ①読み聞かせは、語り手の声そのもの、声の大小、速さ、間の取り方、表情などに触れて、文字などの振付なしに文学作品の世界に浸ることができ ②読み聞かせによって、音読する楽しさを知り、自分でも読み聞かせや、身振り手振りを伴った簡単な読書活動を行いたいと思うようになる ③役割を決めて読んだり、人形劇、音読紙、紙芝居などの活動へとつなげていく ④「A話(ア)や「日書(ウ)」と関連させる</p> <p>(3) 事件を取り上げ、仕組みを説明した本や文章を読む言語活動 「A話・聞(ア)」や「日書(ウ)」と関連させて指導すること</p> <p>(4) 感想を書く言語活動 ①日常生活の中で自分が疑問に思っていることや興味のあること、今までの学習経験や読書経験との関連、本や文章を読むことになったきっかけや結び付けを促すことが必要 ②「なにを」「すばらしい」「よく分かる」などの感想を養う言葉の指導を行い、自分の思いや考えを明確に表現できるようにする</p> <p>(5) 人に紹介することによって自分の思いを深める言語活動 ①紹介する相手と、本を読みながら気持ちを共有して読書の輪を広げる(紹介の内容は好きなところが中心) ②「一人で読める」「面白くてたまらない」などの推薦表を配布したり ③実際の本の紹介文、本の帯(モデル)などを示したりして、紹介文の書き方の要素を見付けさせるなど自らの気付きを大切にしながら学習を進められるようにする</p>	<p>ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。</p> <p>イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。</p> <p>ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。</p> <p>エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。</p> <p>オ 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。</p> <p>(1) 文学的な文章を読み、感想を述べ合う言語活動 ①一冊の本だけでなく、同じ主人公や作家、詩人のシリーズファンタジーのシリーズなど、物語集や詩集などにも読書範囲を広げるようにする ②「感動する」「上手に説明している」などの感想を養う言葉を増やすことが求められる ③感想がどの叙述に基づいているのか、自分が経験したこと、音読していることや関心のあることなど、どのように関連しているのかなどを説明することも必要 ④自分の感想が、友達の感想と比べてどのような特徴をもつのかを認識させていくことが大切</p> <p>(2) 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用する言語活動 ①課題を解決しようとするために必要な本や文章である ②本の題名やキーワードに注目し、索引を利用して検索したりするなどにより、必要な本や資料を選ぶことができるように指導する</p> <p>(3) 説明的な文章を読み、内容や表現の仕方について感想をまとめて交流する言語活動 一記述や説明から、目的や必要に応じて知識や情報を選択すること、表現の仕方に注目すること、以前に読んだ本や文章と比べて、自分のもっている知識や情報、現実などと結び付けたりして、自分の考えを深めることなどが重要</p> <p>(4) 紹介したい本を取り上げて紹介する言語活動 ①紹介するにふさわしい理由を十分説明することが必要 ②選んだ本の内容や構成全体をよく理解することが欠かせない ③必要な文や語句を書き抜いたり、要約したり引用したりなどの準備が欠かせない ④本を提示したり、要約や引用した部分のページをめくって見せたり、音読したりするなどして、紹介が効果的に行われるよう工夫する</p> <p>(5) 必要な情報を得るために、関連した本や文章を読む言語活動 一疑問や課題を解決するためには、一つの本や文章だけでは解決できないこともあり、関連する本や文章を併せて読む必要</p>	<p>ア 伝記を読み、自分の生き方について考えること。</p> <p>イ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。</p> <p>ウ 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。</p> <p>エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。</p> <p>(1) 伝記を読み、自分の生き方について考える言語活動 ①伝記に描かれた人物の行動や生き方と、自分の経験や考えなどとの共通点や相違点を見付け、共感するところや取り入れたいところなどを中心に考えをまとめることが大切 ②伝記(偉人伝、史伝)には、文学的な描写や事実の記述や説明の表現が用いられる＝読者と表現方法に共通性がある</p> <p>(2) 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用する言語活動 ①意見を述べた文章や解説の文章など＝本以外にも、新聞、雑誌、地域の情報誌などに掲載された意見、解説、報道、解説、テレビ・ラジオ番組の意見や解説などを利用する ②意見や解説の文脈は、書き手の立場や考え方が強く反映しているので、それらに注意して読み、自分との相違点などに注意して利用することが重要</p> <p>(3) 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読む言語活動 ①編集＝活字や図、写真などの大きさや行数、割付 ②記事＝見出し(総論)、リード、本文、逆三角形 ③記事＝報道記事、社説、コラム、解説などの特徴の理解</p> <p>(4) 本を読んで推薦の文章を書く言語活動 ①自分の目的とともに相手の目的も考慮し、どのような本を取り上げるのか、何を主に推薦するのかを決める必要 ②本の特徴をとらえて推薦する ③本をよく読み込み、相手に伝わるような構成や推薦の言葉などに注意して解説の言葉を整える ④本の内容や、書き手に関連する本を薦めて読んだり、書き手自身のことについて調べたりすることも大切 ⑤推薦の方法 ・本の帯、ポップ、ポスター、読書郵便、リーフレット、パンフレットなど</p>

指導系統表の整理例 中学校 [C 読むこと]

	第1学年	第2学年	第3学年
目標	<p>(3) 目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。</p> <p>(1)前段=読む能力、後段=読書態度 (全学年共通) (2)目的や意図に応じ=読むことで何を育て、どう活用するのかという意識をもち、内容や形態に応じて読む (全学年共通)</p> <p>(3)様々な本や文章などを読む=内容、形態ともに多様な文章、社会生活で触れる様々な種類の文章を読む (4)内容や要旨を的確にとらえる能力=文章全体を概括したり細部の表現に注意したりしながら読み、内容について自分の考えをもつ (5)読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度=読書によって新しい知識や情報を得たり文学を味わったりすることで、自分のものの見方考え方を広げようとする</p>	<p>(3) 目的や意図に応じ、文章の内容や表現の仕方について読む能力、広い範囲から情報を集め効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立てようとする態度を育てる。</p> <p>(3)文章の内容や表現の仕方について、自分の考えをもちながら読む (4)広い範囲から情報を集め効果的に活用する能力=実際の社会生活に即して目的や意図に応じて情報を収集し活用する能力 (5)読書を生活に役立てようとする態度=読書で得た知識や広げることのできたものの見方や考え方を、実際の生活に役立てる=多様な本や文章などを読むことを通して、生活を豊かなものにしていく</p>	<p>(3) 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して自己を向上させようとする態度を育てる。</p> <p>(3)文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む=内容を分析したり表現の仕方を批評したりして読む=文章の内容や形式などの価値を判断し、自らの目的や意図に応じて活用する能力が求められる (4)読書を通して自己を向上させようとする態度=生涯にわたって読書に親しんでいくために必要な態度の育成をめざしたもの</p>
語句の意味の理解	<p>ア 文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。</p> <p>(1)文脈の中における語句の意味=語句の一般的な意味を踏まえ、思考力や想像力を働かせて、文脈の中における具体的な、個別的な意味をとらえる⇒文章を的確に解釈することにつながる (2)文脈の中で、どのように的確にとらえ、理解するかに重点を置いて指導する (第1学年、第2学年) (3)「言葉の特徴やきまりに関する事項」(イ)、(ウ)との関連を図って指導することが効果的</p>	<p>ア 抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。</p> <p>(1)抽象的な概念を表す語句については、辞書を活用するなどして、論の展開を追いながら理解することが大切 (2)心情を表す語句については、読み手自身の体験や読書経験を生かしながら理解することが大切 (3)文脈の中で、どのように的確にとらえ、理解するかに重点を置いて指導する (第1学年、第2学年) (4)「言葉の特徴やきまりに関する事項」(イ)との関連を図るようにする</p>	<p>ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。</p> <p>(1)文章中に使われる語句は、書き手の立場や意図、感情などを反映している (2)文脈における語句の効果的な使い方、表現上の工夫=語句の選択や配列など書き手が行う表現上の工夫に注意して読むことが大切 (3)語句の使い方がどのような効果を生んでいるかに目を向けさせる (第3学年)</p>
文章の解釈	<p>イ 文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。</p> <p>ウ 場面や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。</p> <p>(1)読解的な文章の特徴 ①論の展開の中心となる部分と例示や引用などの付加的部分とが組み合わされていたり ②事実を述べた部分と意見を述べた部分とで構成されていたりする (2)段落ごとに内容をとらえたり、段落相互の関係を押さえたり、意味段落の役割をとらえさせることが大切 (3)要約したり要旨をとらえたりする活動は、目的や必要によって内容や方法が異なる (4)文学的な文章の解釈 ①言葉を手掛かりにしながら文脈をたどり、視点を定めて読むことが必要 ②文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の心情や行動、情景描写などに注意して読み進めることが大切</p>	<p>イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。</p> <p>(1)文章全体と部分との関係 ①各段落が文章全体の中で果たす役割 ②叙述の順序が書き手の考えにどのような説得力をもたらしているかなどを考えながら読む (2)例示の効果 ○具体的な例が書き手の論の展開の中で果たしている役割を考えることが重要 (3)描写の効果 ○情景や人物の描写が文章全体の雰囲気を作り上げる効果について考えることが重要 (4)登場人物の言動の意味 ○登場人物の言葉や行動が、話の展開や作品全体に表れたものの見方などにどのような影響を及ぼしているかを考える⇒文章の理解を深める</p>	<p>イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。</p> <p>(1)文章の論理の展開の仕方 ①主として読解的な文章を想定しているが、文学的な文章も含んでいる ②文章の論理の過程には、書き手のものの見方や考えの進め方が表れている ⇒書き手の論理の展開についての意図をとらえる=文章の内容を的確に理解することができる (2)場面や登場人物の設定 ○作品の展開や内容は、場面や登場人物の設定と深いかかわりがある ⇒これらの要素をとらえることで、文章全体への理解が深まる</p>
自分の考えの形成	<p>エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。</p> <p>オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること。</p> <p>(1)構成や展開 ①文章の組立や作品の場面を静的にとらえて構成を理解するだけでなく、 ②文章を思考の流れや登場人物の心情の変化に沿って動的にとらえて展開を把握する (2)表現の特徴 ①説明、評論、物語、詩歌等、文章の種類による叙述の特徴 ②手紙、案内等の様々な形態の文章も取り上げることが大切 (3)自分の考えをもつ ①文章について印象をもつことにとどまらない ②様々な形態の文章の構成や展開、表現の特徴を分析的にとらえ、その工夫や効果について自分の考えをもつこと (4)自分のものの見方や考え方を広げる=読み手として、書き手のものの見方や考え方に共感すること、疑問をもつこと、批判することなどを通して、新たなものの見方や考え方を発見したり、様々な視点から物事について考えられるようになること (5)書き手のものの見方や考え方 ①読解的な文章=文章に直接書かれていたり、文章全体を通して表れていたたりする ②文学的な文章=語り手の言葉、登場人物の言動、情景の描写などに表れている</p>	<p>ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。</p> <p>エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。</p> <p>(1)表現の仕方 ①書き手の目的や意図、その効果についても考えさせることを想定している ②文章類型 (口語体と文語体、常体と敬体、和文調の文体と漢文調の文体) ③叙述にかかわる表現全般 (簡潔な述べ方と丁寧な述べ方、断定的な述べ方と婉曲な述べ方、中心的部分と付加的部分との関係や事実と意見との関係、描写の仕方や比喩の用い方) (2)根拠を明確に ①自分の考えを支える根拠となる段落や部分を挙げる ②書き手の目的や意図との関連を考えさせることが重要 (3)知識や体験と関連付ける ①好悪などの感想にとどまらず、 ②知識や体験と結びつけて賛否を明らかにしたり、 ③問題点を指摘したりするなど、 具体的なものに基づいて考えを形成する (4)自分のものの見方や考え方を深める ①書き手のものの見方や考え方を自分の考えと対比したり置き換えたりして、 ②読み手が自分の問題としてとらえることが重要</p>	<p>ウ 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。</p> <p>エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。</p> <p>(1)文章を読み比べるなどして、 ○一つの文章では気が付かなくても、複数の文章を比較しながら読むことで、構成や展開、表現の仕方等の違いが分かる (2)構成や展開、表現の仕方について評価する ①評価する対象 (教科書や本などの掲載された文章、新聞や広告、パンフレットやポスターなど) ②書き手の意図と表現の仕方とのかかわり考える ③自分が文章を書く際に役立てることにつなげていく (3)文章を読んで、人間、社会、自然などについて考え ①様々な文章を読むことを通して、そこに表れているものの見方や考え方から、人間、社会、自然などについて思いを巡らせること ②このような学習から豊かな思想が形成され、豊かな心情が養われ、人間としての成長が期待される (4)意見をもつ ①ある事柄について自分の立場や根拠を明確にした考えをもつこと ②文章全体を受けて自分の意見をもつことを求めている</p>

<p>読書と情報活用</p>	<p>カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。</p> <p>(1)必要な情報を集めるための方法を身に付けるとともに、身に付けた方法の中から適した方法を自ら選択し、目的に合った複数の資料を集め、集めた資料から必要な情報を読み取ること求めている</p> <p>(2)必要な情報を集めるための方法</p> <p>①必要な情報があるかどうかを、本の表紙、目次、索引等から判断したり、</p> <p>②新聞の紙面構成等に基づいて、必要な部分を探して読んだりするなど、資料の特性を生かした読み方をする</p> <p>③様々な資料の形式について理解することや、</p> <p>④読む目的や対象によって読み方が変わるということを理解することが大切</p> <p>(3)目的に応じて必要な情報を読み取る</p> <p>①必要だと思った部分に印を付したり、</p> <p>②必要な部分を書き抜きしたりしながら読み進める</p> <p>③一冊の本を最後まで読む、大事な箇所を読む、多くの本に目を通すなどの様々な読み方を学習活動に取り入れる</p> <p>④本や文章を目的に応じて的確に読み進める活動を通して、読書の範囲を広げ、手に取る本や文章などの質を向上させることも重要</p> <p>⑤集めた資料を使用する際には、著作権にも十分留意させる</p>	<p>オ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。</p> <p>(1)多様な方法</p> <p>①学校図書館や地域の図書館</p> <p>②公共施設</p> <p>③コンピュータ</p> <p>④情報通信ネットワーク</p> <p>それぞれの特徴を生かした情報収集の仕方について指導する必要がある</p> <p>(2)適切な情報</p> <p>①真偽や適否を見極める</p> <p>②目的に応じて整理したり分類したりすることが大切</p> <p>③情報を収集し整理する過程で自分の考えが明確になっていく</p> <p>(3)自分の考えをまとめる</p> <p>①得た情報をどのように引用すればよいかを考えさせることなどを指導することが大切</p> <p>(4)幅広く読書活動を行うことの意味を一人一人に実感させ、日常生活の中で必要に応じて自ら読書を進めていくことのできる自立した読み手を育成することが重要</p> <p>(5)「A話すこと・聞くこと」と「B書くこと」における取材の指導と関連を図ることが重要</p>	<p>オ 目的に応じて本や文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりすること。</p> <p>(1)本や文章を読む目的</p> <p>①ある事柄についてもっと深く知ること</p> <p>②課題について探究するために適切な情報を得ること</p> <p>③教養を身に付けること</p> <p>④余暇を充実させること</p> <p>(2)知識を広げたり、自分の考えを深めたりする</p> <p>①書き手のものの見方や考え方と自分のものの見方や考え方を対比させて新しい考え方を知ったり、</p> <p>②自分の考えを再構築したりすることが大切</p> <p>(3)新たな知識や考えが次の読書に結び付いていくことを実感させる</p> <p>①興味をもった作家の複数の作品を読み味わったり、</p> <p>②幅広い分野の文章を読む機会をもったりするなどの指導が考えられる</p>
<p>言語活動例</p>	<p>ア 様々な種類の文章を音読したり朗読したりすること。</p> <p>イ 文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと。</p> <p>ウ 課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること。</p> <p>(1)様々な種類の文章を音読したり朗読したりする言語活動</p> <p>①相手に分かるように正確に音読したり、</p> <p>②作品の形態や特徴を生かしながら朗読したりすることを通して、</p> <p>③文章の理解を一層深める活動を行う</p> <p>(2)文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読む言語活動</p> <p>①図表が文章の内容をわかりやすくするために使われている場合</p> <p>②文章が図表の解説になっている場合</p> <p>③図表が文章の中心的部分、付加的な部分のどの部分と関連しているのかを確認させる</p> <p>④書き手の伝えたい内容を的確に読み取らせる</p> <p>⑤「B書くこと」②イと関連させて指導することが効果的</p> <p>(3)課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介する言語活動</p> <p>①課題に沿って本を読む</p> <p>○疑問に思っていることや解決したいことに資す本を読む</p> <p>○書評や広告を見て、気になっている本や面白そうだった本を読むなど、生徒一人一人の読書生活によるものを含んでいる</p> <p>②引用して紹介する</p> <p>○他人とものの見方や感じ方に違いがあることを学んだり、新しい発見をしたりするなど、考えの広がりや深まりを生む授業を展開できる</p> <p>○表現方法</p> <p>・本の帯や広告カード(ポップ)作り、ブックトークなどが考えられる</p> <p>○引用の際</p> <p>・「」でくくる</p> <p>・出典を明示する</p> <p>・引用部分が適切な量であること</p> <p>・著作権の尊重と保護</p>	<p>ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。</p> <p>イ 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること。</p> <p>ウ 新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること。</p> <p>(1)詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流する言語活動</p> <p>①作品に表れている登場人物の心情、書き手の思いや価値観、表現の仕方などについて感想をもち交流するようにする</p> <p>②交流を前提とすることで、感想の対象となった部分や表現の特徴を指摘するなど、自分の感想を具体的に考えるようになる</p> <p>(2)説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べる言語活動</p> <p>①「説明」＝事実や事柄について何かを解き明かしたり解説したりする文章</p> <p>②「評論」＝物事の善し悪しや価値等について書き手の考えを述べた文章</p> <p>③書き手のものの見方や考え方をとらえることで、読み手自身のものの見方や考え方を豊かなものにしていくことができる</p> <p>④書き手のものの見方や考え方がどのように表されているかなど、表現の仕方について考えさせることも重要</p> <p>⑤書き手の工夫がみられる表現、書き直した方がよいと思われる表現について、根拠を具体的に挙げながら検討することが重要</p> <p>⑥視点を変えて文章を書き換えさせるなど、内容や表現の仕方について理解を促す工夫も考えられる</p> <p>(3)新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較する言語活動</p> <p>①新聞、雑誌、コンピュータ、情報通信ネットワーク、学校図書館などから得た情報を比較することにより、情報手段や施設の特徴及び情報の特徴について考えさせる</p> <p>②その上で、得た情報を自分の考えの根拠にしたり具体例として取り上げたりすることが考えられる</p>	<p>ア 物語や小説などを読んで批評すること。</p> <p>イ 論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと。</p> <p>ウ 自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えること。</p> <p>(1)物語や小説を読んで批評する言語活動</p> <p>①「批評」＝対象とする物事や作品などについて、よさや特性、価値などについて論じたり、評価したりすること</p> <p>②文章を主観的に味わうだけでなく、客観的、分析的に読む深める力が求められる</p> <p>③語句や描写について、その意味や効果を評価しながら読むことが大切</p> <p>④分析する力を高めるには、同じ作家による複数の作品、類似したテーマの作品を読み比べることなどが考えられる</p> <p>(2)論説や報道の情報を比較して読む言語活動</p> <p>①「論説」＝物事の是非を論じる文章</p> <p>②書き手が、どのような立場からどのような論を展開しているかを読み取ることが大切</p> <p>③「報道」＝新聞や雑誌等の文章を想定</p> <p>④起こった出来事をとらえ、それについて書き手がどのように報道しているかを読み取ることが大切</p> <p>(3)自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考える言語活動</p> <p>①どんな本に興味をもち読んできたのか、</p> <p>②読んでいない分野は何か、</p> <p>③今後はどんな本を読みたいのかなど、読書生活全体を取り上げて授業を展開すると効果的</p>

指導系統表の整理例 高等学校 [C 読むこと]

	国語総合	現代文B	古典B
科目の目標	<p>国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。</p> <p>(1)小学校及び中学校国語の目標を受け継いでいる (2)前段＝国語による表現と理解の能力の育成、伝え合う力(相互伝達・相互理解) (3)後段＝思考力や想像力の伸長、豊かな感性や情緒(他人を思いやる心や感動する心)、言語感覚、表現の効果について適切に判断する能力、言語文化への関心、国語を尊重、国語の向上</p>	<p>近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。</p> <p>(1)総合的な言語能力を育成する科目としての性格を一層明確にした2前段 ①教科の目標とは逆に、「的確に理解」するを、前に置いているのは、読むことを中心とする科目であることを示すため ②文章を理解することは、書き手や文章中の人物のものの見方、感じ方、考え方に触れ、それについて思考したり、想像したり、批評したりする活動であり、それには表現活動を伴うことが多い (3)理解と表現の能力を高める＝日常的に、情報をとらえ、考察し、それをまとめて表現するために必要不可欠なこと (4)進んで読書する＝小学校、中学校及び「国語総合」と一貫して「C読むこと」の領域を中心に、その指導を重視している</p>	<p>古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。</p> <p>(1)教科の目標を主として読むことの中で受ける (2)古典は、適切に継承され、現代の日常生活に生かされるべきものであり、そのためには、それを読む能力が求められる (3)古典に現れている、人間、社会、自然などに対する、ものの見方、感じ方、考え方には、現代と共通するものがあると同時に、古文には古文特有の、漢文には漢文特有のものもある。それらの様々なものの見方、感じ方、考え方を、古典についての解説や評議なども必要に応じて参考にしながら、的確に読み取ることを通して、思考力や想像力を伸ばし、豊かな感性や情緒をたくむことにより、人間としての資質の形成に資することをねらいとしている (4)自己の内面を見つめ発展させ、人生をより豊かにしていこうとする態度を育成する (5)古典は、先人が何を考えたのか、いかに生きたのかということを見せてくれる</p>
表現に即した理解	<p>ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。 (1)語句の効果的な使い方のみならず、幅広く内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むことへ発展 (2)内容についての理解と表現についての理解とが相まって、初めて深い理解に至る (3)形態とは ①文学的文章＝詩歌、小説、随筆、戯曲など ②論理的文章＝説明、説教、評議など ③実用的文章＝記録、報告、報道、手紙など (4)表現の特色(例:小説) ①長編小説が短編小説か、書かれた時代、による違い ②描写や会話などにおける書き手の工夫＝表現技法(比喩、反復、倒置)、感覚的な語句や表現の使用、文の長短など ③文章の種類や類型＝文語体と口語体、和文体と漢文体と翻訳文体、散文体と韻文体、常体と役体など ④書きぶり＝簡潔な表現と丁寧な表現、断定的な表現と婉曲的な表現など</p>		<p>エ 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察すること。 (1)古典の内容や表現の特色を理解して読み味わう ①文章の修辞、文体などの表現の仕方の特徴をとらえ、 ②思想や感情などがどのように表現されているかを理解し、 ③巧みな描写、繊細な表現、簡潔な語調などを味わうこと (2)作品の価値について考察する＝古典の原文のみならず、古典についての評論文なども活用して、古典の普遍的価値や、その作品が古典として現代まで読み継がれてきた意味について考えることが大切である</p>
文章の解釈	<p>イ 文章の内容を概説に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や評議をしたりすること。 ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。 (1)概説に即して的確に読み取る ○読み取りが恣意的なものとならないよう、文脈をとらえ、語句や表現に注意して、筆者の考えなどを、間違いなく、過不足なく理解すること (2)必要に応じて＝読み手の読む必要に応じて (3)要約 ①文章の要点を押さえながら短くまとめること ②文章全体の要約が必要なのか、特定の項目に関してまとめることが必要なのかなど、目的に応じて要約の仕方は異なってくる (4)評議 ①文章の難解な部分、含蓄のある部分などを詳しく説明したり解説したりすること ②抽象的な事柄を、具体例を示しながら分かりやすく説明すること ③同じ文章の中から、関連する表現や内容を取り上げて説明すること (5)読み味わう(対象:主に文学的文章) ①人物(誰れが)、場面(いつ、どこで)、出来事(何を、どうした)などが、どのように設定され、どのように描かれているかを把握する ②何が書いてあるか、どのように書いてあるか、なぜこのように書いているかにまで迫ることが大切 (6)人物 ○行動、性格、その人物のものの見方、感じ方、考え方、生き方、心情の変化、人物相互の関係の描写を読み取る必要がある (7)情景＝場面や自然の風景 ①人物の心情の反映や象徴、物事が起こる予兆などとして設定されることが多い ②人物の言動、置かれている状況を理解する手がかりとなる (8)心情＝人物の心的状況 ○自らの生き方と重ね合わせ、人物に対して共感したり反発したりする中から、想像力、豊かな感性や情緒が養われていく (9)表現に即して ①読み取りが恣意的なものとならないよう、文や文章、語句から離れない ②内容のみならず、言葉の美しさや深さを発見し、それに感動することができる ③自らの文章表現を豊かにし、国語を尊重し、その向上を図る態度を育成していくことにつながる 例示に選いたこと</p>	<p>ア 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価すること。 イ 文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わうこと。 (1)構成、展開を的確にとらえる ①その文章はどのような題材に関して述べ ②材料としてどのようなものを選び、 ③どのように組み立て、 ④どのような筋道で考えなどを述べているのかを間違いなく把握すること ⇒文章の組み立てをとりつつ、書き手や文章中の人物のものの見方、感じ方、考え方を追究することが、生徒の思考力や想像力の伸長につながる (2)構成、展開を的確にとらえる(説教や評議) ①「序論一本論一結論」の三段構成で述べられている場合、文章のどの部分がそれに当たるかを明らかにし、序論から本論結論にかけてどのように論が展開しているかを把握する ②文章の中心となる主要な論点と、具体例、説明、補足、反証などを述べる従属的な論点とを判別し、その関係を押さえ、主要な論点を的確に読み取る (3)構成、展開を的確にとらえる(小説) ○書き出しから結びに至る文章の骨組みをとらえ、その上で、場面や人物などの設定が、その後の話の推移にどのように有機的に関わっているかを把握する (4)論理性を評価する ①論理＝考えの筋道の通し方 ②論理性を評価する＝文章の構成や展開の有り様や、それが、要旨などを伝えるために果たしている効果などを分析、考察し、その価値を判じること (5)書き手の意図を的確にとらえる ①文章に現れている書き手の思考の進め方に着目し、 ②書き手の考えや強弱点を読み取る ③文章の内容に現れている書き手の考えのみならず、 ④なぜ、この文章を書いたのか、なぜこのように書いたのかということも含まれる (6)人物、情景、心情の描写などを的確にとらえる ①書き手によって設定され、表現された人物の状況、 ②その人物が行動する場面の情景、 ③人物の心情の推移などを間違いなく把握することが大切 (7)表現を味わう ①書かれている内容だけでなく、 ②それらの内容がどのように書かれているのかなどという点にも着目し、 ③叙述が醸し出すものを味わうこと</p>	<p>イ 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえること。 エ 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察すること。(再掲) (1)構成や展開に即して ①内容や要旨を本文の叙述を離れて概念的にとらえたり、部分にこだわり生徒が読みを狭めたりすることがないように ②語句の意味の理解や、文の解釈が中心になりがちであるが、表面的な意味をとらえることに終わらせず、内容の理解の上に立って、ウ以下の指導事項を重視した学習活動を展開することが、学習意欲を高めるためには大切 (2)的確にとらえる ①古典Bによって大切な指導事項 ②内容を間違いなく把握するためには、文脈や段落相互の関係を踏まえ、文章の構成や展開を正しく読み取る必要がある</p>

	<p>①指導者の説明を通して生徒に文章を理解を促すというように指導→生徒は、文章を主体的に読むのではなく、説明された内容を知識として覚えることになりやすい</p> <p>②あまりにも細部を分析的に読むことに偏ると、文章全体の味わいを損なうことになる場合もある</p>	<p>④他の表現と置き換えた場合と比較してその効果を確認したり、ひたすら読み進めたりするなどして表現を味わうことが大切</p>	
<p>考 え の 形 成 ・ 読 書 ・ 情 報 活 用</p>	<p>エ 文章の構成や展開を踏まえ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。</p> <p>オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、もの の見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。</p> <p>(1)内容や表現の仕方について評価する ①その価値、優劣、是非などを判断すること ②根拠や根拠を明確にするなど、客観的に内容や表現の 仕方について判断することが大切 ③その結果を自分の表現に生かすなど、目的や意図に応じて活 用することも必要</p> <p>(2)表現の仕方→中第2学年「C読むことウ」 (3)書き手の意図をとらえる ①文章に表れている書き手の思考の流れに目を向け、 ②書き手の考えの強弱点を読み取り、 ③なぜこの文章を書いたのか、なぜこのように書いたのかとい うことまで迫ること</p> <p>(4)幅広く本や文章を読む ①文章の形態 (文学的な文章、論理的な文章、実用的な文章) ②内容や分野 (芸術的、社会科学、自然科学) ③本や文章を手に入れる方法や場 (図書館、ウェブページ) (5)情報を得て用いる (その過程にかかわる指導が必要) ①適切な情報源の選択 ②得た情報の評価 ③目的に応じた適切な加工</p>	<p>ア 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価すること。(再掲)</p> <p>イ 文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わうこと。(再掲)</p> <p>ウ 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。</p> <p>(1)文章を読んで批評する ①相反する立場で書かれた文章や併置の異なる文章などと読み 比べ ②時事を多角的に見て考え ③それについて論じたり、評価したりする ④社会人として読むことになる文章は多種多様であり、その評 価は読み手に委ねられる</p> <p>(2)人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させ たりする ①文章から得た様々な知識や思想及びその文章からもたされた 感動などを通して、自分自身の感じ方や考え方をより深めたり 広げたりしつつ、自分の生き方について考えること ②文章を読むことは、単に文章から一方的に知識や情報を受け 取るという受け身の活動ではない ③文章に表れた、もの見方、感じ方、考え方を読み取り、人 間、社会、自然などについて考察することを通して、生徒の 人間観、社会観、自然観などを確立することが大切</p>	<p>イ 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえること。(再掲)</p> <p>エ 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察すること。(再掲)</p> <p>ウ 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、もの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。</p> <p>(1)古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえる ①古典には、書かれた時代や環境の違いによって、書き手や文章中の人物の「人間、社会、自然などに対する思想や感情」が様々な表現されている ②現代にも通じ、生徒からみて共感できるものや、逆に、違和感を覚えたり理解が難しかったりするものがある ③優れた洞察力や創造性に感動するものなどがある</p> <p>(2)古典の指導においても、生徒の思考力や想像力、判断力を伸ばし、心情を豊かにして、人間形成に資することが大切</p>
<p>言 語 活 動 例</p>	<p>ア 文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること。</p> <p>イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。</p> <p>ウ 現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を読んで内容を理解し、自分の考えをもって話し合うこと。</p> <p>エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。</p>	<p>ア 文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合うこと。</p> <p>イ 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書くこと。</p> <p>ウ 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色をとらえて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりすること。</p> <p>エ 文章を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書や論文などに編集したりすること。</p>	<p>ア 辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較し、その変遷などについて分かったことを報告すること。</p> <p>イ 同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを読み比べ、共通点や相違点などについて説明すること。</p> <p>ウ 古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合うこと。</p> <p>エ 古典を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりすること。</p>
	<p>(1)脚本にしたり、書き換えたりする言語活動 ①脚本をする言語活動において、文章を自分の知識、思考、体験などと照合させながら繰り返して読むことは、読み手の認識の深さを促すとともに主体的な読みの確立につながる ②脚本にするとは、自分が読み取った人物、情景、心情などを、せりふと書きによって描き出すことである ③脚本にする前提として、戯曲に附随している必要がある ④古典を現代の物語に書き換える過程では、古典の言葉と現代の言葉との関係意識したり、古典の書き手や文章中の人々と、現代の人々との共通点や相違点を考えたりすることができる ⑤我が国の言語文化においては、しばしば脚本が新しい言語文化の担い手として継承してきた (邦楽の本歌取りや謡曲) ⑥近世や近代以降の小説の多くも我が国や中国の伝統的な言語文化を基にしている</p> <p>(2)情報を読み取り、まとめて発表する言語活動 ①ウェブページには、新しくない情報、正しくない情報、書き手の主張が入った情報なども含まれている ②情報をまとめる際には、引用部分や出典を明示するなど、著作権を尊重することも大切</p> <p>(3)情報担当教員や司書教諭と連携して、インターネットを利用したり、情報の収集、選択を行ったりする必要がある</p> <p>(4)実用的な文章を読んで話し合う言語活動 ①実用的な文章とは、報道や広報の文章、案内、紹介、連絡、依頼、手紙、会議や談判などの記録、報告書、説明書、企画書、提案書、法律の条文、宣伝、インターネット上の様々な文章、電子メールなどと考えることができる ②実用的な文章を読んで内容を理解することは、社会において自立的に生き、様々な活動に参画する基礎となる ③その上で、自分の考えをも、話し合いを通して主体的に社会とかわり合っていくことが、現代社会では強く求められている</p> <p>(5)読み比べたことについて、感想を述べたり批評したりする言語活動 ①古典で描かれた話が近代以降の文章にどのように描き直されているのか、和歌や俳句のように同じ形式をとりながら近世までと近代以降とどのように異なるのかなど、視点を定めて読み比べることが大切 ②読み比べるに当たっては、文章の内容だけでなく、表現の仕方にも着目する必要がある ③生徒各自が読み比べるだけでなく、ペアやグループで読み比べて話し合ったり、発表し合ったりするなど、学習の形態や方法に様々な工夫を凝らすことも、学習意欲を高める上で大切</p>	<p>(1)人物の生き方や、その表現の仕方などについて話し合う言語活動 ①自分はどうしてそのように読み取ったのか、どうしてそのような考えや感想をもつに至ったのかなどを、文章中の表現を取り上げながら話すことや、相手の話の内容の妥当性を判断しながら話したり、分からないところを質問したりすることなどが大切 ②話題としては、描写に関することも含めるようにする ③話し合いにおいては、ペアやグループで話し合い、様々な意見を聞きながら自分の考えを深めることが大切 ④話し合った内容を発表して、ホームルーム全体で話し合いを更に深めることもできる ⑤このような交流を通して、読みを深化させる必要がある</p> <p>(2)書き手の考えや、その展開の仕方などについて意見を書く言語活動 ①文章中で述べられている主張が、確かな根拠に基づいた正当な主張を伴って導かれているかどうかを読み取り、その適否を判断するなど、文章の内容と、論理の構成や展開との関係が、いかに文章全体の明確さに寄与しているかなどを考察する ②書き手の表現意図や感情についての意識が、表現の仕方などにどのように反映しているのかについて自分の意見をもつという能動的な学習につながる ③意見を書く際には、事実と意見を明確に書き分けることや、適切な論拠に基づくことなどに注意する必要がある ④結論の述べ方や、具体的な事例の挙げ方など、文章の構成や展開にも工夫を凝らすことが大切</p> <p>(3)表現の仕方を考えたり、創作的な活動をしったりする言語活動 ①メディアの特色をとらえるとは、個々のメディアとしての文字、音声、画像などの特色を把握することのみならず、それらがかわり合って情報を表現していることに気付くことでもある ②創作的な活動とは、目的や場に応じたメディアを用いて、自ら表現活動を行うことであり、生徒の学習意欲を高め、主体的な読書や表現へといざなうものである ③戯曲や脚本に脚本にしたり、実演に演じたりすること、読んだ本の紹介を、書籍、本の帯、広告カード (ポップ) などによって行うことなども含まれる</p> <p>(4)課題を探究し、成果を発表したり編集したりする言語活動 ①様々な資料を調べるとは、学校図書館、地域の図書館、インターネット、現地に出かけて取材したりするなど、情報を収集、整理し、それについて分析、考察を行うことである ②報告書や論文の編集に当たっては、一人の生徒のものを編む場合、グループごとやホームルーム全体など、複数の生徒のものを編む場合などがある ③この言語活動は、生徒を学習の入り口に立たせることになり、大学や社会で調査研究活動を行い、成果を発表する礎となる</p>	<p>(1)課題の整理によって調べた分かったことを報告する言語活動 ①国語は長い年月にわたって変遷しつつ現存に至っている ②時代の推移の中で大きく変化した言葉、質化の小さい言葉などを様々な角度から取り上げて比較対照することは、国語の特質の一端に於けることになる ③「ありがたし」「あからさまなり」「やがて」「故人」「逢恩」「遺通」などを取り上げ、古典の言葉と現代の言葉との間で意味や用法に相違点や類似点があるか、またどのような変遷の過程を経てきているかなどについて調べることが、国語の認識を深めることにつながる ④分かったことを報告するという表現活動を行うことは、一連の学習について成就感を味わわせ、古典を学ぶ意欲を高めることにつながる</p> <p>(2)読み比べたことについて説明する言語活動 ①書かれた時代は異なるが、同じ題材を取り上げた文章を読み比べることで、時代を超えて我が国の文化の底流にある、もの見方、感じ方、考え方に触れることができる ②同じ時代と同じ題材を取り上げた文章を読み比べることで、文章から受けるイメージの違いを感じ取ったり、書き手の意図による違いを見いだしたりすることもできる</p> <p>(3)古典に表れた人間の生き方や考え方について話し合う言語活動 ①例えば、中世の無常観についての文章を読んで、現代の視点も含めて話し合ったり、中国の思想を読んで、日本への影響などを身近な例を取り上げつつ話し合ったりすることは、古典に表れた思想や感情を具体的に考える契機となり、意義ある学習となる ②読み手によって評価が分かれるような事柄を取り上げるとは、話し合いを活性化することにつながる ③文章中の表現を根拠にすることは、常に文章に戻り、文章を更に読み深めることにつながり、読むことと話し合うことが牽連することを選択することになる</p> <p>(4)課題を探究し、成果を発表したり文章にまとめたりする言語活動 ①「現代文B」の言語活動例エと同じである ②科目の性質に応じて、探究する対象を「古典を読んで関心をもった事柄など」としている</p>

同一言語活動（本の紹介ポスター）の系統表例 1

段階	ポスター作成の方向性	ポスターにまとめる内容（指導事項）について	ポスターの構成要素に内容（指導事項）を組み入れる例
小学校 低学年	<p>本のすきなところを紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> 紹介する相手と、本を読みたい気持ちを共有して読書の輪を広げる 	<p>ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げる</p> <ol style="list-style-type: none"> ①時間や場所 ②問題状況などの設定 ③情景や場面の様子の変化 ④主人公などの登場人物 ⑤登場人物の性格や行動 ⑥会話及び心情の変化 ⑦事件の展開と解決 <p>エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜く</p> <ol style="list-style-type: none"> ①場面の様子や登場人物の行動 ②あらすじに係る言葉や文 ③自分の思いや考えをもつことに強く影響した言葉や文 ④思いや考えを表現するために必要となる言葉や文 <p>オ 文章の内容と自分の経験とを結びつけて、自分の思いや考えをまとめる</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自分の知識や経験、読書体験と結びつけて解釈し、想像を広げたり理解を深めたりする 	<p>(1)キャッチコピー（20字以内）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すきな理由を端的に表す <p>(2)本文の書き抜き（2箇所以内）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すきなセリフ、行動、場面 ・感じたこと経験したこと考えたことを書き添える ・書き抜いた言葉や文を関連付けて整理したりする <p>(3)感想文的紹介（150字以内）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一人で読める」「面白くてたまらない」などの語彙 ・情景や場面の様子の変化、事件の展開と解決、登場人物の性格や行動、心情の変化などと、すきな理由を自分の知識や経験、読書体験等に結び付けて書く <p>(4)イラスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すきな行動、場面 <p>※「読書ポスター」のレイアウトも工夫</p>
小学校 中学年	<p>紹介したい本の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 紹介するにふさわしい理由を十分説明する 選んだ本の内容や構成全体をよく理解する 	<p>ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像する</p> <ol style="list-style-type: none"> ①場面の移り変わり ②登場人物の性格 ③登場人物の気持ちの変化 ④登場人物同士の関係 ⑤登場人物の役割 ⑥情景 ⑦叙述 <p>エ 文章などを引用したり要約したりする</p> <p>引用</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「 」でくくる ②出典を明示する ③適切な量 ④引用したことに自分の思いや考えを書く <p>要約</p> <ol style="list-style-type: none"> ①目的に応じて ②表現をそのまま生かして ③自分の言葉で 	<p>(1)キャッチコピー（20字程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想の言葉を反映させる ・感想語彙 <p>(2)本文の引用（2～3箇所程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介したい登場人物の言動の変化 <p>(3)紹介文（300字程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらすじ（要約） ・場面の移り変わりから発見したこと、想像したこと <p>(4)イラスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品世界を表す象徴として自分がとらえたもの <p>※「読書ポスター」のレイアウトも工夫</p>
小学校 高学年	<p>本を推薦</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の目的とともに相手の目的も考慮し、どのような本を取り上げ、何を主に推薦するのか決める 本の特徴をとらえて推薦する 本の内容や、書き手に関連する本を重ねて読んだり、書き手自身のことについて調べたりする 	<p>エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる</p> <ol style="list-style-type: none"> ①登場人物の相互関係から <ul style="list-style-type: none"> ・人物像、その役割、内面にある深い心情をとらえる ②登場人物の相互関係に基づき、想像豊かに読む <ul style="list-style-type: none"> ・行動や会話、情景などの暗示的な表現 ③感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述に着目して自分の考えをまとめる ④象徴性や暗示性の高い表現や内容 ⑤メッセージや題材を強く意識させる表現や内容 	<p>(1)キャッチコピー（20字程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お薦めの言葉を反映させる ・評価語彙 <p>(2)本文の引用（3箇所程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の相互関係を表す叙述 ・感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述 ・象徴性や暗示性の高い表現や内容 <p>(3)推薦文（400字程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような人にお薦めの本かを想定する ・優れた叙述について <p>(4)イラスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メッセージや題材を強く意識させるもの <p>※「読書ポスター」のレイアウトも工夫</p>

段階	ポスター作成の方向性	ポスターにまとめる内容（指導事項）について	ポスターの構成要素に内容（指導事項）を組み入れる例
中学校 1学年	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本を読み、引用して紹介</div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の読書体験や、書評や広告などを見て、気になっている本や面白そうだと思う本から紹介する本を探す 	<ul style="list-style-type: none"> ウ 場面の展開や登場人物などの描写を読む <ul style="list-style-type: none"> ○言葉を手掛かりにしながら視点を定めて読む <ul style="list-style-type: none"> ・時間的、空間的な場面の展開 ・登場人物の心情や行動 ・情景描写 エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつ <ul style="list-style-type: none"> ①場面を静的にとらえて構成を理解する ②登場人物の心情の変化にそって動的にとらえて展開を把握する ③文章の種類による叙述の特徴 ④文章の印象をもつ ⑤分析的にとらえ、文章の工夫や効果について自分の考えをもつ オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くする <ul style="list-style-type: none"> ①書き手のものの見方や考え方に <ul style="list-style-type: none"> ・共感する ・疑問をもつ ・批判する ②発見した新たなものの見方や考え方や、多面的な考え方 	<ul style="list-style-type: none"> (1)キャッチコピー（20字程度） <ul style="list-style-type: none"> ・新たなものの見方や考え方や、これまでと違う視点から物事について考えられるようになった内容を反映させる (2)本文の引用（4箇所程度） <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情や行動 ・情景描写 (3)紹介文（600字程度） <ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や展開について ・表現の特徴について ・書き手のものの見方や考え方について (4)イラスト <ul style="list-style-type: none"> ・キャッチコピーや本文の引用と関連付けたイラスト <p>※「読書ポスター」のレイアウトも工夫</p>
中学校 2学年	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本を読み、内容や表現の仕方について感想交流</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「読書ボード」を活用して本の内容や表現の仕方について感想を交流する 	<ul style="list-style-type: none"> イ 文章全体と部分との関係、描写の効果、登場人物の言動の意味などを考える <ul style="list-style-type: none"> ①文章全体におけるその場面の果たす役割 ②情景や人物の描写が文章全体の雰囲気を作り上げる効果 ③登場人物の言動が、話の展開や作品全体に表れたものの見方にどのようにかかわっているか ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる <ul style="list-style-type: none"> ①表現の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・書き手の目的や意図とその効果 ・口語体と文語体、常体と敬体など ・簡潔と丁寧、断定と婉曲、中心と付加 ・描写の仕方や比喩の用い方 ②根拠となる場面や部分 エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ <ul style="list-style-type: none"> ①知識や体験と結び付けて賛否を明らかにする ②問題点を指摘する ③書き手の考え方と自分の考えを対比したり置き換えたりする 	<ul style="list-style-type: none"> (1)キャッチコピー（20字程度） <ul style="list-style-type: none"> ・書き手のものの見方や考え方への賛否や問題点、自分の考えとの対比 (2)本文の引用（4箇所程度） <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えの根拠となる叙述 (3)感想文的紹介（600字程度） <ul style="list-style-type: none"> ・文章全体におけるその場面の役割 ・情景や人物の描写の効果 ・知識や体験と結び付けた賛否や問題点 ・書き手の考え方と自分の考えの対比や置き換え (4)イラスト <ul style="list-style-type: none"> ・本の表紙や写真など ・情景や人物の描写 <p>※「読書ポスター」のレイアウトも工夫</p>
中学校 3学年	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本を読み、批評</div> <ul style="list-style-type: none"> ・対象とする作品についてよさや特性、価値などを論じたり、評価したりする ・同じ作家、類似したテーマの作品を読み比べる 	<ul style="list-style-type: none"> イ 場面や登場人物の設定をとらえる ウ 構成や展開、表現の仕方について評価する <ul style="list-style-type: none"> ①書き手の意図と表現の仕方のかわり ②語句や描写の意味や効果を評価する エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつ <ul style="list-style-type: none"> ①ある事柄について自分の立場や根拠を明確にした考えをもつ ②文章全体を受けて自分の意見をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> (1)キャッチコピー（20字程度） <ul style="list-style-type: none"> ・作品への評価 ・評価語彙 (2)本文の引用（4箇所程度） <ul style="list-style-type: none"> ・評価にかかわる語句や描写 (3)批評文（600字程度） <ul style="list-style-type: none"> ・評価語彙 ・書き手の意図と表現の仕方 ・語句や描写の意味や効果 (4)イラスト <ul style="list-style-type: none"> ・評価にかかわるイラスト <p>※「読書ポスター」のレイアウトも工夫</p>

段階	ポスター作成の方向性	ポスターにまとめる内容(指導事項)について	ポスターの構成要素に内容(指導事項)を組み入れる例
国語総合	<p>本を読み比べ、内容や表現の仕方の感想や批評</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の内容だけでなく、表現の仕方も読み比べる 生徒各自が読み比べるだけでなく、ペアやグループで読み比べて話し合ったり、発表し合ったりする 	<p>イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりする</p> <ol style="list-style-type: none"> 読み取りが恣意的なものにならないよう、文脈をとらえ、語句や表現に注意して、過不足なく理解する 目的に応じて要約する 文章の難解な部分、含蓄のある部分を詳しく説明したり解説したりする 抽象的な事柄を、具体例を示しながら説明する 同じ文章から、関連する表現や内容を取り上げて説明する <p>ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう</p> <ol style="list-style-type: none"> 人物、場面、出来事が、どのように設定され、どのように描かれているかを把握する 何が書いてあるか、どのように書いてあるか、なぜこのように書いているかにまで迫る <p>エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりする</p> <ol style="list-style-type: none"> その価値、優劣、是非などを判じる 規準や根拠を明確にする なぜこの文章を書いたのか、なぜこのように書いたのかに迫る 	<p>(1)キャッチコピー(25字程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> (3)の感想文的紹介 or 批評文を、的確に要約した内容 本の魅力 <p>(2)本文の引用(4~5箇所程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人物、場面、出来事が、どのように設定され、どのように描かれているか <p>(3)感想文的紹介 or 批評文(800字程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて要約する 文章の難解な部分、含蓄のある部分を詳しく説明したり解説したりする 抽象的な事柄を、具体例を示しながら説明する 同じ文章から、関連する表現や内容を取り上げて説明する 価値、優劣、是非を判じる 規準や根拠を明確にする なぜこの文章を書いたのか、なぜこのように書いたのかに迫る <p>(4)イラスト</p> <ul style="list-style-type: none"> 文中の情景や、そこから触発された絵 <p>※「読書ポスター」のレイアウトも工夫</p>
現代文B	<p>本を読み、人物の生き方や表現の仕方について交流</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の内容だけでなく、表現の仕方についても話し合う 生徒各自が読み比べるだけでなく、ペアやグループで話し合ったり、発表し合ったりする 	<p>ア 文章を読んで、構成、展開などを的確にとらえ、表現性を評価する</p> <ol style="list-style-type: none"> 書き出しから結びに至る文章の骨組みをとらえ、その上で、場面や人物などの設定が、その後の話の推移にどのように有機的にはたっているかを把握する 文章の構成や展開が、主題などを伝えるために果たしている効果などを分析、考察し、その価値を判じる <p>イ 文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わう</p> <ol style="list-style-type: none"> 書き手の考えや強調点を読み取る なぜ、この文章を書いたのか、なぜこのように書いたのか 人物の状況、場面の状況、心情の推移などを把握する 他の表現と置き換えた場合と比較してその効果を確認する <p>ウ 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする</p> <ol style="list-style-type: none"> 相反する立場で書かれた文章や評価の異なる文章を読み比べる 文章に表れた、ものの見方、感じ方、考え方を読み取り、人間、社会、自然などについて考察することを通して、人間観、社会観、自然観などを確立する 	<p>(1)キャッチコピー(25字程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本の魅力 書き手の考えや強調点 <p>(2)本文の引用(4~5箇所程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> 書き手の考えや強調点 人物の状況、場面の状況、心情の推移 <p>(3)感想文的紹介 or 批評文(800字程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の構成や展開、場面や人物の設定が、話の推移にどのように有機的にはたっているか 文章の構成や展開が、主題などを伝えるために果たしている効果などを分析、考察し、その価値を判じる 書き手の考えや強調点 他の表現と置き換えた場合との比較やその効果 相反する立場で書かれた文章や異なる評価との比較 自分の人間観、社会観、自然観 <p>(4)イラスト</p> <ul style="list-style-type: none"> 文中の情景や、そこから触発された絵 <p>※「読書ポスター」のレイアウトも工夫</p>
古典B	<p>文章を読み比べ、共通点や相違点などについて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 書かれた時代は異なるが、同じ題材を取り上げた文章を読み比べる 書かれた時代が同じで、同じ題材を取り上げた文章を読み比べる 古典に表れた思想や感情を具体的に考える 	<p>ウ 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする</p> <ol style="list-style-type: none"> 共感できるものや、違和感を覚えたり理解が難しかったりするもの 優れた洞察力や創造性に感動するもの <p>エ 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察すること</p> <ol style="list-style-type: none"> 理解して読み味わう <ul style="list-style-type: none"> 文章の修辞、文体などの表現の仕方の特色をとらえる 思想や感情がどのように表現されているか 巧みな描写、繊細な表現、簡潔な語調 作品の価値について考察する <ul style="list-style-type: none"> 古典の普遍的価値 その作品が現代まで読み継がれてきた意味 	<p>(1)キャッチコピー(25字程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> (3)の感想文的紹介 or 批評文を、的確に要約した内容 古典の魅力 <p>(2)本文の引用(4~5箇所程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> 共感できるものや、違和感を覚えたり理解が難しかったりするもの 優れた洞察力や創造性に感動するもの <p>(3)感想文的紹介 or 批評文(800字程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の修辞、文体などの表現の仕方の特色 思想や感情 巧みな描写、繊細な表現、簡潔な語調 古典の普遍的価値 現代まで読み継がれてきた意味 <p>(4)イラスト</p> <ul style="list-style-type: none"> 文中の情景や、そこから触発された絵 <p>※「読書ポスター」のレイアウトも工夫</p>

同一言語活動（本の紹介ポスター）の系統表例2

段階	キャッチコピー	引用（書き抜き）	本文（感想・紹介・推薦・批評）	イラスト
小学校 低学年	○すきな理由を端的に表す（20字以内）	○すきなセリフ、行動、場面 ○感じたこと経験したこと考えたことを書き添える ○書き抜いた言葉や文を関連付けて整理する（2箇所以内）	○情景や場面の様子の変化、事件の展開と解決、登場人物の性格や行動、心情の変化などと、すきな理由を自分の知識や経験、読書体験等に結び付けて書く（150字以内）	○すきな行動、場面
小学校 中学年	○感想の言葉を反映させる（20字程度） ・感想語彙	○紹介したい登場人物の言動の変化（2～3箇所程度）	○あらすじ（要約） ○場面の移り変わりから発見したこと、想像したこと（300字程度）	○作品世界を表す象徴としてとらえたもの
小学校 高学年	○お薦めの言葉を反映させる（20字程度） ・評価語彙	○登場人物の相互関係を表す叙述 ○感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述 ○象徴性や暗示性の高い表現や内容（3箇所程度）	○どのような人にお薦めの本かを想定する ○優れた叙述について（400字程度）	○メッセージや題材を強く意識させるもの
中学校 1学年	○新たなものの見方や考え方、これまでと違う視点から考えられるようになった内容を反映させる（20字程度）	○登場人物の心情や行動 ○情景描写（4箇所程度）	○文章の構成や展開について ○表現の特徴について ○書き手のものの見方や考え方について（600字程度）	○キャッチコピーや本文の引用と関連付けたイラスト
中学校 2学年	○書き手のものの見方や考え方への賛否や問題点、自分の考えとの対比（20字程度）	○自分の考えの根拠となる叙述（4箇所程度）	○文章全体におけるその場面の役割 ○情景や人物の描写の効果 ○知識や体験と結び付けた賛否や問題点 ○書き手の考え方と自分の考えの対比や置き換え（600字程度）	○本の表紙や写真など ○情景や人物の描写
中学校 3学年	○作品への評価 ○評価語彙（20字程度）	○評価にかかわる語句や描写（4箇所程度）	○評価語彙 ○書き手の意図と表現の仕方 ○語句や描写の意味や効果（600字程度）	○評価にかかわるイラスト
国語 総合	○本文を、的確に要約した内容 ○本の魅力（25字程度）	○人物、場面、出来事が、どのように設定され、どのように描かれているか（4～5箇所程度）	○目的に応じて要約する ○文章の難解な部分、含蓄のある部分を詳しく説明したり解説したりする ○抽象的な事柄を、具体例を示しながら説明する ○同じ文章から、関連する表現や内容を取り上げて説明する ○価値、優劣、是非を判じる ○規準や根拠を明確にする ○なぜこの文章を書いたのか、なぜこのように書いたのかに迫る（800字程度）	○文中の情景や、そこから触発された絵
現代文 B	○本の魅力 ○書き手の考えや強調点（25字程度）	○書き手の考えや強調点 ○人物の状況、場面の状況、心情の推移（4～5箇所程度）	○文章の構成や展開、場面や人物の設定が、話の推移にどのように有機的にはたっているか ○文章の構成や展開が、主題などを伝えるために果たしている効果などを分析、考察し、その価値を判じる ○書き手の考えや強調点 ○他の表現と置き換えた場合との比較やその効果 ○相反する立場で書かれた文章や異なる評価との比較 ○自分の人間観、社会観、自然観（800字程度）	○文中の情景や、そこから触発された絵
古典B	○本文を、的確に要約した内容 ○古典の魅力（25字程度）	○共感できるものや、違和感を覚えたり理解が難しかったりするもの ○優れた洞察力や創造性に感動するもの（4～5箇所程度）	○文章の修辞、文体などの表現の仕方の特色 ○思想や感情 ○巧みな描写、繊細な表現、簡潔な語調 ○古典の普遍的価値 ○現代まで読み継がれてきた意味（800字程度）	○文中の情景や、そこから触発された絵

マトリクス型年間指導計画表例（中学校第2学年「読むこと」光村図書）

		月																																																																																																																														
		時数（年間45～65時間）																																																																																																																														
		教科書章・教材名																																																																																																																														
		4月 明日(詩) 6 枕草子(古文) 4章3 5月 やさしい日本語(説明) 4章2 6月 扇の物語(詩) 4章2 7月 五重の塔はなぜ倒れないか(説明) 4章3 8月 旗すする絵描き・益土屋(物語・小説) 4章2 9月 旗すする絵描き・益土屋(物語・小説) 4章2 10月 アイスプラネット・字のない葉書(小説・図説) 4章4 11月 変は「最後の晚餐」を知っているか(評論) 5章3 12月 走れメロス(小説) 4章3 1月 走れメロス(小説) 3 読者の風景(漢文) 4 2月 モアイは語る(小説) 5章3 言葉の力(漢文) 2 3月 話 20 巻く40 巻く20 巻く20																																																																																																																														
		(1) 指導事項																																																																																																																														
		(2) 言語活動																																																																																																																														
		抽象的な概念を表す語句や心情を要す語句などに注意して読むこと。 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。 文章に表れているものの見方や考え方や体裁と関連付けて自分の考えをもつこと。 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。																																																																																																																														
		抽象的な概念を要す語句 心情を要す語句 全体と部分の関係 例示や描写の効果 人物の言動の意味 構成や展開について根拠を明確にして根拠を明確に もの見方や考え方について考える 適切な情報を得て考えをまとめる																																																																																																																														
		詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること。 新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること。																																																																																																																														
		その他																																																																																																																														
		言語活動工夫の視点 関連する[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] 補助教材など																																																																																																																														
		単元を貫く言語活動																																																																																																																														
4月	明日(詩) 6	枕草子(古文) 4章3	5月	やさしい日本語	説明	5月	やさしい日本語	説明	6月	五重の塔はなぜ倒れないか	評論	6月	五重の塔はなぜ倒れないか	評論	7月	旗すする絵描き・益土屋	小説	7月	旗すする絵描き・益土屋	小説	8月	旗すする絵描き・益土屋	小説	8月	旗すする絵描き・益土屋	小説	9月	アイスプラネット	小説	9月	アイスプラネット	小説	10月	変は「最後の晚餐」を知っているか	評論	10月	変は「最後の晚餐」を知っているか	評論	11月	走れメロス	小説	11月	走れメロス	小説	12月	走れメロス	小説	12月	走れメロス	小説	1月	走れメロス	小説	1月	走れメロス	小説	2月	モアイは語る	小説	2月	モアイは語る	小説	3月	モアイは語る	小説	3月	モアイは語る	小説	4月	明日	詩	4月	明日	詩	5月	やさしい日本語	説明	5月	やさしい日本語	説明	6月	五重の塔はなぜ倒れないか	評論	6月	五重の塔はなぜ倒れないか	評論	7月	旗すする絵描き・益土屋	小説	7月	旗すする絵描き・益土屋	小説	8月	旗すする絵描き・益土屋	小説	8月	旗すする絵描き・益土屋	小説	9月	アイスプラネット	小説	9月	アイスプラネット	小説	10月	変は「最後の晚餐」を知っているか	評論	10月	変は「最後の晚餐」を知っているか	評論	11月	走れメロス	小説	11月	走れメロス	小説	12月	走れメロス	小説	12月	走れメロス	小説	1月	走れメロス	小説	1月	走れメロス	小説

マトリックス型年間指導計画表例（中学校第1学年～第3学年「読むこと（説明的文章）」光村図書）

配当時数		7																	
1年時数（年間55～75時間）	教科書教材名	ちよつと立ち止まって																	
2年時数（年間45～65時間）		【説明】																	
3年時数（年間45～65時間）		【説明】は大きな根？																	
(1) 指導事項																			
語句の意味の理解	ア 文脈における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。	文脈の中での語句の意味		○															
	ア 抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。	抽象的な概念を表す語句																	
	ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。	文脈の中での語句の効果表現上の工夫																	
文章の解釈	イ 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。	段落の役割・段落の関係 中心と部分・事実と意見 要約する・要旨をとらえる		○															
	イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。	全体と部分の関係 例示や描写の効果																	
	イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。	論理の展開の仕方																	
自分の考えの形成	エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。	構成や展開について 表現の特徴について		◎															
	オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの方や考え方を広げること。	文章を読みものの見方や考え方を広げる																	
	ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。	構成や展開について 根拠を明確に 表現の特徴について 根拠を明確に																	
	エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。	文章に表れたものの見方や考え方について考える																	
	ウ 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。	構成や展開を評価する 表現の仕方を評価する																	
	エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。	人間・社会・自然などについて考える																	
	カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取る。	情報の集め方を知り、適切に読み取る																	
読書と情報	オ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。	適切な情報を得て考えをまとめる																	
	オ 目的に応じて本や文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりすること。	知識を広げ、考えを深める																	
	イ 文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと。			☆															
(2) 言語活動	ウ 課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること。																		
	イ 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること。																		
	ウ 新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること。																		
	イ 論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと。																		
	ウ 自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えること。																		
エ その他（リライト、			★																
言語活動工夫の視点																			
関連する[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]																			
補助教材など																			
単元を貫く言語活動																			

単元の学習過程と本時の学習過程 (関係イメージ) の具体例 「初習のふる日」 (小学校第3学年 光村園書)

単元の学習過程

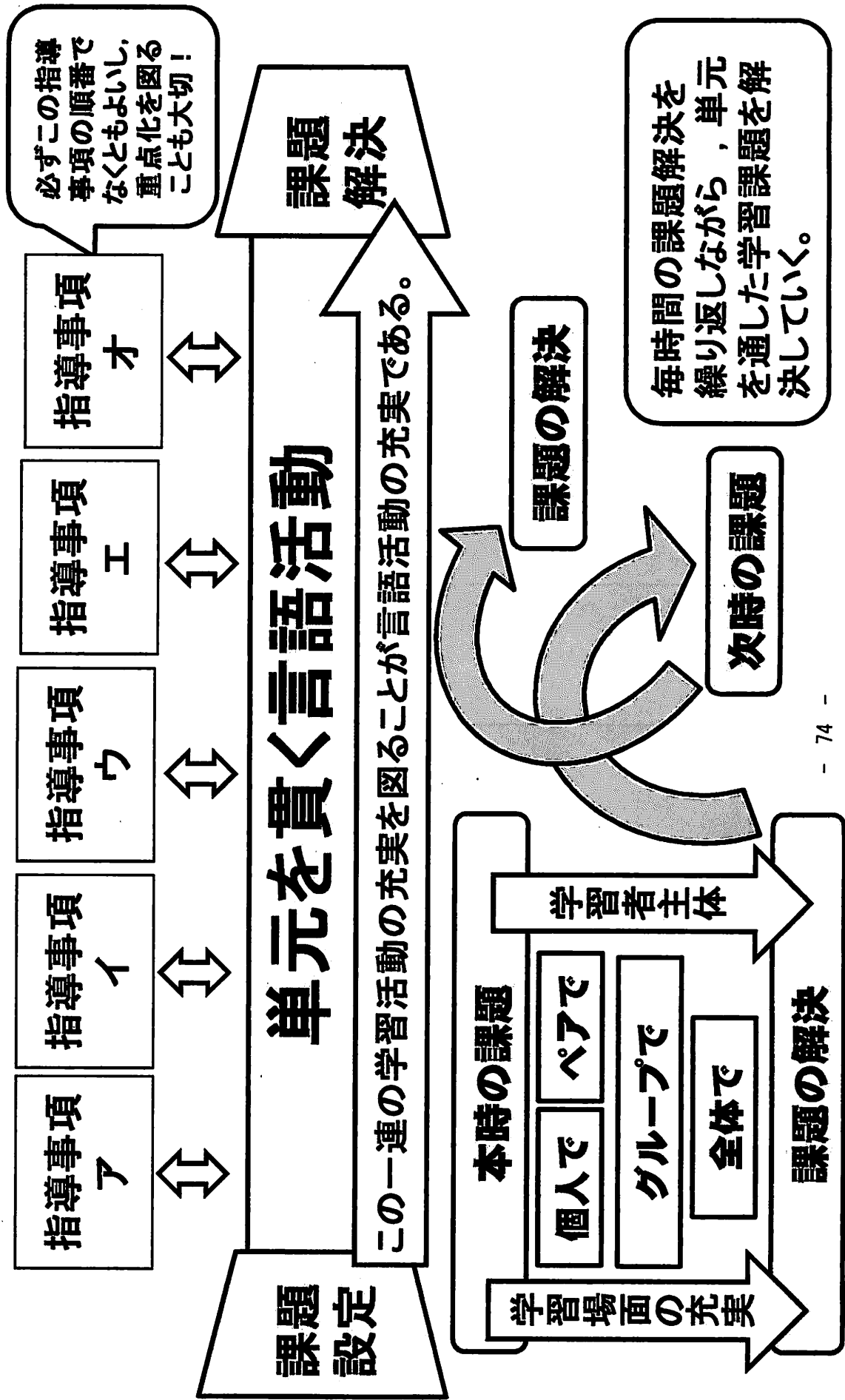
<p>単元の学習前</p> <p>■児童を単元の学習に誘う段階</p> <p>○学習材や学習内容等や自語活動</p> <p>そのものに対する興味・関心を高める</p>	<p>単元の導入 (第1次)</p> <p>■児童に単元の学習を見通させる段階</p> <p>1 読書目的を確認する</p> <p>2 表現モデル (ゴール) を確認する</p> <p>3 学習計画を立てる</p>	<p>単元の展開 (第2次)</p> <p>■主教材を読む段階 (並行読書教材を除く)</p> <p>4 目的と表現を意識して読む</p> <p>5 共通教材で表現する</p> <p>6 それぞれの表現を交流する</p>	<p>単元のまとめ (第3次)</p> <p>■自分の表現に適用する段階</p> <p>7 選択教材で表現する</p> <p>8 それぞれの表現を交流する</p> <p>9 単元の学習を振り返る</p>	<p>単元の学習後</p> <p>■教室の学びを広げる段階</p> <p>○学習成果物を掲示する</p> <p>○同学年や他学年と交流する</p> <p>○家庭や地域と交流する</p>
<p>「初習のふる日」での展開</p>				
<p>第1時～第2時</p>				
<p>○安房直子さんの紹介を掲示し、本を学級文庫に準備したうえで、朝の会等で教師がブックトークを行い、自由読書させる</p>	<p>1 目的＝安房直子さんのフアンタジ一の世界を楽しむ 手段＝ポスターで紹介し合う</p> <p>2 「白いぼうし」のポスターで、単元のゴールを知る ポスターを分析することで、読者の視点をつくる</p> <p>3 学習経験を生かして、単元の学習計画を立てる</p>	<p>4 ①読後感 (キヤッチフレーズ)、②あらすじ、③場面の移り変わりからの発見と想像・読後感とのつながり、④作品を表す数値の4つの視点で、「初習のふる日」を読む</p> <p>5 四切用紙1枚に「①匿名、②作者名、③自分の読後感を利用したキヤッチコピー、④主人公の行動を中心としたあらすじ、⑤場面の移り変わりから発見したことと感じたこと及び読後感とのつながり、⑥作品を表す数値的なイラスト」をまとめる</p> <p>6 ポスターを基に「初習のふる日」を紹介し合い、一人一人の感じ方のよさや表現のよさを学び合う</p>	<p>7 「初習のふる日」のポスターの作り方を適用して、並行読書教材でポスターを作成する</p> <p>8 それぞれのポスターで、安房直子作品を紹介し合い、一人一人の感じ方のよさや表現のよさと同時に、フアンタジ一の世界に同時に、安房直子さんのフアンタジ一について考えたことを交流しあう</p> <p>9 評価規程 (関心・意欲・態度、読む能力、言語) に関する自己評価と目標活動を通して感じたことや学んだことなどを振り返らせる (何ができたようになっただのか、何が分かったのか、今後何を知りたいのかなどをまとめさせる)</p>	<p>○児童が作成したポスターを教室や廊下、図書館などに掲示し、安房直子作品への関心を高める</p> <p>とともに、フアンタジ一作品への関心を高める</p> <p>○友だちのポスターに「いいねシール」を貼り、共感できた部分や新たに気付かされた内容にコメントを書く</p>
<p>安房直子作品を並行読書する (授業時間に児童が読書する時間を保障する)</p>				

本時の学習目標過程

<p>本時の導入</p> <p>①単元の学習過程の確認</p> <p>②本時の学習課題の確認</p> <p>③読書内容や本時の学習内容の確認</p> <p>④本時の学習過程の確認</p> <p>⑤表現モデル・活動モデルの確認 (本時のゴール)</p>	<p>「初習のふる日」での展開 (第5時)</p> <p>⑥課題に沿って読む (視点読み)</p> <p>⑦それぞれの考えの交流</p> <p>⑧読みのまとめ</p> <p>⑨読みの適用</p>	<p>⑩本時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の振り返り ・学習活動の振り返り
<p>本時の展開</p>	<p>①単元の学習計画表を使って、単元での学習位置をつかす</p> <p>②場面の移り変わりに気をつけて、「歌」について読み、読後感をもとにフアンタジ一の世界を想像しよう</p> <p>③既習内容＝「歌」に関するところにサイドライン、発見したこと・想像したことに付箋をつけた</p> <p>本時の学習内容＝場面の移り変わりから、発見したこと・想像したことを紹介カードにまとめる ⇒想像できる事柄 (尿色、季節、表情、色、気持ち、様子、感じ)</p> <p>④本時の学習過程＝交流内容を個人で確認 (5分)、グループ交流 (15分)、紹介文カードを書く (10分)、紹介したい本を読む (7分)、振り返りをする (7分)</p> <p>⑤表現モデル＝「紹介文カード」(1文目＝発見したこと、2文目＝想像したこと) ⇒ポスターの一部となる</p> <p>⑥「歌」について、発見したことや想像したことをまとめながら読む</p> <p>水色付箋 (＝発見したこと) やピンク付箋 (想像したこと) を関連付けて考える</p> <p>⑦「交流のコツ」 (教室掲示) を使って交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「～って思うけど、どう？」 ・ゆっくりにっまり説明する ・分からないことは質問する <p>⑧紹介文カードを書く</p> <p>教師の提示したモデルを参考にしながら、自分の読みをまとめる</p> <p>⑨並行読書教材 (安房直子作品) を読む</p> <p>想像したことをピンク付箋に書いて本に貼りながら読む</p> <p>⑩学習内容に関する振り返りをする＝「歌」について、読後感をもとにどんなことを想像したのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「交流ではこんなことを言っていたけれど、自分ではこう思った」 ・「交流ではこんなことが出て、自分ではこんなことを想像した」 	<p>【導入】</p> <p>学習内容 (何を) と学習活動 (どのように学ぶのか) の確認</p> <p>【展開】</p> <p>学習形態の工夫 児童主体の学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人で学ぶ ○ペア・グループで学ぶ ○全体で学ぶ <p>【まとめ】</p> <p>学習内容と学習活動の自分にとっての意義を振り返る</p>

<p>五十分</p> <p>児童が確認する</p> <p>教師が説明する</p>	<p>二十五分</p> <p>児童が主体となって進める</p> <p>教師は学び方を指導する</p>	<p>五十分</p> <p>学んだ内容を全体で交流する</p>
--	--	---------------------------------

単元を貫く言語活動を位置付けるとは？



交流充実のための手立て

1. 司会の進め方

【グループ交流はパブリックに！】

グループ交流と「学び合い」における指導は、区別する必要があります。特に、国語科におけるグループ交流は、日常的会話と区別し、公の場での意見交流の在り方を指導すべきです。

(1) 役割を分担する。

「司会は〇〇、記録は〇〇、計時係は〇〇、発表者は〇〇です。」

(2) 課題と交流の方向性を確認する。

「これから～のことについて話し合いを始めます。」

「この話し合いは、考えをひとつにまとめる（考えを深め合う）ために行います。」

(3) 交流時間を確認する。

「話し合いの時間は〇分間です。」

(4) 意見を出し合い、分類・整理する。

「どんな意見があるか言ってください。」

① 意見を引き出す

「〇〇さんと同じ(似た)意見の人はいませんか。」

「〇〇さんの意見に付け足しの人はいませんか。」

「今の意見に意見や質問はありませんか。」

「～から、思いつく意見はありませんか。」

「近くの友だちと相談してください。」

「〇〇さんの意見を聞かせてください。」

② 意見を広げる・深める

「他に意見はありませんか。」

「なぜ、そう考えたのですか。」

「～について、もう少し詳しく教えてください。」

③ 意見を整理する

「今までに出た意見を整理します。」

「〇〇と△△の意見は似ているので、ひとつにまとめていいですか。」

「一番、～な考えはどれでしょう。」

「つまり、～ということですか。」

④ 意見の方向を修正する

「もう一度、交流の目的を確認します。」

「みんなが、～する意見を出してください。」

(5) 意見をまとめる

「時間になったので、みんなの意見をまとめます。」

「どの意見が似ていますか。意見を〇つに絞りたいと思います。」

「どの意見がいいですか。わけも言ってください。」

「それでは、～ということに決めていいですか。」

「～が一番多いので、～でもいいですか。」

【質問の例】

(1) 話した内容を明確にするための質問

「～とは、どういう意味ですか。」

「～とは、～という意味ですか。」

「～と考えたのは、なぜですか。」

「～については、どう考えますか。」

(2) 自分の意見の深化のための質問

「私は、～と思うのですが、どうですか。」

「～は～とも考えられますが、どう思いますか。」

「どのようにすると、～について考えが深まると思いますか。」

*平成23年度 京都市立御所南小学校の実践を基に作成

2. 司会力育成のポイント

- (1) タイムスケジュールを考えさせる。
- (2) セリフを考えさせる。
- (3) 決定方法を考えさせる。(協議, 挙手, 拍手…)
- (4) マニュアルを準備する。(徐々に見ないようにし, 最終的に即興でできることを目指す)
- (5) 人の話し方を真似させる。
- (6) 友だちの意見を受け入れさせる。
(なるほど, そうですね, わかりました, どうぞ, ありがとうございます…)
- (7) 経験を積みませ, 慣れさせる。
- (8) 進行を相談できる副司会をおく。

*井上一郎著『話す力・聞く力の基礎・基本』(明治図書) P73~90 参照

3. 記録用紙の工夫(記録係への指導)

- (1) ナンバリングに基づく記録…事項ごとに番号を付けながら記録する。
- (2) 時間進行に基づく記録…時間の進行に基づいて, 事項ごとに記録する。
- (3) 対比チャート…内容を大きく2つに分けて対比しながら記録する。
- (4) 座標軸…座標軸を活用して事項を分類整理しながら記録する。
- (5) 多角形チャート…話した人ごとにまとめるなど, 三角形, 四角形…に対比しながら記録する。
- (6) ツリーチャート…上位と下位の関連, 本流と派生の関連, 抽象と具体の関連など, 関係するものを分類整理して記録する。

*井上一郎著『話す力・聞く力の基礎・基本』(明治図書) P57~60 参照

4. 質問力を高める

- (1) 話した内容を明確にするための質問(的確性, 妥当性, 正確性, 客観性, 現実性…など)
- (2) 自分の意見の深化のための質問(サポート的, アドバイスの, 論理的思考を促す質問…など)

5. 全体(学級)交流の充実の工夫

- (1) 発表ボードを活用して交流を充実させる。
(同じ内容を繰り返さない, 一斉に掲示する, 児童生徒に分類させる, 児童生徒に説明させる, 発表ボードを掲示した後に意見を述べさせる…)
- (2) 氏名カードを活用して一人一人の立場を明確にさせながら交流する。

思考力・判断力・表現力向上のための手立て

1. 言語活動モデルの工夫

- (1) 単元を貫く言語活動のモデルに指導事項をちりばめる。
- (2) 学習場面における言語活動の充実を図るため, 話し合いのモデル, 発表のモデル等も工夫する。

2. ワークシートの工夫

- (1) 思考操作や言語操作を示したワークシートを準備する。
- (2) 思考や表現をするために必要な知識を示したワークシートを準備する。
- (3) 児童生徒が表現するための条件を整理して提示する。

3. 言語環境(教室掲示)の整備

- (1) 児童生徒が主体的に学習できる教室掲示を整備する。
(司会の進め方, 質問の仕方, 発表の仕方, 意見の出し方, 語彙集, 思考操作, 言語操作…など)
- (2) 学習に必要な図書を教室に整える。

単元の評価計画例

中学校第1学年 報道記事で紹介する「竹取物語」の場合の例（「Ⅱ 資料編 p33～34」）

【児童生徒ごと・単元の観点別評価表】(例) ⇒ 個人への支援・指導に利用する。児童生徒、保護者に学習改善を促すための評価シート。

第1学年 〇組 〇番・氏名 〇〇 〇〇

評価の観点	単元の評価規準	学習活動に即した評価規準	評価材料・方法	評価	総括
国語への関心・意欲・態度	☆報道記事で紹介するという目的をもって、古典の世界に触れ、自分が紹介したい事件や場面を選び、想像力を働かせて報道記事にまとめようとしている。	○報道記事で紹介するという目的をもって『竹取物語』を読もうとしている ○自分が紹介したい事件や場面を選び、想像力を働かせて報道記事にまとめようとしている。 ○感想交流を通して古典への関心を高め、古典の世界に触れようとしている。	振り返りカード 観察 ワークシート 観察 振り返りカード 観察	A B C A B C A B C	A B C
	☆報道記事にまとめるために、場面の展開や登場人物などの描写や会話に注意し、叙述を基に想像して読み、内容の理解に役立っている。(C-ウ)	○報道記事にまとめるために、場面の展開に注意し、叙述を基に想像して読み、内容を理解している。 ○報道記事にまとめるために、登場人物の描写に注意し、叙述を基に想像して読み、内容を理解している。 ○報道記事にまとめるために、登場人物の会話に注意し、叙述を基に想像して読み、内容を理解している。	ワークシート ペーパーテスト ワークシート ペーパーテスト ワークシート ペーパーテスト	A B C A B C A B C A B C A B C A B C	A B C
読む能力	☆報道記事にまとめるために、古文から必要な情報を読み取っている。(C-カ)	○報道記事にまとめるために、古文から必要な情報を読み取っている。 ○文語のましまりを理解している。	ワークシート ペーパーテスト	A B C A B C	A B C
	☆文語のましまりを知り、古典特有のリズムを味わいながら、古文を音読する力。(伝ア(7))	○古典特有のリズムを味わいながら、古文を音読している。 *個人内評価等を記載する。(過去と現在の比較、個人内の特性など) *児童生徒が自身のよい点や可能性に気付くような内容を記載する。	ワークシート ペーパーテスト 観察 実演	A B C A B C A B C A B C	A B C
言語についての知識・理解・技能(※高等学校では「知識・理解」)	特記事項				

※「A・B・C」の評価に○を付けることで個人の傾向をつかみやすい。

【学級ごと・単元の観点別評価表】(例) ⇒ 学級全体の傾向から、教師が授業改善に利用するための評価シート。

評価の観点	国語への関心・意欲・態度		読む能力				言語についての知識・理解・技能			特記事項		
	単元の評価規準	総括	ウ	エ	オ	カ	ア	イ	ウ			
No.	児童生徒名											
1	〇〇〇〇	☆報道記事で紹介するという目的をもって、古典の世界に触れ、自分が紹介したい事件や場面を選び、想像力を働かせて報道記事にまとめようとしている。	〇古典の世界に触れようとしている。	〇報道記事にまとめようとしている。	〇目的をもって読もうとしている	☆報道記事にまとめるために、場面の展開や登場人物などの描写や会話に注意し、叙述を基に想像して読み、内容の理解に役立っている。(C・ウ)	☆報道記事にまとめるために、古文から必要な情報を読み取っている。(C・カ)	☆文語のきまりを知り、古典特有のリズムを味わいながら、古文を音読する力。(伝ア)	〇リズムを味わいながら、音読している。	〇文語のきまりを理解している。	実演 観察 ペーパーテスト	A A A A A
2	〇〇〇〇											B C C C C
3	〇〇〇〇											B C C C C
4	〇〇〇〇											B C C C C
5	〇〇〇〇											B C C C C

※「A・B・C」を記入することで学級全体の傾向をつかみやすい。

※「A・B・C」の総括の考え方は、国立教育政策研究所『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』を参照すること。

※高等学校では「知識・理解」

特記事項
*個人内評価等を記載する。(過去と現在の比較、個人内の特性など)
*児童生徒が自身のよい点や可能性に気付くような内容を記載する。

単元構想表の書き方

〇〇校第〇学年単元構想（発行者名；「教材名」）

日付

作成者 所属・氏名

【児童・生徒の実態】

【身に付けさせたい力】

- この単元で身に付けさせたい力に関わって、何が身に付いていて、何が身に付いていないのか。
- この単元における身に付けさせたい力や言語活動に関わって、どのような学習歴があり、その結果どうだったのか。（学習の様子や学習の結果）
- この単元で児童生徒にプラスしたいものは何か。

- ◎「読むこと」の目標：どんな目的や意図に応じて
- どんな能力を身に付けさせるのか（内容の記号）
- 内容すべてではなく、本単元で取り上げる中心となる内容を取り上げる

【単元を貫く言語活動】

言語活動例を参考にしながら、この単元における言語活動を具体的にまとめる。

【言語活動の特徴】

- 取り上げた言語活動の一般的な特徴を説明する。
- 構想者が創意工夫を凝らして考えた言語活動であれば、その言語活動について読者が理解できるようにその様式や内容について説明する。
- 言語活動の特徴や様式・内容が身に付けさせたい力を付ける上で、どのように有効なのか説明する。
- 言語活動の特徴や様式・内容と身に付けさせたい力との関連から、どのように指導したいのか説明する。

1. **単元名** ○教科書単元にとらわれず、児童生徒の実態や興味・関心、身に付けさせたい力から単元名を付けること。
- 言語活動と身に付けさせたい言語能力をミックスさせて考える。
 - 児童生徒が理解できる表現とし、単元名は児童生徒にも示す。

2. **単元の目標** この単元の学習を終えた時に、児童生徒がどのような姿になっていけばよいのかを想定して、文末表現を「～できる」という形で表す。

3. 単元の評価規準

- 「読むこと」の単元では、【国語への関心・意欲・態度】、【読む能力】、【言語についての知識・理解・技能】⇒高等学校では【知識・理解】の3観点は必ず設定すること。
- 複合単元とする場合に、【話す・聞く能力】や【書く能力】を加える場合もある。
- 国立教育政策研究所「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」を参考として設定する。
- 「指導事項×言語活動」で、具体的に設定する。

（例）小学3・4年 書くこと

指導事項イ 「～段落相互の関係などに注意して文章を構成すること」

言語活動例イ 「疑問に思ったことを調べて報告する文章～」

評価規準 △段落相互の関係などに注意して、「はじめ—中—おわり」の文章構成を考えている。（不十分）

- 「調査目的や方法—調査結果—そこから考えたこと」など、調査報告文の構成上の特徴を踏まえて、構成を考えている。

4. **教材** 共通教材、並行読書教材等、この単元で使用する教材名を記す。
並行読書教材等は、可能な限り出版社名等も記す。

5. 単元の展開 (全 ○ 時間)

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント (○) 学習活動に即した評価規準 (関・読・言) 等
第0次		○すべての単元に位置付ける必要はないが、児童生徒を単元の学習に誘う段階として工夫が求められる。 ○単元の学習に入る前に、単元の言語活動や学習材について児童生徒の興味・関心を高めたり、学習内容について考えさせたり予備知識をもたせたりすることが考えられる。	
第1次	第1時	<u>1</u> 読書目的を確認したり、 <u>2</u> 表現モデルを分析したりする。 ○単元の導入にあたる。児童生徒の興味・関心を高める工夫や、児童生徒に単元の学習過程や学習のゴールを見通させる工夫が求められる。 <u>3</u> 単元の学習計画を立てる。 ○必要に応じて単位時間を設定する。	<input type="checkbox"/> 特に、【関心・意欲・態度】は、本時の評価規準として設定したい。 ○言語活動のモデルが重要である。 ☞モデルの質が言語活動充実の決め手 教師が自分の知識・技能や経験のみに頼って作成するのではなく、本や新聞、プロのアナウンサーや役者など、実社会で評価されているものを手本として、子どもの実態に合わせてモデルを作成することが望ましい。実社会からモデルとなる表現を子ども自身が探す工夫も考えられる。 ☞大切なのは単元を貫いていること 例えば、「感想を読書会で交流しよう」という言語活動を設定したとする。モデルを示すとすれば「読書会のモデル」である。しかし、「感想の書き方」をモデルとしている授業に出会うこともある。
	第2時 第3時 第4時 第5時	<u>4</u> 目的と表現を意識して読んだり、 <u>5</u> 自分で表現したり、 <u>6</u> 交流したりする。 ○目的を意識して読むことや、読みの視点に従って読むこととなる。読みの視点は、指導事項からも設定できる。(中学2年の例＝例示や描写、言動の意味、構成や展開、表現の仕方…) ○段落ごと詳細に読んでいく指導が多く見受けられたが、必ずしも第一段落から最終段落まで順番に詳細に読み取っていくことが読解力を高める指導とはならない。 ○個性を生かした表現となるような指導の工夫として、語彙(評価・判断を表す言葉、感情を表す言葉…)や文末表現(事実、考察、意見…)の使い分け、レトリックなどの指導の充実が考えられる。 ○グループや個人で表現したものを検討する。「目的が何であったか、表現者の意図と表現の結びつきはどうか、読みの視点の確かさはどうか、表現のよさがどこにあるか」等について意見を交流させたい。	<input type="checkbox"/> 【関心・意欲・態度】や【読む能力】、【言語についての知識・理解・技能】を本時の評価規準として設定する。 <input type="checkbox"/> 必ずしも、毎時間すべての観点を設定する必要はない。 <input type="checkbox"/> 単元の評価規準をそのまま設定したり、単元の評価規準を分割したり具体化したりして設定する。 ○第3次の言語活動につながる並行読書をさせることが考えられる。 ○内容と形式の両面を読むことに留意したい。 ○学級全体で教師が中心となって子どもの発言をつなげるような交流ではなく、ペアやグループで、子どもどうしで充実した交流ができるように指導を工夫する必要がある。 ○「何を明らかにするか(交流の視点)、協議か討論か(意見をひとつにまとめるか複数に分類するか)」、「交流後にどのように発表するか、司会や記録などの役割分担をどうするか」を明確にする。 ○交流のモデルを示すことも工夫の一つとなる。
第3次	第1時 第2時	<u>7</u> 自分の好きなもので表現したり、 <u>8</u> みんなと交流したり、 <u>9</u> 学習を振り返ったりする。 ○「何を学んだか、上手く表現できたか、今後の読書生活に生かしたいことや継続して考えたいことは何か、分からなかったこと・できなかったことは何か」等の成果や課題を確認する。	<input type="checkbox"/> 単元の構想にふさわしく、【関心・意欲・態度】や【読む能力】、【言語についての知識・理解・技能】を本時の評価規準として設定したい。 ○自分の力をさらに高め、実生活に生きてはたらく力に結び付けることができるように工夫する。 ○交流の際は、ペアやグループ編成を変えることも考えられる。 ○次単元への課題を明らかし、学びの連続性を意識する。
	第4次	○すべての単元に位置付ける必要はないが、児童生徒の国語に対する興味・関心を高めたり、実社会に役立つ有用感を味わわせたりする段階として工夫が求められる。 ○学級の学びを同学年や他学年に広げたり、家庭や地域に広げたりすることが考えられる。大切なのは発信するだけでなく、受け手の感想など学習に対する評価を、児童生徒にフィードバックすることである。	

○この研究では、単元の段階を3段階と考え、単元の導入を第1次、単元の展開を第2次、単元の終末を第3次と呼ぶこととする。これに付け足して、単元の学習(授業)に入る前段階を第0次、単元の学習(授業)後あるいは発展的段階を第4次と呼ぶこととする。

【引用文献】

- 井上一郎 (2008), 『話す力・聞く力の基礎・基本』, 明治図書
- 京都市立御所南小学校 (2011), 『学校大好き！コミュニティ・スクール』, 御所南コミュニティ
- 京都市立御所南小学校 (2010), 『学校大好き！コミュニティ・スクール』, 御所南コミュニティ
- 水戸部修治 (2013), 「単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくり」(初等教育資料5月号 p52~55), 東洋館出版社
- 文部科学省 (2008), 『小学校学習指導要領解説総則編』, 東洋館出版社
- 文部科学省 (2008), 『中学校学習指導要領解説総則編』, ぎょうせい
- 文部科学省 (2009), 『高等学校学習指導要領解説総則編』, 東山書房
- 文部科学省 (2008), 『小学校学習指導要領解説国語編』, 東洋館出版社
- 文部科学省 (2008), 『中学校学習指導要領解説国語編』, 東洋館出版社
- 文部科学省 (2010), 『高等学校学習指導要領解説国語編』, 教育出版

【参考文献】

- 井上一郎 (2013), 『記述力がメキメキ伸びる！小学生の作文技術』, 明治図書
- 井上一郎 (2013), 『思考力・読解力アップの新空間！学校図書館改造プロジェクト』, 明治図書
- 井上一郎 (2010), 『言語活動例を生かした授業展開プラン 低学年』, 明治図書
- 井上一郎 (2010), 『言語活動例を生かした授業展開プラン 中学年』, 明治図書
- 井上一郎 (2010), 『言語活動例を生かした授業展開プラン 高学年』, 明治図書
- 井上一郎 (2009), 『知識・技能を活用した言語活動の展開』, 明治図書
- 井上一郎 (2008), 『話すこと・聞くことの基本の能力の育成』, 明治図書
- 井上一郎 (2008), 『話す力・聞く力の基礎・基本を育てる—小学校—上巻』, 明治図書
- 井上一郎 (2008), 『話す力・聞く力の基礎・基本を育てる—小学校—下巻』, 明治図書
- 井上一郎 (2007), 『読む力の基礎・基本—17の視点による授業づくり—』, 明治図書
- 井上一郎 (2005), 『誰もがつけたい説明力』, 明治図書
- 井上一郎 (2005), 『「読解力」を伸ばす読書活動』, 明治図書
- 井上一郎 (2002), 『文学の授業力をつける』, 明治図書
- 井上一郎 (2002), 『ことばが生まれる—伝え合う力を高める表現単元の授業の作り方—』, 明治図書
- 上條晴夫 (2009), 『ワークショップ型授業で国語が変わる 小学校』, 図書文化
- 上條晴夫 (2008), 『ワークショップ型授業で国語が変わる 中学校』, 図書文化
- 上條晴夫 (2007), 『ワークショップ型授業が子どものやる気を引き出す』, 学事出版
- 樺山敏郎 (2013), 『実践ナビ！言語活動のススメ モデル 30』, 明治図書

国立教育政策研究所 (2011), 『評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校国語】』, 教育出版
 国立教育政策研究所 (2011), 『評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校国語】』, 教育出版
 国立教育政策研究所 (2012), 『評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校国語】』, 教育出版
 富山哲也 (2013), 『〈単元構想表〉が活きる! 中学校新国語科授業&評価 GUIDE BOOK』, 明治図書
 富山哲也 (2011), 『〈単元構想表〉でつくる! 中学校新国語科授業 START BOOK 第1学年』, 明治図書
 富山哲也・杉本直美 (2011), 『〈単元構想表〉でつくる! 中学校新国語科授業 START BOOK 第2学年』, 明治図書
 富山哲也・三浦登志一 (2011), 『〈単元構想表〉でつくる! 中学校新国語科授業 START BOOK 第3学年』, 明治図書
 西辻正副 (2013), 『国語の授業を変える2 評価規準をどう生かすか 高校国語総合編』, 明治書院
 二瓶弘行 (2011), 『二瓶弘行の国語授業のつくり方』, 東洋館出版社
 二瓶弘行 (2011), 『二瓶弘行の「物語 授業づくり 一日講座」』, 文溪堂
 二瓶弘行 (2010), 『二瓶弘行の「説明文一日講座」』, 文溪堂
 水戸部修治 (2013), 『小学校国語科授業&評価パーフェクトガイド』, 明治図書
 水戸部修治 (2011), 『小学校国語科言語活動パーフェクトガイド 1・2年』, 明治図書
 水戸部修治 (2011), 『小学校国語科言語活動パーフェクトガイド 3・4年』, 明治図書
 水戸部修治 (2011), 『小学校国語科言語活動パーフェクトガイド 5・6年』, 明治図書
 水戸部修治・鯨井幹夫 (2011), 『小学校 新学習指導要領の授業 国語科実践事例集1・2年』, 小学館
 水戸部修治・鯨井幹夫 (2011), 『小学校 新学習指導要領の授業 国語科実践事例集3・4年』, 小学館
 水戸部修治・鯨井幹夫 (2011), 『小学校 新学習指導要領の授業 国語科実践事例集5・6年』, 小学館
 盛岡市立城南小学校 (2011), 『平成23年度国語科授業実践記録集』, 城南小学校
 盛岡市立月が丘小学校 (2012), 『平成24年度学校公開研究会 研究紀要』, 月が丘小学校
 盛岡市立見前南中学校・盛岡市立永井小学校・盛岡市立見前南小学校 (2013), 『学校公開研究会 研究紀要』, 見前南中・永井小・見前南小
 安居總子・東京都中学校青年国語部会 (2005), 『中学校の読書指導 読書生活者を育てる』, 東洋館出版社
 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 (2013), 『思考力・判断力・表現力等を育成する指導と評価Ⅲ』, 学事出版
 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 (2012), 『思考力・判断力・表現力等を育成する指導と評価Ⅱ』, 学事出版
 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 (2011), 『思考力・判断力・表現力等を育成する指導と評価Ⅰ』, 学事出版
 横浜市小学校国語教育研究会 (2010), 『小学校国語 豊かな言語活動を図る単元の構想』, 東洋館出版社
 横浜市立白幡小学校 (2013), 『平成25年度研究発表会 研究概要パンフレット』, 白幡小学校
 横浜市立白幡小学校 (2011), 『平成23年度PSY研究発表会 研究紀要』, 白幡小学校
 横浜市立並木中央小学校 (2012), 『国語 言語活動 実践アイデア集』, 小学館
 横浜市立並木中央小学校 (2012), 『研究紀要 第7号』, 並木中央小学校

おわりに

このガイドブックは、総合教育センターの平成 25 年度研究「学習指導要領を具体化する小・中・高等学校国語科の指導法に関する研究—学びの連続性を考慮し、単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくり—」の成果物として発行するものです。

学習指導要領国語科改訂の趣旨に「実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けることに重点を置いた授業改善を図ること」とあり、具体的な内容として「社会生活に必要とされる発表、討論、解説、論述、鑑賞などを行う能力の育成を重視すること」や「言語活動を通して指導事項を指導すること」など、授業改善の方向性が示されています。このことについて、全国的に学習指導要領を具体化する授業についての研究や実践が広がりつつあり、本県においても同じような状況にあるものの、その研究や実践が十分であるとは言い切れません。特に、児童生徒の 12 年間の学びの連続性の意識や、単元を貫く言語活動の充実についての理解には、まだまだ課題があると感じています。

このような状況を改善するには、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業についての理論と実践例をまとめることにより、目指すべき授業像や授業づくりの手法についての理解を広めていく必要があると考えました。そこで、この研究では、学習指導要領や先行研究等を基に、小学校、中学校、高等学校の指導の連続性や単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくりに視点を当てた「学習指導要領を具体化する小・中・高等学校国語科の授業づくりガイドブック」を作成し、研修講座や研修会及び、校内授業研究会等での活用を促進することによって、小・中・高等学校国語科の授業改善に役立てようとするものです。

この研究は、指導主事 1 名、小学校教諭 3 名、中学校教諭 3 名、高等学校教諭 3 名、計 10 名の共同研究員とともに進めました。協力いただいたすべての先生方と所属するすべての学校に深く感謝申し上げます。共同研究員の先生方には、このガイドブックに示した理論の基に単元開発と授業実践をしていただきました。理論の完成が遅くなったため、理論のすべてを実践に反映できない部分もありましたが、その成果を本日の平成 25 年度岩手県教育研究発表会国語分科会で発表します。時間的に間に合わず、「Ⅱ 実践編」には今回は掲載できませんでしたが、このガイドブックの実践例として発表資料をご覧いただきたいと思えます。

また、このガイドブックには、文部科学省前教科調査官の井上一郎先生や、文部科学省教科調査官の水戸部修治先生、富山哲也先生の講義・講演や書籍等から複数年・複数回にわたって学んだ内容が色濃く反映されています。3 名の先生方のご指導に厚くお礼申し上げます。

このガイドブックは、「平成 25 年度版」とあるように、まだまだ研究の途中であり、今後も諸方面の方々からの疑問や意見をお聞きしながら、小・中・高等学校の先生方が活用しやすく日常の授業づくりの参考にできるように改訂を重ねていく所存です。

平成 25 年度版 学習指導要領を具体化する小・中・高等学校国語科授業づくりガイドブック
子どもにとって魅力ある単元をつくる 「読むこと」編

発 行 岩手県立総合教育センター 教科領域教育担当

〒025-0395 岩手県花巻市北湯口 2-82-1

☎0198-27-2735

発行日 平成 26 年 2 月 14 日

